令和７年度
救急搬送実態調査結果

令和８年３月

千葉県健康福祉部医療整備課

目次

調査の概要 **1**

１．調査の目的 3
２．調査内容 3
（１）調査対象 3
（２）調査項目 4
（３）調査方法 7
（４）調査結果の概要 10
①千葉県全件の分析概要 10
②前回調査との比較 12
③二次保健医療圏別・ＭＣ圏別・消防機関別 16
④疾病分類別分析 19
⑤搬送困難事案分析 21
⑥実施基準の運用状況 22

Ⅰ．千葉県全件の分析概要 **25**

Ⅰ．１　性別、年齢 27
Ⅰ．２　昼：6 時～18 時、夜：18 時～翌 6 時別 31
Ⅰ．３　平日・土日祝日別 32
Ⅰ．４　傷病程度別 33
Ⅰ．５　事故種別 40
Ⅰ．６　心肺停止 41
Ⅰ．７　覚知から病院収容までの時間 42
Ⅰ．８　覚知から現場到着までの時間 45
Ⅰ．９　現場到着から現場出発までの時間 48
Ⅰ．10　現場出発から病院収容までの時間 51
Ⅰ．11　医療機関交渉回数 54
Ⅰ．12　搬送先医療機関種別 58
Ⅰ．13　ドクターヘリ要請 62
Ⅰ．14　近隣市町村への応援 62

Ⅱ．前回調査との比較 **63**

Ⅱ．１　性別・年齢 65
Ⅱ．２　覚知の昼：6 時～18 時、夜：18 時～翌 6 時別 67
Ⅱ．３　平日、土曜、日曜および祝日別 68
Ⅱ．４　傷病程度 69
Ⅱ．５　事故種別 70
Ⅱ．６　覚知から病院収容までの時間 72
Ⅱ．７　現場到着から現場出発までの時間 73
Ⅱ．８　医療機関交渉回数 74
Ⅱ．９　搬送先医療機関種別 75
Ⅱ．10　二次保健医療圏区分 76
Ⅱ．11　二次保健医療圏内の患者収容状況 77
Ⅱ．12　ＭＣ圏区分内の患者収容状況 78
Ⅱ．13　心肺停止 79
Ⅱ．14　入院の有無 80

Ⅱ．15　転帰 81
Ⅱ．16　患者背景因子 82
Ⅱ．17　救急隊による判断傷病名Ａ 83
Ⅱ．18　救急隊による判断傷病名Ｂ 84
Ⅱ．19　搬送困難事案区分 86
Ⅱ．20　実施基準の活用状況 87
Ⅱ．21　実施基準を活用しなかった理由 88
Ⅱ．22　分類基準 89

Ⅲ．二次保健医療圏別・ＭＣ圏別・消防機関別 91

Ⅲ．１　搬送者の二次保健医療圏・ＭＣ圏 93
Ⅲ．２　搬送者の傷病程度 94
Ⅲ．３　搬送者の年齢 96
Ⅲ．４　覚知から病院収容までの時間 98
（１）全体 98
（２）傷病程度別 100
（３）覚知の昼：6 時～18 時、夜：18 時～翌 6 時別 112
Ⅲ．５　覚知から現場到着までの時間 118
Ⅲ．６　現場到着から現場出発までの時間 120
Ⅲ．７　現場出発から病院収容までの時間 122
Ⅲ．８　医療機関交渉回数 127
Ⅲ．９　搬送先（圏内・圏外）区分別搬送 146
（１）全体 146
（２）傷病程度別・搬送先医療圏区分別搬送 153
（３）覚知の昼夜間別・搬送先医療圏区分別搬送 158
（４）消防機関別の覚知が夜間かつ重症者の搬送先医療圏区分別搬送 162
Ⅲ．10　搬送先医療機関種別に分類した搬送 163
Ⅲ．11　搬送者の入院の有無及び入院患者の転帰状況 165

Ⅳ．疾病分類別分析 171

Ⅳ．１　救急隊による判断傷病名 173
Ⅳ．２　傷病程度 175
Ⅳ．３　覚知から病院収容までの時間 177
Ⅳ．４　現場到着から現場出発までの時間 179
Ⅳ．５　医療機関交渉回数 181
Ⅳ．６　搬送先医療機関種別 183
Ⅳ．７　特定疾患別詳細分析 185
（１）外傷 185
（２）急性冠症候群（傷病程度：軽症を除く） 194
（３）大動脈疾患（傷病程度：軽症を除く） 197
（４）脳血管疾患（傷病程度：軽症を除く） 200
（５）熱傷（傷病程度：軽症を除く） 203
（６）中毒（傷病程度：軽症を除く） 206
（７）指趾切断・不全断裂（傷病程度：全てを対象） 209
（８）精神科疾患 212
（９）心肺停止（傷病程度：全てを対象） 218
(10) 消化管出血（傷病程度：軽症を除く） 221
(11) 周産期に伴う疾患（傷病程度：軽症を除く） 224
(12) 眼科疾患（傷病程度：全てを対象） 227

（13）耳鼻科疾患（傷病程度：全てを対象） 232
（14）新型コロナウイルス（傷病程度：全てを対象） 237
Ⅳ．８　緊急性の有無別にみた救急隊による傷病程度と判断傷病名 240

Ⅴ．搬送困難事案分析 245

Ⅴ．１　搬送困難事案の割合 247
Ⅴ．２　搬送困難事案の傷病程度別搬送 255
Ⅴ．３　重症患者の転帰状況 256

Ⅵ．実施基準の運用状況 259

Ⅵ．１　実施基準の活用状況 261
Ⅵ．２　覚知から病院収容までの時間 266
Ⅵ．３　現場到着から現場出発までの時間 267
Ⅵ．４　医療機関交渉回数 270
Ⅵ．５　分類基準 273
Ⅵ．６　傷病程度が重症かつ入院した事例の転帰状況 274
Ⅵ．７　搬送先医療機関種別 276
Ⅵ．８　実施基準を活用しなかった理由 279
Ⅵ．９　実施基準との整合性 286
Ⅵ．10　中等症・重症患者の分類基準別病院への搬送状況 288

調査実施要領・調査票 295

１．調査実施要領 297
２．調査様式 308
救急搬送実態調査票【消防機関用】 308
救急搬送実態調査票【医療機関用】 309
救急搬送実態調査票【夜急診用】 310
３．疾病分類表 311

調査の概要

１．調査の目的

消防機関が回答した搬送に関する情報と、医療機関が回答した救急搬送後の傷病者の転帰情報をあわせて総合的に調査・分析することにより、県内救急搬送の実態を把握するとともに、「傷病者の搬送及び受入れの実施に関する基準」（以下、「実施基準」という。）の見直しに向けての基礎データとして活用する。

２．調査内容

（１）調査対象

令和７年10月に千葉県内で発生した救急搬送事例について、県内消防機関（31機関）、医療機関（168機関）及び夜間休日急病診療所（19機関：以下、夜急診）に照会した。

また、各調査対象機関は、その所在地から二次保健医療圏と地域メディカルコントロール協議会区分（以下、ＭＣ圏）を割り当て、各圏域別に集計して分析する。

（２）調査項目

県から各機関別に送付した調査実施要領における調査項目は以下のとおり。

【消防機関用調査】

表１　消防機関の調査項目一覧

調査項目	備考
1 発生年月日	記入式【2025/〇/〇】
2 覚知時刻（入電時刻）	選択式【〇：〇】※24 時間表記
3 現場到着時刻	選択式【〇：〇】※24 時間表記
4 現場出発時刻	選択式【〇：〇】※24 時間表記
5 病院収容時刻	選択式【〇：〇】※24 時間表記
6 年齢	選択式【実年齢不明の場合は、推定年齢を記入】
7 性別	選択式【男／女】
8 事故種別	選択式 【火災/自然災害/水難/交通事故/労働災害/運動競技/一般負傷/加害/自損行為/急病/転院搬送/不明・その他】
9 傷病程度	選択式【死亡/重症/中等症/軽症/不明・その他】
10 実施基準の活用	選択式【有り／無し】 **※今回の調査における活用有とは、観察基準を参考とし、かつ医療機関リストに該当する搬送先の選定を行った事案を指すが、最終的な受入先が、医療機関リストに掲載されている病院であるかは問わない。**
11 基準を活用しなかった理由 ※10 で「無」の場合のみ回答	選択式 【観察基準の判断が困難/地域ルールの活用/かかりつけ医へ搬送/患者・家族の希望/その他】
11-2 実施基準との整合性	選択式【同じ／違う箇所あり】 **※傷病程度が重症以上で、「10 実施基準の活用：無し」かつ「11 基準を活用しなかった理由：2 地域ルールの活用又は 5 その他」を選択した場合に、観察から搬送先選定までの結果が実施基準の内容と同じであった場合は、「同じ」を選択すること。**
12 適用した観察基準 ※10 で「有」の場合のみ回答	選択式【観察基準コードから選択】
13 分類基準 ※10 で「有」の場合のみ回答	選択式【分類基準から選択】

傷病名	14 原因	選択式【外因性/内因性/不明】
	15 症状	選択式【疾患分類コードから選択】
	16 救急隊による判断傷病名A	選択式【疾患分類コードから選択】 ※救急隊が現場で疑った判断傷病名を選択すること。 （分からない場合は「不明」を選択）
	17 救急隊による判断傷病名B	選択式【疾患分類コードから選択】 ※「16 救急隊による判断傷病名A」よりも更に具体的な病名・外傷部位等が分かる場合に選択すること。 （分からない場合は「不明」を選択）
	18 心肺停止	選択式【有り／無し】
19 患者背景因子		選択式 【特になし/精神/飲酒/薬物/自殺企図/認知症/住所不定/身寄りなし（独居）/過去に問題あり/その他】 ※その他の場合は備考欄に具体的に記載し、複数該当する場合は、患者受入に影響すると思われる主たる背景因子を一つ選択すること。
20 ドクターヘリ要請		選択式【有り／無し】
21 医療機関交渉回数		記入式【〇回】
22 収容先医療機関名		選択式【医療機関コードから選択】 ※最初に収容した医療機関を選択すること。
転送事案	23 転送先医療機関名	選択式【医療機関コードから選択】 ※最終的に収容した医療機関を選択すること。
	24 転送理由	選択式 【手術中・患者対応中/満床/処置困難/専門外/医師不在/応急処置目的の立寄り/初診(かかりつけ医なし)/下り搬送/理由不明その他】
転院搬送事案	25 転院搬送元医療機関名	選択式【医療機関コードから選択】
	26 転院理由	選択式 【容態悪化/専門外/満床/容態安定/理由不明その他】
27 隣接市町村への応援		選択式【有り／無し】
28 その他（自由記載欄）		その他特記事項等があれば記載すること。

【医療機関用調査】

表２　医療機関の調査項目一覧

調査項目		備考
1 受入年月日		記入式【2025/〇/〇】
2 患者受入時間		選択式【〇：〇】24 時間表記 **※受入時間とは、救急隊から患者を引き継いだ時間とする。**
3 来院方法		選択式 【ドクターヘリ/救急車(現場直送)/救急車(転送)】 **※自力受診の患者は含めない**
4 搬送救急機関名		選択式【県内 31 消防機関、東京都、埼玉県、茨城県、その他】
5 搬送元医療機関名		選択式【医療機関コードから選択】 **※他医療機関からの転送の場合のみ入力**
6 年齢		選択式【実年齢不明の場合は、推定年齢を記入】
7 性別		選択式【男／女】
8 住所		記入式【市区町村名のみを記載】 ※患者の現住所を入力（分からない場合は「不明」とすること）
9 傷病程度		選択式【死亡/重症/中等症/軽症/その他】 「死亡」　：初診時において死亡が確認されたもの 「重症」　：3 週間以上の入院加療を必要とする 「中等症」：重症又は軽症以外のもの 「軽症」　：入院加療を必要としないもの 「不明・その他」：不明・傷病程度が判明しないもの
10 緊急性の有無		選択式【有り／無し】
11 確定診断名		記入式【具体的な確定診断名を記載】
12 患者背景因子		選択式 【特になし/精神/飲酒/薬物/自殺企図/認知症/住所不定/身寄りなし（独居）/過去に問題あり/その他】 ※その他の場合は備考欄に具体的に記載し、**複数該当する場合は、主たる背景因子を一つ選択すること。**
13 施設選定の妥当性		選択式【妥当である/妥当でない】 ※妥当でない場合は理由を記載
14 入院の有無等		選択式【外来のみ/入院/他医療機関への転送】
15 入院時の病床		選択式【ICU/HCU/一般病床/その他】 **※14 で「入院」と回答した場合のみ回答**
16　24 時間以内に行った処置		選択式 【人工補助呼吸/血液浄化/心臓カテーテル/補助循環/内視鏡/IVR/t-PA/手術/その他】 **※14 で「入院」と回答した場合のみ回答**
17 転帰		選択式【入院中/退院/転院/死亡】 **※14 で「入院」と回答した場合のみ回答** **※受入から 24 時間後の患者の転帰を選択**
転送事案	18 転送理由	選択式 【手術中・患者対応中/満床/処置困難/専門外/医師不在/応急処置目的の立寄り/初診(かかりつけ医なし)/下り搬送/理由不明・その他】
	19 転送先医療機関名	選択式【医療機関コードから選択】
	20 医療機関交渉回数	選択式【〇回】

【夜間休日急病診療所用調査】

表３　夜間休日急病診療所の調査項目一覧

調査項目	備考
1 発生年月日	記入式【2025/〇/〇】
2 患者受入時間	選択式【〇：〇】
3 来院方法	選択式 【救急車/自家用車(タクシー)/徒歩/その他/不明】
4 年齢	選択式【実年齢不明の場合は、推定年齢を記入】
5 性別	選択式【男／女】
6 住所	記入式【市区町村名を記載】 ※患者の現住所を入力（分からない場合は「不明」とすること）
7 傷病程度	選択式【死亡/重症/中等症/軽症/その他】 「死亡」　：初診時において死亡が確認されたもの 「重症」　：3 週間以上の入院加療を必要とする 「中等症」：重症又は軽症以外のもの 「軽症」　：入院加療を必要としないもの 「不明・その他」：不明・傷病程度が判明しないもの
8 診断名（暫定）	記入式【具体的な診断名を記載】
9 転送理由	選択式 【病状/患者の希望/必要な検査ができない/その他】
10 転送先医療機関名	選択式【医療機関コードから選択】
11 転送先が二次輪番病院か	選択式【〇／×】　※×の場合はその理由を「二次輪番病院以外に転送した理由欄」に記載
12 医療機関交渉回数	記入式【〇回】

（３）調査方法

調査対象の各消防機関、医療機関および夜急診に対して調査依頼書と実施要領を送付し調査票に令和 7 年 10 月における搬送実績を入力したものを回収した。回収した調査票のチェックを行い、明らかな記入ミス、記入漏れがあった場合には回答機関に問い合わせ、修正した。

データ回収状況は以下のとおりである。

表４　各調査機関別回収結果

調査対象機関	全体	回答数	回収率	全件数
消防	31	31	100%	25,627
医療	168	155	92%	24,804
夜急診	19	15	79%	156

突合手法

回収した消防機関、医療機関、夜急診データは、機関番号、二次保健医療コード、ＭＣ圏コードを付与した上で、突合を行う。消防機関データと医療機関データの突合により、病院搬送後に入院した患者が転帰するまでの一連のデータを作成する。

○突合結果

令和７年の回収データを突合の手法に従って突合を行った結果を示す。

表５　消防機関の最終搬送先医療機関コード別回答数及び突合数

消防機関の最終搬送先医療機関コード	回答数	突合数
１～170	25,373	20,139
県外	254	0
計	25,627	20,139

表６　医療機関のコード別回答件数及び突合件数

医療機関コード	回答数	突合数
１～170	24,804	20,139

表７　夜急診の回答件数及び突合件数

	回答数	突合数
夜急診	156	0※

※夜急診については回答数のうち、救急車による搬送は13件だったが、時間の一致する消防機関データがなく、突合はできず。

突合率

突合には、まずは搬送先の医療機関と受入医療機関が一致することが要件となる。回答が得られなかった医療機関Ａに搬送した場合の突合はできないため、消防機関がＡに搬送した場合の突合は 0 となる。Ａの病院への搬送例も受入例もある場合は、搬送データ数と受入データ数の小さい方が突合できる最大数となる。

表８　突合可能なデータ数

医療機関コード	消防機関搬送数	医療機関受入数	突合可能数
Ａ	A_1	A_2	A_{min}
Ｂ	B_1	B_2	B_{min}
Ｃ	C_1	C_2	C_{min}
…	…	…	…
計			**突合可能数計**

このように本調査の各医療機関別に突合可能数を算出し、突合可能数を集計すると、23,443 件となる。これは、本調査で突合できる最大値であるので、これを母数として突合率を算出する。消防機関の搬送データが回答した医療機関と突合できたのは 20,139 件である。

表９　令和７年の突合率

突合可能数	突合数	突合率
23,443	20,139	85.9%

（４）調査結果の概要

①千葉県全件の分析概要

表 10　千葉県全体のまとめ

No.	指標	データ	内容	頁
１	性別・年齢	消防	・全体の男女別搬送は、男性 51.7%、女性 48.3%で男性の方が多い。（表Ｉ－１－１） ・年齢階層では、75 歳以上が 46.4%におよぶ。 ・年齢階層別男女比をみると、75 歳未満の全ての年齢層で、男性の割合の方が女性より高く、65～74 歳の層が最も男性割合が高く 60.7%である。 ・75 歳以上は、女性の割合が高く 53.6%である。 ・救急搬送の年齢別男女比の傾向は、県内の年齢階層別男女比（令和 7 年 4 月 1 日現在）と同じである。（参考表 千葉県年齢別・町丁字別人口 28 頁）	27
２	覚知の昼夜間別	消防	・昼夜別覚知状況は、「昼間（6 時～18 時）」（65.2%）が「夜間（18 時～翌 6 時）」（34.8%）より 2 倍近く多い。（表Ｉ－２）	31
３	平日・土日祝日別	消防	・搬送日を曜日分類（平日、土曜、日曜及び祝日）でみると、平日 71.5%、土曜 12.2%、日曜 12.9%、祝日 3.4%である。（表Ｉ－３－１） ・調査期間中の曜日分類比率（平日 71.0%、土曜 12.9%、日曜 12.9%、祝日 3.2%）と大きな差はみられない。（表Ｉ－３－２）	32
４	傷病程度	消防	・全体では「中等症」49.4%、「軽症」43.0%、「重症」6.8%、「死亡」0.8%である。（表Ｉ－４－１）	33
５	事故種別	消防	・「急病」が 65.1%で最も多い。以下「一般負傷」（17.9%）、「転院搬送」（8.5%）、「交通事故」（5.9%）と続く。（表Ｉ－５）	40
６	心肺停止	消防	・「心肺停止」の割合は、全体の 2.0%である。（表Ｉ－６）	41
７	覚知から病院収容までの時間	消防	・覚知から病院収容までの平均時間は 49.61 分である。（表Ｉ－７－２）	42

No.	指標	データ	内容	頁
８	覚知から現場到着までの時間	消防	・覚知から現場到着までの平均時間は 9.94 分である。（表Ⅰ－８－２）	45
９	現場到着から現場出発までの時間	消防	・現場到着から出発までの滞在時間の平均は 25.04 分である。（表Ⅰ－９－２）	48
10	現場出発から病院収容までの時間	消防	・現場出発から病院収容までの平均時間は 14.63 分である。（表Ⅰ－10－２）	51
11	医療機関交渉回数	消防	・平均交渉回数は 1.44 回である。（表Ⅰ－11－２） ・本調査の搬送困難事案要件である交渉回数が 4 回以上の割合は 4.8%である。（表Ⅰ－11－１）	54
12	搬送先医療機関種別	消防	・医療機関種別では「病院群輪番制かつ救急告示」が 64.3%、「救命救急センター」が 24.5%、「救急告示」が 3.9%である。（表Ⅰ－12－１）	58
13	ドクターヘリ要請	消防	・ドクターヘリの要請は 103 件（0.4%）である。（図Ⅰ－13）	62
14	近隣市町村への応援	消防	・消防機関の近隣市町村への応援は「有り」が 71 件（0.3%）であった。（図Ⅰ－14）	62

②前回調査との比較

表 11　前回調査との比較のまとめ

No.	指標	データ	内容	頁
1	性別・年齢	消防	・男女別割合は、3～7 ポイント程度「男性」が多い傾向が続いている。（表Ⅱ－１－１） ・年齢別では、調査開始以降高年齢者層の増加傾向が続き「65 歳以上」の割合をみると平成 23 年から 13.7 ポイント増加している。（表Ⅱ－１－２）	65
2	覚知の昼夜間別	消防	・覚知の昼夜間別搬送数の割合は、調査開始以来大きな変化はみられないが、平成 29 年から「昼間」の搬送率が微増傾向にあったのが、前回調査から 0.6 ポイントの減少に転じたものの、調査開始年の平成 23 年と比較すると 3.9 ポイント増加している。（表Ⅱ－２）	67
3	平日・土日祝日別	消防	・曜日による発生割合の差は特にみられない。そして、この傾向は調査開始年からほぼ変わらない。（表Ⅱ－３）	68
4	傷病程度	消防	・傷病程度は「軽症」と「中等症」の両者で 90%以上を占めている点は、調査開始当初から変わらない。 ・平成 29 年までは「軽症」が最も多かったが、年々減少傾向がみられ、令和元年に「中等症」がわずかの差ではあるが逆転して最多となった。令和 5 年には一度「軽症」が最多に戻ったものの、今回調査では再び「中等症」が最多となった。（表Ⅱ－４）	69
5	事故種別	消防	・調査開始以来「急病」が 60%を超え一番件数が多く、その割合は増加傾向にあったが、今回の結果では前回から 1.2 ポイント減少している。 ・第 2 位は「一般負傷」で毎年 15%前後、第 3 位は「転院搬送」で同 8%前後の搬送率でそれぞれ推移している。 ・「交通事故」は、年々減少傾向が続き、調査開始年（12.2%）と比較して半数以下まで減少。平成 29 年から第 4 位となっている。（表Ⅱ－５）	70
6	覚知から病院収容までの時間	消防	・覚知から病院収容までに要した時間は「30 分未満」「30 分～1 時間未満」の割合が前回調査よりも増加している。 ・「30 分未満」の割合は、調査開始年と比較して 17.0 ポイント減少。そして平均搬送時間では 7.99 分増加の 49.61 分を要しているという結果である。（表Ⅱ－６）	72

No.	指標	データ	内容	頁
7	現場到着から現場出発までの時間	消防	・現場滞在時間は、平成 25 年以降では「15 分～30 分未満」が約 50%からそれ以上の割合を占めて多く、次いで「15 分未満」と「30 分～45 分未満」の順という傾向が続いている。 ・前回調査までは年々滞在時間が長くなる傾向があったが、平均滞在時間が前回調査から 1.34 分減少に転じている。（表Ⅱ－７）	73
8	医療機関交渉回数	消防	・消防機関の医療機関との交渉回数は、「4 回未満」というケースが、平成 24 年を除き、調査開始年から 90%以上を占めるという状況が続いており、今回は平成 29 年から令和 5 年まで減少を続けていた傾向から増加に転じ、逆に「4 回以上」は減少に転じた。 ・平均交渉回数でみると、今回が 1.44 回と前回と比べ 0.25 回減少し、平成 29 年から増加傾向にあった数値がわずかではあるが、減少方向に転じた。（表Ⅱ－８－２）	74
9	搬送先医療機関種別	消防	・搬送先医療機関は、平成 25 年以降「病院群輪番制かつ救急告示」の割合が年々増加傾向にあったが、今回調査では 2.2 ポイント減少している。 ・「救命救急センター」は増加傾向がうかがえ、平成 23 年と比較すると 7.8 ポイント増加している。 ・その他の医療機関については、搬送件数の割合がいずれも数パーセントであるが、「救急基幹センター」「救急告示」など年次によりバラつきがみられる。（表Ⅱ－９）	75
10	二次保健医療圏区分	消防	・二次保健医療圏別・消防機関の搬送数は、サンプル数の最も少なかった平成 24 年を除き、「東葛南部」「東葛北部」「千葉」「印旛」「山武長生夷隅」の順に多くなる状況が続き、各年次 1～3 ポイント程度の差がみられる。（表Ⅱ－10）	76
11	二次保健医療圏内の患者収容状況	消防	・搬送先は、消防機関の属する「二次保健医療圏内」である割合が 90%近くにおよび、残りの 10%程度は「二次保健医療圏外」に搬送されるという状況が続いている。（表Ⅱ－11）	77
12	ＭＣ圏内の患者収容状況	消防	・ＭＣ圏内割合は、二次保健医療圏と同様の傾向で「地域ＭＣ圏内」が 80%～90%近くにおよび、地域ＭＣ圏外」の 10%前後より多い状況が続いている。（表Ⅱ－12）	78
13	心肺停止	消防	・搬送者の心肺停止状況は、各年次 2%程度が心肺停止という状況が続いている。（表Ⅱ－13）	79

No.	指標	データ	内容	頁
14	入院の有無	突合	・多少バラつきがみられるが、各年次 40%台で推移している。 ・前回は 43.3%だったが、今回 48.8%と 5.5 ポイント増加している。（表Ⅱ－14）	80
15	転帰	突合かつ入院の有無「入院」	・入院患者の転帰状態は、「入院中」の割合が最も多い状況に変化はなく、平成 25 年から平成 29 年にかけてと、令和元年から令和 5 年にかけてみられていた増加傾向が、前回調査から 3.6 ポイント減少している。 ・それに伴い、「退院」の割合が令和元年以降減少傾向にあったものが前回から 8.3 ポイント増加し、調査開始以来最も多い割合となっている。（表Ⅱ－15）	81
16	患者背景因子	消防	・各年次ともに「認知症」や「飲酒」「精神」などが各 2～3%である。 ・「特になし」というケースが前回調査に続き 90%台となっているものの、前回から 0.6 ポイント、わずかではあるが減少した。（表Ⅱ－16）	82
17	救急隊による判断傷病名Ａ	消防	・「その他の内因性疾患」と判断されたものを除外すると「（単純な）打撲等」「消化器疾患」「循環器疾患」「呼吸器疾患」「脳血管疾患」「（単純な）捻挫・脱臼・骨折」が上位にみられる。 ・これら上位の件数は年次を追うごとに増加傾向にあるものがほとんどである。（表Ⅱ－17）	83
18	救急隊による判断傷病名Ｂ	消防	・「その他」を除くと、頭部、下肢、上肢、顔面などの「軽度な外傷」が多く、発症率が低い「パニック障害」「ヒステリー」「統合失調症」「うつ病」「眼科疾患」などと差がみられる。 ・調査開始以来同様の傾向が続いている。（表Ⅱ－18）	84
19	搬送困難事案（現場滞在時間 30 分以上かつ医療機関交渉回数 4 回以上）	消防	・「搬送困難事案」の割合は 4.2%となっている。なお、「搬送困難事案」の定義を令和 7 年から変更したことに伴い、前回調査との比較はできない。（表Ⅱ－19）	86

No.	指標	データ	内容	頁
20	実施基準の活用状況	消防	・実施基準の「活用が有り」の割合は、3～7%台の間で変動しているが、令和元年から減少傾向が続き、今回は平成 25 年に次ぐ過去 2 番目の低さ（3.5%）となっている。（表Ⅱ－20）	87
21	実施基準を活用しなかった理由	消防	・実施基準を活用しなかった理由としては「地域ルールの活用」という回答の割合が 40%～50%台におよぶ状況が続き、平成 23 年と比較すると令和 7 年は 15.7 ポイント増加している。 ・次いで多い「かかりつけ医へ搬送」は、逆に(平成 23 年比で)8.0 ポイント減少している。（表Ⅱ－21）	88
22	分類基準	消防	・分類基準は、「入院が必要な症状」が最も多く 30%台前半～40%台後半で推移するという状況が続いている。そして「入院が必要な症状」の割合は、令和元年をピークに減少傾向がうかがえる。 ・その他では、「脳血管疾患」「循環器疾患」「外傷」「重篤」などが各年次上位にみられ、「脳血管疾患」「重篤」は令和元年以降増加傾向にあり、前回減少傾向にあった「循環器疾患」は増加に転じた。（表Ⅱ－22）	89

③二次保健医療圏別・ＭＣ圏別・消防機関別

表 12　圏域別分析のまとめ

No.	指標	データ	内容	頁
１	搬送者の二次保健医療圏・ＭＣ圏	消防	・消防機関の搬送件数を、二次保健医療圏別にみると、「東葛南部」が 7,206 件（28.1%）で最も多い。以下「東葛北部」が 6,158 件（24.0%）、「千葉」が 3,522 件（13.8％）、「印旛」が 3,107 件（12.1%）、「山武長生夷隅」が 1,639 件（6.4%）と続く。（表Ⅲ－１－１）	93
２	搬送者の傷病程度	消防	・傷病程度別にみると、いずれの二次保健医療圏も「軽症」または「中等症」が多く、両者で 90%以上を占めるエリアがほとんどである。 ・相対的に「重症」の割合が多いのは「市原」（11.7%）と「山武長生夷隅」（11.0%）である。（表Ⅲ－２－１）	94
３	搬送者の年齢	消防	・「75 歳以上」が 45%～55%におよぶエリアがほとんどである。 ・二次保健医療圏別の平均年齢では、「安房」の 71.6 歳が最も高く、「東葛南部」の 61.7 歳が最も低い。（表Ⅲ－３－１）	96
４	覚知から病院収容までの時間	消防	・覚知から病院収容までに要する時間はどのエリアも「30 分～1 時間未満」というケースが多い。 ・二次保健医療圏別に平均搬送時間をみると、最も長い「山武長生夷隅」と最も短い「東葛北部」では、17.91 分の差がみられる。（表Ⅲ－４－１）	98
５	覚知から現場到着までの時間	消防	・圏域別に覚知から現場到着に要した時間をみると、二次保健医療圏別の所要時間は「山武長生夷隅」を除き、「5 分～10 分未満」の割合が最も多く、「千葉」「東葛南部」「東葛北部」「印旛」では平均が 9 分台となっている。 ・一方、「山武長生夷隅」は「10 分～15 分未満」の割合が最も多い。（表Ⅲ－５－１）	118

No.	指標	データ	内容	頁
６	現場到着から現場出発までの時間（現場滞在時間）	消防	・二次保健医療圏別の現場滞在時間は、全ての機関で「15分～30分未満」の割合が4～6割台になっており、「香取海匝」が19.00分で最も短く、全体平均より6.04分短い。 ・一方、最も長いのが「山武長生夷隅」で平均滞在時間が29.00分となっている。（表Ⅲ－６－１）	120
７	現場出発から病院収容までの時間（病院搬送時間）	消防	・二次保健医療圏別の病院搬送時間は、圏域別に現場出発から病院収容までの時間をみると、全体の平均時間14.63分に対して、一番短い「東葛北部」で11.31分、「東葛南部」で12.65分である。一番長いのは、「山武長生夷隅」（22.09分）で7.46分の差がみられる。 ・「15分未満」の割合が多いのは「東葛北部」（77.8%）と「東葛南部」（71.3%）で、少ないのは「山武長生夷隅」（34.6%）である。（表Ⅲ－７）	122
８	医療機関交渉回数	消防	・圏域別に医療機関交渉回数をみると、「4回以上」の割合が最も多いのが「千葉」（11.1％）で、以下「山武長生夷隅」（6.6%）、「君津」（6.3%）、「印旛」（5.6%）と続き、「安房」（1.4%）が最も少ない。 ・平均交渉回数では、「全体」が1.44回に対し、最も多いのが「千葉」で1.84回、最も少ないのが「安房」で1.19回となっている。（表Ⅲ－８－１）	127
９	搬送先（圏内・圏外）区分別搬送	消防	・全体では「圏内」の割合は86.9%、「圏外」が12.3%（「県外」0.8%）となっている。（表Ⅲ－９－１）	146

No.	指標	データ	内容	頁
10	搬送先医療機関種別に分類した搬送	消防	・圏域別・搬送先医療機関分類別に搬送状況をみると、全体では、「病院群輪番制かつ救急告示」が 64.3%、次いで「救命救急センター」が 24.5%となっている。 ・二次保健医療圏別にみると、ほとんどの圏域で同傾向であるが、「香取海匝」のみ「救命救急センター」が 65.4%と最も多く、次いで「救急告示」が 14.0%であり、他の圏域と異なっている。 （表Ⅲ－10－１）	163
11	搬送者の入院の有無及び入院患者の転帰状況	突合	・突合ができた 20,139 件について、搬送者の入院有無をみると、「外来のみ」が 9,956 件（49.4%）で「入院」の 9,821 件（48.8%）より多い。（図Ⅲ－11－１） ・病院収容後に入院した患者の転帰状況は、「入院中」7,030 件（71.6%）、「退院」2,136 件（21.8%）、「転院」246 件（2.5%）、「死亡」385 件（3.9%）であった。（図Ⅲ－11－２） <u>圏内・圏外搬送率・入退院率</u> ・「入院」の割合をみると、全体では「圏内搬送」（47.5%）より「圏外搬送」（62.6%）が 15.1 ポイント多い。二次保健医療圏別では、すべての医療圏において「圏外搬送」の割合が多く、特に「安房」で大きな差がみられ、「圏外搬送」が 85.7%であり、「圏内搬送」54.6%よりも 31.1 ポイント多くなっている。 （表Ⅲ－11－３） ・「退院」の割合は、全体では「圏内搬送」が 21.7%、「圏外搬送」が 22.0%である。二次保健医療圏別では、「市原」が「圏内」が 34.9%、「圏外」が 14.9%、と「圏内」が多く、「香取海匝」は「圏外」が 60.0%、「圏内」が 38.2%と「圏外」の方が多くなっている。 （表Ⅲ－11－４）	165

④疾病分類別分析

表 13　疾病分類別分析のまとめ

No.	指標	データ	内容	頁
1	救急隊による判断傷病名	消防	・判断傷病名Ａ別では「その他の内因性疾患」が最も多く 18.5%。以下「（単純な）打撲等」11.3%、「消化器疾患」10.7%、「循環器疾患」7.4%、「呼吸器疾患」7.2%、「脳血管疾患」6.5%、「（単純な）捻挫・脱臼・骨折」6.4%、「（単純な）切創･挫創等」5.6%と続く。（表Ⅳ－１－１） ・救急隊による判断傷病名Ｂ別では「軽度な外傷」に属するものが多く、合計で 19.6%である。次いで「軽度のものを除く外傷の計」4.5%、「肺炎・気管支炎」3.8%、「（急性）胃腸炎」3.0%と続く。（表Ⅳ－１－２）	173
2	傷病程度	消防	・救急隊による判断傷病名Ｂ別に傷病程度との関係性をみると、「重症」となる割合が多いのは、「クモ膜下出血」52.3%、「大動脈疾患」44.4%、「脳出血」40.7%である。 ・「中等症」となる割合が多いのは「肺炎・気管支炎」79.2%、「腸閉塞症」77.7%、「腹膜炎（胆嚢炎、膵炎などを含む）」77.5%である。（表Ⅳ－２）	175
3	覚知から病院収容までの時間	消防	・救急隊による判断傷病名Ｂ別に、覚知から病院収容までの時間をみると、「2 時間以上」の割合については「統合失調症」21.7%、「その他の精神科疾患」5.0%、「うつ病」4.3%、「新型コロナウイルス」2.6%と続く。 ・「30 分～1 時間未満」の割合については、「アナフィラキシー」78.0%、「熱性けいれん」77.5%、「（急性）胃腸炎」74.0%、「COPD」73.8%と続く。（表Ⅳ－３）	177
4	現場到着から現場出発までの時間（現場滞在時間）	消防	・現場滞在時間をみると、「1 時間以上」の割合については「統合失調症」32.6%、「うつ病」12.8％、「その他の精神科疾患」11.4%、「腹部（軽度な外傷）」5.9%と続く。 ・「30 分未満」の割合については、「熱性けいれん」96.5％、「アナフィラキシー」91.7%、「クモ膜下出血」88.6%、「尿路結石」88.3%と続く。（表Ⅳ－４）	179

No.	指標	データ	内容	頁
５	医療機関交渉回数	消防	・医療機関交渉回数が「4 回以上」の割合が多いのが「統合失調症」10.9%、「その他のアレルギー」9.9%、「四肢外傷（軽度のものを除く）」9.4%、「うつ病」8.5%である。 ・交渉回数が「1 回」の割合が多いのが「COPD」87.5% 、「周産期に伴う疾患」86.9%、「腹膜炎（胆嚢炎、膵炎などを含む）」86.5%、「複数部位にまたがる外傷（軽度のものを除く）」85.1%である。（表Ⅳ－５）	181
６	搬送先医療機関種別	消防	・判断傷病名Ｂ別に、搬送先医療機関種別をみると「病院群輪番制かつ救急告示」への搬送割合が多いのが「尿路結石」83.1%、「新型コロナウイルス」77.2%、「（急性）胃腸炎」76.2%、「筋骨関連疼痛」74.5%である。 ・「救命救急センター」への搬送割合は、「クモ膜下出血」63.6%、「複数部位にまたがる外傷（軽度のものを除く）」55.4%、「眼科疾患」50.0%、「熱性けいれん」49.3%となっている。（表Ⅳ－６）	183
７	特定疾患別詳細分析については、（表Ⅳ－７－１　185 頁）～（表Ⅳ－７－76　239 頁）参照。			
８	緊急性の有無別にみた救急隊による傷病程度と判断傷病名	突合	・消防機関による傷病程度を医療機関による緊急性有無別にみると、搬送後に「緊急性有り」と判定されたもののうち、傷病程度が「軽症」であった割合は 34.6%。「緊急性無し」と判定された症例のうち、「重症」であったものが 2.1%、「中等症」が 37.1%となっている。（表Ⅳ－８－１） ・判断傷病名Ａにおいて、消防機関が「軽症」と判断し、医療機関が「緊急性有り」とした症例の中で、死亡～中等症の件数を大きく上回る乖離が見られたのは、「（単純な）打撲等」「（単純な）切創・挫創等」などとなっている。（表Ⅳ－８－２）	240

⑤搬送困難事案分析

表 14　搬送困難事案分析のまとめ

No.	指標	データ	内容	頁
1	搬送困難事案(現場滞在時間 30 分以上かつ医療機関交渉回数 4 回以上）の発生率	消防	・搬送困難事案の発生率は、全体で 4.2%であった。（図Ｖ－１－１） ・二次保健医療圏別では、「千葉」（9.1%）、「君津」（6.0%）、「山武長生夷隅」（5.4%）などが多く、「安房」（1.4%）、「東葛北部」（1.6%）、「香取海匝」（2.0%）などが少ない。（表Ｖ－１－２） ・患者背景因子別に搬送困難事案の割合は、「認知症」（692 件中 30 件で 4.3%）、「精神」（609 件中 45 件で 7.4%）、「飲酒」（425 件中 30 件で 7.1%）の順となる。（表Ｖ－１－４） ・判断傷病名Ａ別に搬送困難事案の割合をみると、搬送困難事案である割合が上位のもの（件数が 30 件未満のものを除く）では、「急性アルコール中毒」11.2%、「急性薬物中毒」9.2%、「その他の特殊疾患」8.0%、「精神科疾患」7.0%、「筋骨格疾患」6.6%の順に割合が多くなる。（表Ｖ－１－５） ・判断傷病名Ｂ別の、搬送困難事案である割合が上位のもの（件数が 30 件未満のものを除く）では、「統合失調症」10.9%、「四肢外傷（軽度のものを除く）」8.6%、「うつ病」8.5%、「その他の精神科疾患」7.9%の順に割合が多くなっている。（表Ｖ－１－６）	247
2	搬送困難事案の傷病程度別搬送	消防 搬送困難事案	・全体では「中等症」（51.6%）と「軽症」（43.5%）で 95.1%におよぶ。二次保健医療圏では、「中等症」は「安房」（75.0%）が多く、「軽症」は「君津」（57.1%）が多い。（表Ｖ－２）	255
3	重症患者の転帰状況	突合 傷病程度「重症」の入院者	・転帰状況が「死亡」のケースは、全体では 1,092 件中 155 件（14.2%）。搬送困難事例では 32 件のうち 3 件（9.4%）である。 ・搬送困難事案に含まれる死亡率は、「千葉」「印旛」が最も高くいずれも 33.3%、「東葛北部」「山武長生夷隅」「君津」が最も低くいずれも 0.0%である。（表Ｖ－３）	256

⑥実施基準の運用状況

表 15　実施基準の運用状況のまとめ

No.	指標	データ	内容	頁
1	実施基準の活用状況	消防	・全体では「活用有り」が総数 25,627 件のうちの 908 件、割合にして 3.5%であった。（図Ⅵ－１－１） ・傷病程度が重いほど実施基準の活用が増加する傾向がみられ、「軽症」の 1.7%に対し「重症」のケースでは 13.8%の活用率である。（表Ⅵ－１－２） ・傷病程度が「重症」のケースについて、ＭＣ圏別の「活用有り」の割合は、「千葉」（26.9%）、「南房総」（26.9%）、「東葛南部」（21.4%）、「君津」（21.2%）が高い割合になっている。（表Ⅵ－１－３）	261
2	覚知から病院収容までの時間	消防	・覚知から病院収容までの時間は「活用有り」についてみると、平均搬送時間が 50.60 分で「活用無し」（49.58 分）より 1.02 分長い。特に「中等症」の搬送に時間がかかり、平均で 52.89 分を要している。（表Ⅵ－２）	266
3	現場到着から現場出発までの時間	消防	・滞在時間の平均は、全体で 25.04 分。実施基準の「活用有り」では、25.05 分で「活用無し」（25.04 分）より 0.01 分長い。 ・「軽症、その他、無回答」の搬送では、平均で 28.71 分要している。（表Ⅵ－３－１）	267
4	医療機関交渉回数	消防	・医療機関との平均交渉回数は、全体で 1.44 回。実施基準の「活用有り」では 1.61 回で「活用無し」（1.43 回）より 0.18 回多い。（表Ⅵ－４－１）	270
5	分類基準	消防 「実施基準の活用あり」	・実施基準の活用をした場合の分類基準別に「中等症以上」の搬送件数の割合は「重篤」（99.0%）、「脳血管疾患」（94.7%）、「循環器疾患」（86.0%）が高い。（表Ⅵ－５－１）	273

No.	指標	データ	内容	頁
６	傷病程度が重症かつ入院した事例の転帰状況	突合 「重症」「入院」	・ＭＣ圏全体の実施基準の活用率は 2.9%である。活用の有無別に「死亡」割合をみると「活用有り」が 9.4%、「活用無し」が 14.3%と、「活用無し」のほうが 4.9 ポイント高い。 ・ＭＣ圏別では「東葛南部」「東葛北部」「印旛」「南房総」の活用率が全体の平均を下回っている。活用有無別の「死亡」割合は、「活用有り」ではいずれも件数が 30 未満となっており、「千葉」（3 件）・「印旛」（3 件）が 33.3%と最も多く、「活用無し」では「東部」が 29.6%と最も多い。（表Ⅵ－６）	274
７	搬送先医療機関種別	消防 「実施基準の活用あり」	・「実施基準の活用有り」の搬送先は、全件数 25,627 件の搬送先医療機関区分別搬送件数（表Ⅰ－12－１、58 頁）と比較すると、同様の傾向がみられた。 ・分類基準別にみると、「重篤」のケースは「救命救急センター」への搬送が 81.2%で最も多い。（表Ⅵ－７－１）	276
８	実施基準を活用しなかった理由	消防 「実施基準の活用なし」	・実施基準を活用しなかった理由は、「地域ルールの活用」が 59.5%と最も多く、「かかりつけ医へ搬送」18.3%、「観察基準の判断が困難」4.4%、「患者・家族の希望」4.2%と続く。（図Ⅵ－８－１） ・「中等症以上（死亡・重症・中等症）」の患者のケースについてみると、全体とほぼ同様の傾向である。（図Ⅵ－８－２） ・ＭＣ圏でみても、全体とほぼ同様の回答傾向だが、「中等症以上」についてみると「東葛湾岸」「印旛」「東部」「山武長生」「南房総」「君津」などの各ＭＣでは「地域ルールの活用」の回答割合がＭＣ全体より約 10%～30%近く多い。また「東葛南部」は「観察基準の判断が困難」が 16.1%で他より多い。（表Ⅵ－８－３）	279

No.	指標	データ	内容	頁
９	実施基準との整合性	消防 「重症以上」「実施基準の活用なし」活用なしの理由「地域ルールの活用」または「その他」	・全体では「同じ」が 85.9%となった。 （図Ⅵ－９－１） ・ＭＣ圏別にみると、「東部」「山武長生」「市原」「印旛」「東葛湾岸」「東葛南部」でともに「同じ」が 9 割を超える。「東葛北部」が 62.6%（無回答 33.1%）で最も低い。 （表Ⅵ－９－２）	286
10	中等症・重症患者の分類基準別病院への搬送状況	消防 「中等症または重症」 「転院搬送」ではない 「活用あり」または「判断傷病名Ａ」から分類基準適用可	・転院搬送ではない場合の「中等症または重症」についてみると、実施基準の「活用あり」と回答したのは 5.4%であった。 （表Ⅵ－10－１） ・「分類基準別医療機関に搬送」された割合をみると、9.5%となる。「実施基準の活用あり」と合わせると 14.3%が「分類基準の医療機関」に搬送されている計算になる。 ・「高エネルギー外傷」「循環器疾患」「泌尿器疾患」「脳血管疾患」「消化器疾患」「筋骨格疾患」「呼吸器疾患」「内分泌・代謝性疾患」「急性薬物中毒」「新型コロナウイルス」「窒息・異物誤飲（誤嚥）」「その他の内因性疾患」が相対的に高く、これらは 10%以上が「分類基準の医療機関」に搬送されている。 （表Ⅵ－10－２）	288

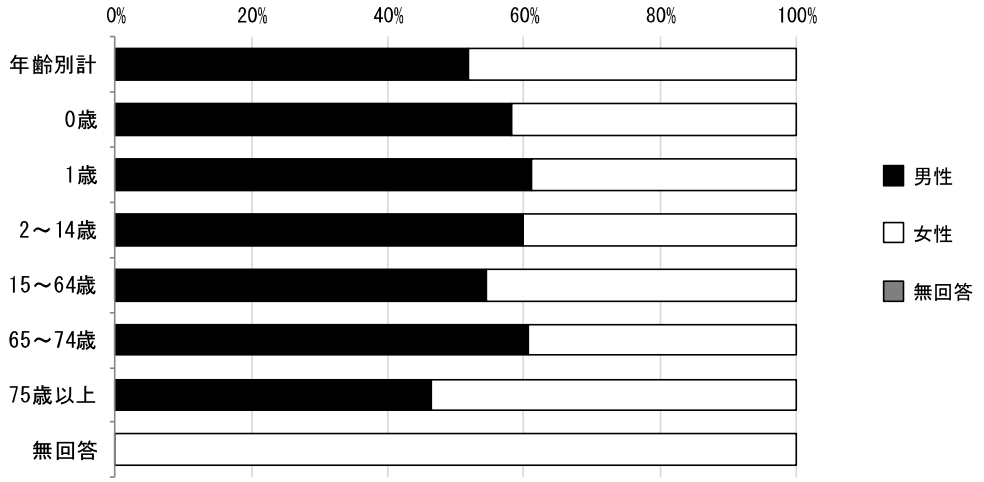
Ⅰ．千葉県全件の分析概要

Ⅰ．１　性別、年齢

消防機関の回答データをみると、75歳未満の全ての年齢層で、男性の割合の方が女性より高く、1歳の層で最も高く61.2%である。75歳以上では、女性の割合が高くなり53.6%である。県内の年齢階層別男女比と比べると、救急搬送の年齢階層別男女比の傾向は、男性の方が多い傾向がある。

表Ⅰ－１－１性別・年齢別・搬送件数

	（件数）	（%）			（件数）			（%）
	総計	年齢別割合	男性	女性	無回答	男性	女性	無回答
総計	25,627	100.0%	13,251	12,375	1	51.7	48.3	0.0
0歳	241	0.9%	140	101	0	58.1	41.9	0.0
1歳	286	1.1%	175	111	0	61.2	38.8	0.0
2～14歳	1,290	5.0%	772	518	0	59.8	40.2	0.0
15～64歳	8,110	31.7%	4,419	3,690	1	54.5	45.5	0.0
65～74歳	3,181	12.4%	1,931	1,250	0	60.7	39.3	0.0
75歳以上	12,517	48.9%	5,814	6,703	0	46.4	53.6	0.0
無回答	2	0.0%	0	2	0	0.0	100.0	0.0



参考表　年齢階層別男女別人口

令和７年４月１日現在

年齢階層	男女計（人）	男性（人）	女性（人）	男性（%）	女性（%）
0歳	35,003	18,006	16,997	51%	49%
1歳	37,914	19,397	18,517	51%	49%
2～14歳	621,262	318,623	302,639	51%	49%
15～64歳	3,873,182	2,006,165	1,867,017	52%	48%
65～74歳	720,294	350,084	370,210	49%	51%
75歳以上	1,021,434	427,378	594,056	42%	58%
計	6,309,089	3,139,653	3,169,436	50%	50%

出展：千葉県年齢別・町丁字別人口

第２表年齢(５歳階級,各歳)別,男女別人口-県・市区町村・11 地域(令和７年度)

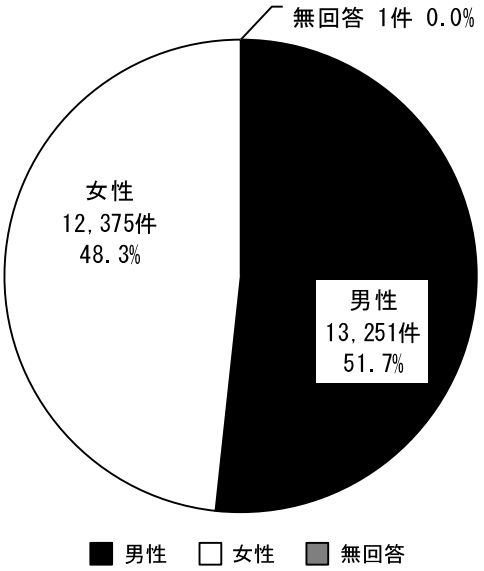
https://www.pref.chiba.lg.jp/toukei/toukeidata/nenreibetsu/r07/r07-nenreibetu.html

第２表　年齢（５歳階級、各歳）別、男女別人口

https://www.pref.chiba.lg.jp/toukei/toukeidata/nenreibetsu/r07/documents/2025jnenrei-ken.xlsx

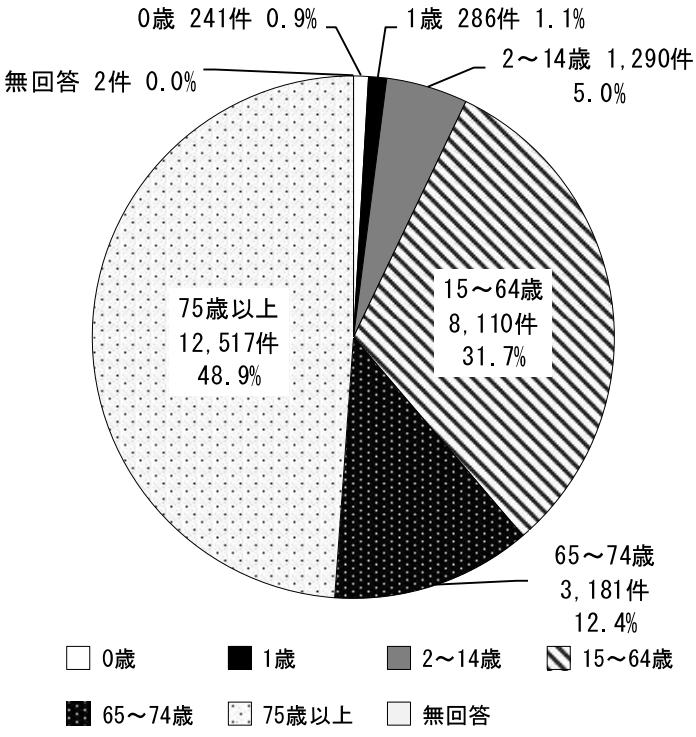
消防機関の回答データを性別でみると、男性の割合が 3.4 ポイント多くなっている。

図Ⅰ－１－２性別



消防機関の回答データを年齢別にみると、全体では 75 歳以上の割合が高く、搬送者の割合では高齢者（65 歳以上）が全体の 61.3%を占めている。

図Ⅰ－１－３年齢



消防機関の回答データの、傷病程度別・年齢階層別搬送件数をみると、全体では「中等症」と「軽症」が多く、両者で90%以上を占める。

年齢別では、若い年齢層ほど「軽症」の割合が多く、年齢が上がるにつれて症状が重くなる傾向がうかがえる。

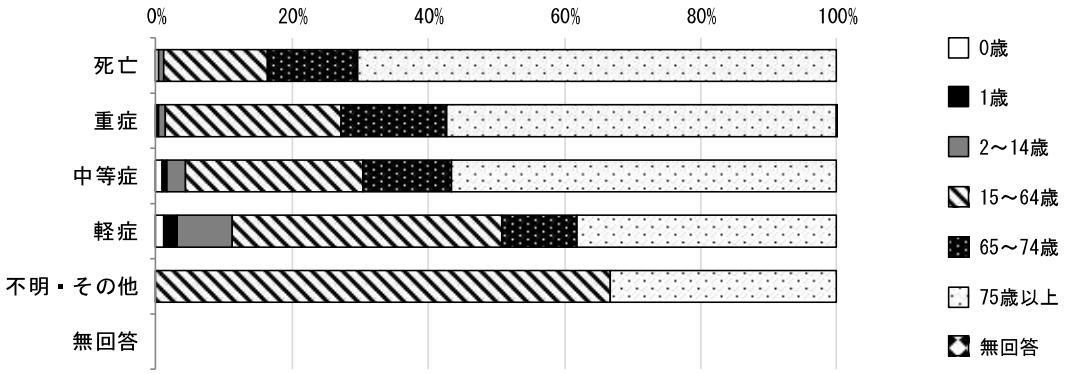
表Ⅰ－１－４傷病程度別・年齢別・搬送件数

（件数）　　（件数）

	総計	0歳	1歳	2～14歳	15～64歳	65～74歳	75歳以上	無回答
総計	25,627	241	286	1,290	8,110	3,181	12,517	2
死亡	209	1	0	1	32	28	147	0
重症	1,743	3	4	16	450	272	997	1
中等症	12,664	116	75	360	3,286	1,673	7,154	0
軽症	11,008	121	207	913	4,340	1,208	4,218	1
不明・その他	3	0	0	0	2	0	1	0
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0

（%）

	年齢別計	0歳	1歳	2～14歳	15～64歳	65～74歳	75歳以上	無回答
総計	100.0	0.9	1.1	5.0	31.7	12.4	48.9	0.0
死亡	100.0	0.5	0.0	0.5	15.3	13.4	70.3	0.0
重症	100.0	0.2	0.2	0.9	25.8	15.6	57.2	0.1
中等症	100.0	0.9	0.6	2.8	26.0	13.2	56.5	0.0
軽症	100.0	1.1	1.9	8.3	39.4	11.0	38.3	0.0
不明・その他	100.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	33.3	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

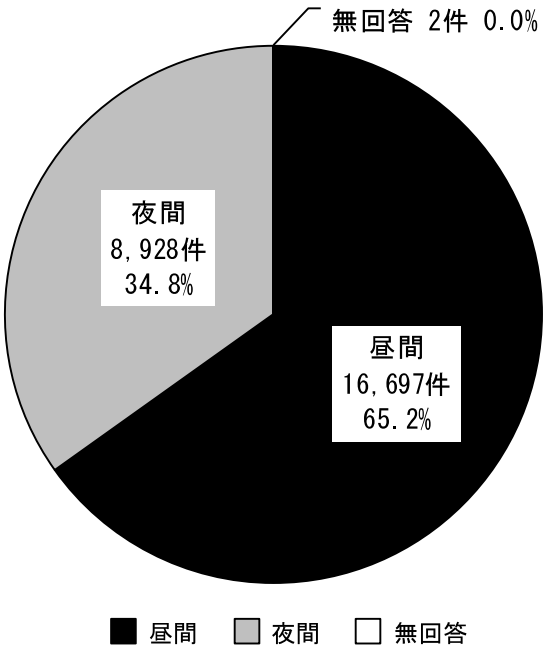


Ⅰ．２　昼：6 時～18 時、夜：18 時～翌 6 時別

消防機関の昼夜別覚知状況は、「昼間（6 時～18 時）」（65.2%）が「夜間（18 時～翌 6 時）」（34.8%）より 2 倍近く多い。

表Ⅰ－２昼夜間別・搬送件数

	（件数）	割合（%）
総計	25,627	100.0
昼間	16,697	65.2
夜間	8,928	34.8
無回答	2	0.0



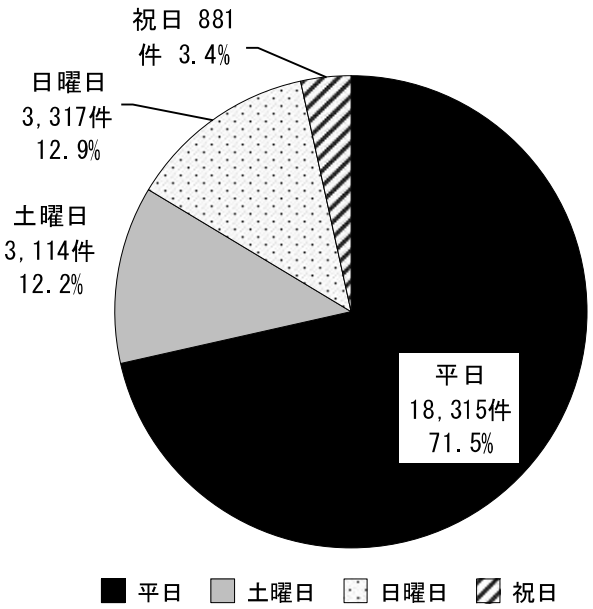
Ⅰ．３　平日・土日祝日別

発生年月日を曜日分類（平日、土曜、日曜及び祝日）でみると以下の図表のように調査期間における曜日分類・分類別日数比率と大きな差がみられない。

また、平日を単純に 5 日間としてみると 14.3%となり、土曜日・日曜日とほぼ変わらない。すなわち、特に突出して搬送件数が多い曜日はみられない。

表Ⅰ－３－１平日・土日祝日別・搬送件数

	（件数）	割合（%）
総計	25,627	100.0
平日	18,315	71.5
土曜日	3,114	12.2
日曜日	3,317	12.9
祝日	881	3.4



表Ⅰ－３－２調査期間における曜日分類別日数

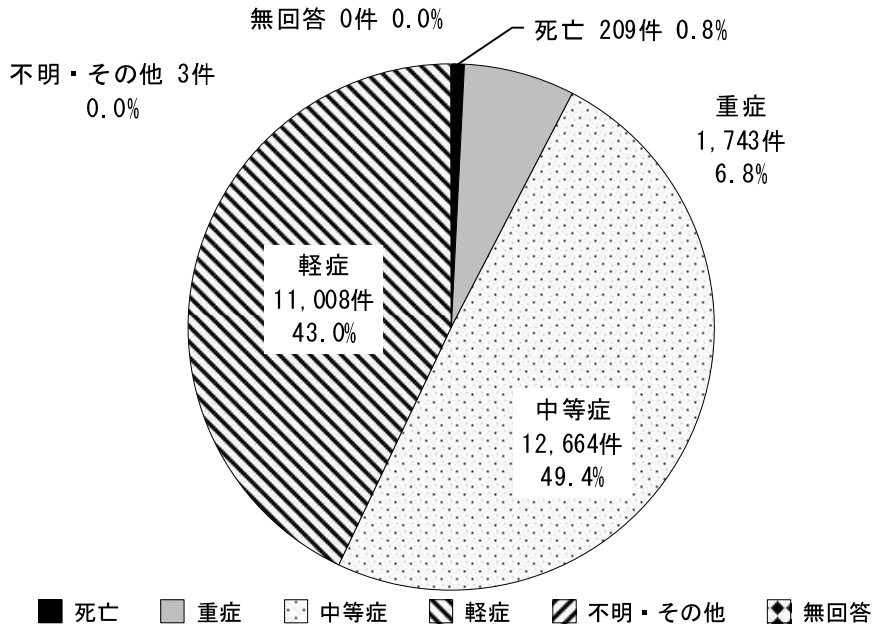
	日数	割合（%）
平日	22	71.0
土曜日	4	12.9
日曜日	4	12.9
祝日	1	3.2

Ⅰ．４　傷病程度別

消防機関の回答データから、搬送件数の傷病程度別割合をみると、全体では「中等症」が 49.4%を占め最も多く、続いて「軽症」、「重症」の順となっている。

表Ⅰ－４－１傷病程度別・搬送件数

	（件数）	割合（%）
総計	25,627	100.0
死亡	209	0.8
重症	1,743	6.8
中等症	12,664	49.4
軽症	11,008	43.0
不明・その他	3	0.0
無回答	0	0.0



男女別に傷病程度の割合をみると、ほとんど差はみられない。

男性の「重症」の割合が女性よりも比較的高く、一方で「軽症」の割合は女性の方が高くなっている。ただし、いずれもその差はわずかである。

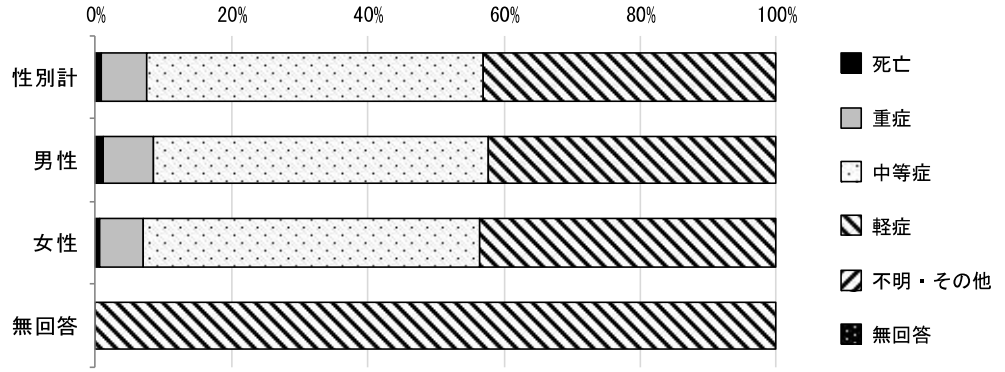
表Ⅰ－４－２性別・傷病程度別・搬送件数

（件数）　　（件数）

	総計	死亡	重症	中等症	軽症	不明・その他	無回答
総計	25,627	209	1,743	12,664	11,008	3	0
男性	13,251	128	978	6,536	5,608	1	0
女性	12,375	81	765	6,128	5,399	2	0
無回答	1	0	0	0	1	0	0

（％）

	総計	死亡	重症	中等症	軽症	不明・その他	無回答
総計	100.0	0.8	6.8	49.4	43.0	0.0	0.0
男性	100.0	1.0	7.4	49.3	42.3	0.0	0.0
女性	100.0	0.7	6.2	49.5	43.6	0.0	0.0
無回答	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0



昼夜間別に傷病程度をみると、昼間は「中等症」、夜間は「軽症」の割合が最も多くなっている。

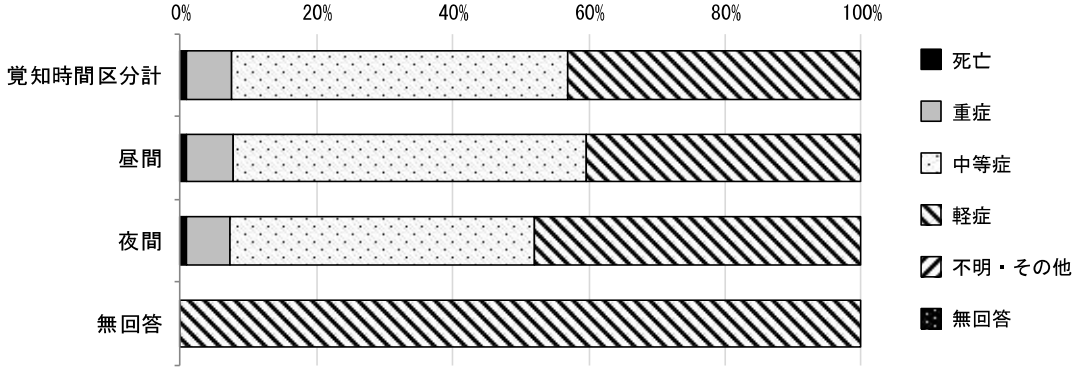
表Ⅰ－４－３覚知の昼夜間別（昼：6 時～18 時、夜：18 時～翌 6 時）・傷病程度別・搬送件数

（件数）　　（件数）

	総計	死亡	重症	中等症	軽症	不明・その他	無回答
総計	25,627	209	1,743	12,664	11,008	3	0
昼間	16,697	131	1,179	8,661	6,724	2	0
夜間	8,928	78	564	4,003	4,282	1	0
無回答	2	0	0	0	2	0	0

（%）

	総計	死亡	重症	中等症	軽症	不明・その他	無回答
総計	100.0	0.8	6.8	49.4	43.0	0.0	0.0
昼間	100.0	0.8	7.0	51.9	40.3	0.0	0.0
夜間	100.0	0.9	6.3	44.8	48.0	0.0	0.0
無回答	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0



消防機関の回答データから、「重症以上（死亡含む）」の割合をみると、75歳以上が9.2%（12,517件中1,144件）、65～74歳が9.4%（3,181件中300件）、15～64歳が6.0%（8,110件中482件）などとなっている。

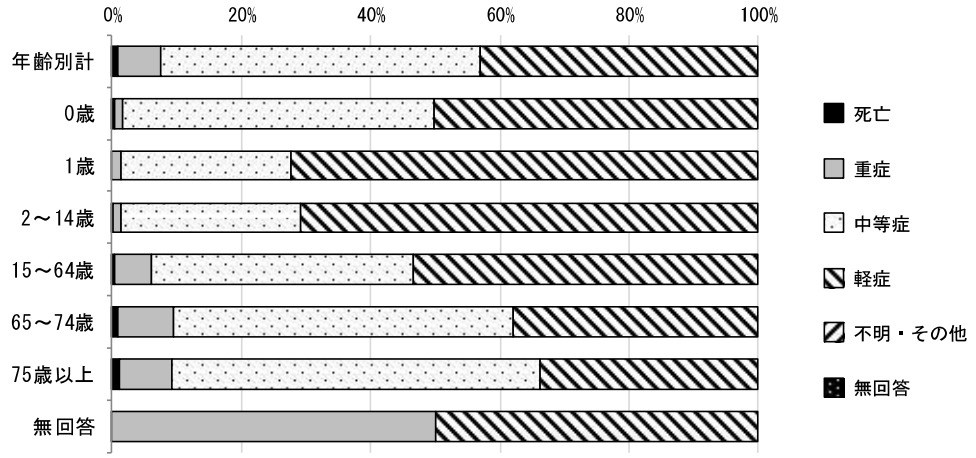
表Ⅰ－４－４年齢別・傷病程度別・搬送件数

（件数）　　（件数）

	総計	死亡	重症	中等症	軽症	不明・その他	無回答
総計	25,627	209	1,743	12,664	11,008	3	0
0歳	241	1	3	116	121	0	0
1歳	286	0	4	75	207	0	0
2～14歳	1,290	1	16	360	913	0	0
15～64歳	8,110	32	450	3,286	4,340	2	0
65～74歳	3,181	28	272	1,673	1,208	0	0
75歳以上	12,517	147	997	7,154	4,218	1	0
無回答	2	0	1	0	1	0	0

（%）

	総計	死亡	重症	中等症	軽症	不明・その他	無回答
総計	100.0	0.8	6.8	49.4	43.0	0.0	0.0
0歳	100.0	0.4	1.3	48.1	50.2	0.0	0.0
1歳	100.0	0.0	1.4	26.2	72.4	0.0	0.0
2～14歳	100.0	0.1	1.2	27.9	70.8	0.0	0.0
15～64歳	100.0	0.4	5.6	40.5	53.5	0.0	0.0
65～74歳	100.0	0.9	8.5	52.6	38.0	0.0	0.0
75歳以上	100.0	1.2	8.0	57.1	33.7	0.0	0.0
無回答	100.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0



傷病程度の割合を、年齢別、そして性別・年齢別にみると、年齢別では「軽症」は相対的に65歳以上の層で少なく、64歳以下で多い。そして「中等症」「重症」「死亡」は65歳以上で多い。

性別・年齢別では、2～14歳、75歳以上の層を除くと、「軽症」は女性の方が、「中等症」は男性の方が、それぞれ相対的に多い。

表Ⅰ－４－５性別・年齢別・傷病程度別・搬送件数

（件数）　　（件数）

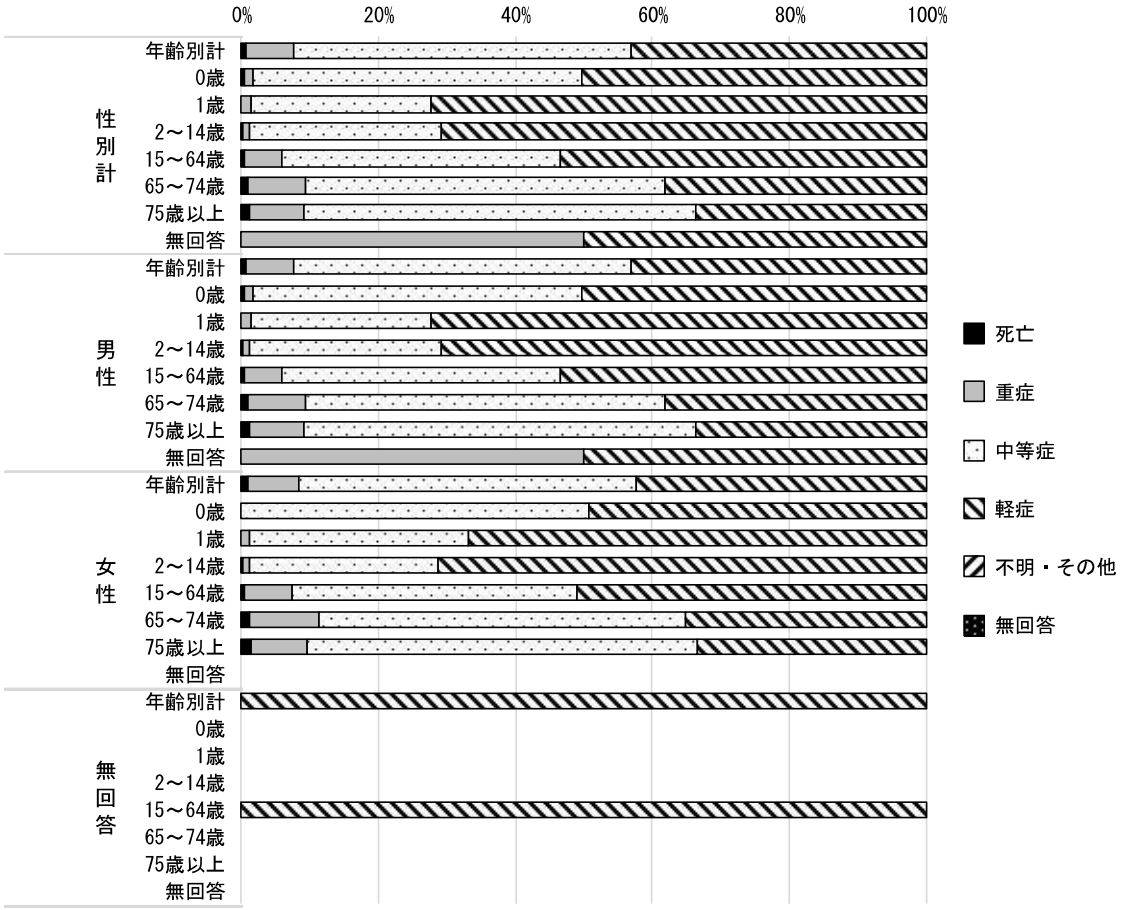
性別	年齢別	傷病程度計	死亡	重症	中等症	軽症	不明・その他	無回答
性別計	年齢別計	25,627	209	1,743	12,664	11,008	3	0
	0歳	241	1	3	116	121	0	0
	1歳	286	0	4	75	207	0	0
	2～14歳	1,290	1	16	360	913	0	0
	15～64歳	8,110	32	450	3,286	4,340	2	0
	65～74歳	3,181	28	272	1,673	1,208	0	0
	75歳以上	12,517	147	997	7,154	4,218	1	0
	無回答	2	0	1	0	1	0	0
男性	年齢別計	13,251	128	978	6,536	5,608	1	0
	0歳	140	0	0	71	69	0	0
	1歳	175	0	2	56	117	0	0
	2～14歳	772	1	8	212	551	0	0
	15～64歳	4,419	23	298	1,842	2,255	1	0
	65～74歳	1,931	24	194	1,035	678	0	0
	75歳以上	5,814	80	476	3,320	1,938	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
女性	年齢別計	12,375	81	765	6,128	5,399	2	0
	0歳	101	1	3	45	52	0	0
	1歳	111	0	2	19	90	0	0
	2～14歳	518	0	8	148	362	0	0
	15～64歳	3,690	9	152	1,444	2,084	1	0
	65～74歳	1,250	4	78	638	530	0	0
	75歳以上	6,703	67	521	3,834	2,280	1	0
	無回答	2	0	1	0	1	0	0
無回答	年齢別計	1	0	0	0	1	0	0
	0歳	0	0	0	0	0	0	0
	1歳	0	0	0	0	0	0	0
	2～14歳	0	0	0	0	0	0	0
	15～64歳	1	0	0	0	1	0	0
	65～74歳	0	0	0	0	0	0	0
	75歳以上	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0

表Ⅰ－４－６性別・年齢別・傷病程度別・搬送件数（割合）

（%）

性別	年齢別	傷病程度計	死亡	重症	中等症	軽症	不明・その他	無回答
性別計	年齢別計	100.0	0.8	6.8	49.4	43.0	0.0	0.0
	0歳	100.0	0.4	1.3	48.1	50.2	0.0	0.0
	1歳	100.0	0.0	1.4	26.2	72.4	0.0	0.0
	2～14歳	100.0	0.1	1.2	27.9	70.8	0.0	0.0
	15～64歳	100.0	0.4	5.6	40.5	53.5	0.0	0.0
	65～74歳	100.0	0.9	8.5	52.6	38.0	0.0	0.0
	75歳以上	100.0	1.2	8.0	57.1	33.7	0.0	0.0
	無回答	100.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0
男性	年齢別計	100.0	1.0	7.4	49.3	42.3	0.0	0.0
	0歳	100.0	0.0	0.0	50.7	49.3	0.0	0.0
	1歳	100.0	0.0	1.1	32.0	66.9	0.0	0.0
	2～14歳	100.0	0.1	1.0	27.5	71.4	0.0	0.0
	15～64歳	100.0	0.5	6.8	41.7	51.0	0.0	0.0
	65～74歳	100.0	1.2	10.1	53.6	35.1	0.0	0.0
	75歳以上	100.0	1.4	8.2	57.1	33.3	0.0	0.0
	無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
女性	年齢別計	100.0	0.7	6.2	49.5	43.6	0.0	0.0
	0歳	100.0	1.0	3.0	44.5	51.5	0.0	0.0
	1歳	100.0	0.0	1.8	17.1	81.1	0.0	0.0
	2～14歳	100.0	0.0	1.5	28.6	69.9	0.0	0.0
	15～64歳	100.0	0.3	4.1	39.1	56.5	0.0	0.0
	65～74歳	100.0	0.3	6.3	51.0	42.4	0.0	0.0
	75歳以上	100.0	1.0	7.8	57.2	34.0	0.0	0.0
	無回答	100.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0
無回答	年齢別計	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	0歳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1歳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2～14歳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	15～64歳	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	65～74歳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	75歳以上	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

図Ⅰ－４－７性別・年齢別・傷病程度別・搬送件数（100%積み上げ棒グラフ）

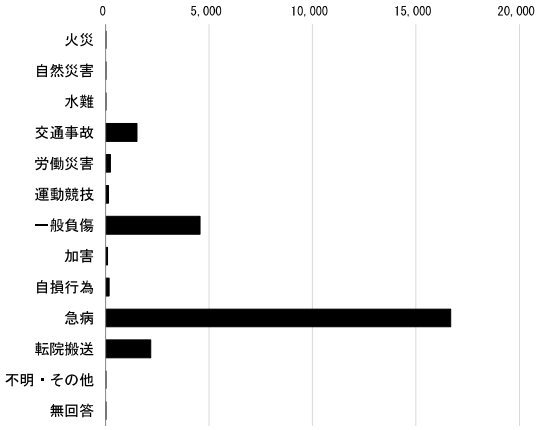


Ⅰ．５　事故種別

消防機関の回答データに基づいた、事故種別は、「急病」が 16,680 件（65.1%）で最も多く、次いで「一般負傷」が 4,576 件（17.9%）、「転院搬送」が 2,175 件（8.5%）、「交通事故」が 1,516 件（5.9%）と続いている。

表Ⅰ－５事故種別

事故種別区分	（件数）	割合（%）
総計	25,627	100.0
火災	21	0.1
自然災害	1	0.0
水難	6	0.0
交通事故	1,516	5.9
労働災害	231	0.9
運動競技	141	0.5
一般負傷	4,576	17.9
加害	93	0.4
自損行為	179	0.7
急病	16,680	65.1
転院搬送	2,175	8.5
不明・その他	5	0.0
無回答	3	0.0

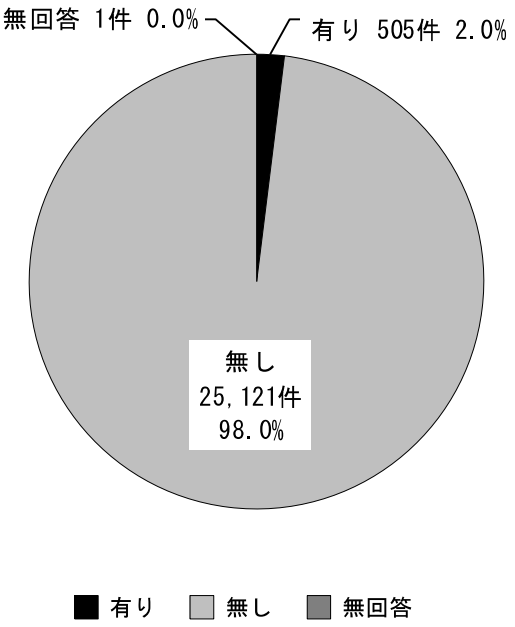


Ⅰ．６　心肺停止

消防機関の回答データでは、「心肺停止」の割合が 2.0％であった。

表Ⅰ－６心肺停止の有無

心肺停止の有無	（件数）	割合（％）
総計	25,627	100.0
有り	505	2.0
無し	25,121	98.0
無回答	1	0.0

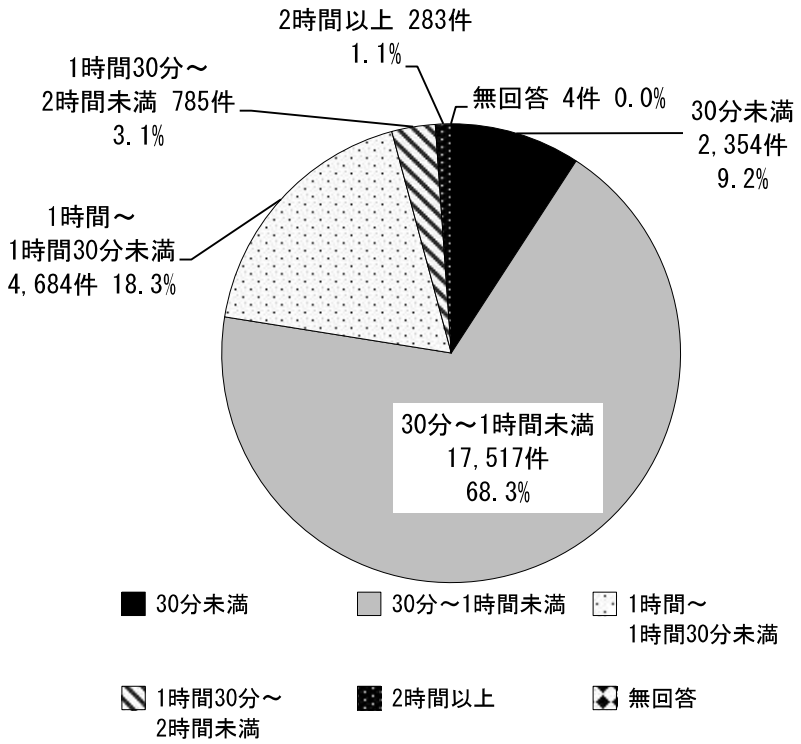


Ⅰ．７　覚知から病院収容までの時間

消防機関の回答データから、覚知から病院収容までの時間をみると、「30 分～1 時間未満」というケースが 68.3%を占め、平均時間（表Ⅰ－７－２）は 49.61 分となっている。

表Ⅰ－７－１搬送時間

	（件数）	割合（%）
総計	25,627	100.0
30分未満	2,354	9.2
30分～1時間未満	17,517	68.3
1時間～1時間30分未満	4,684	18.3
1時間30分～2時間未満	785	3.1
2時間以上	283	1.1
無回答	4	0.0



覚知から病院収容までの時間を、傷病程度別にみると、いずれも「30 分～1 時間未満」の割合が 60%以上を占めて最も多いが、「死亡」や「重症」のケースでは「30 分未満」が相対的に多い。平均所要時間は「死亡」の場合 40.88 分で、「中等症」（50.32 分）や「軽症」（49.34 分）と比較して短い。

覚知から病院収容までの平均所要時間は、「不明・その他」を除くと「中等症」が最も長い。

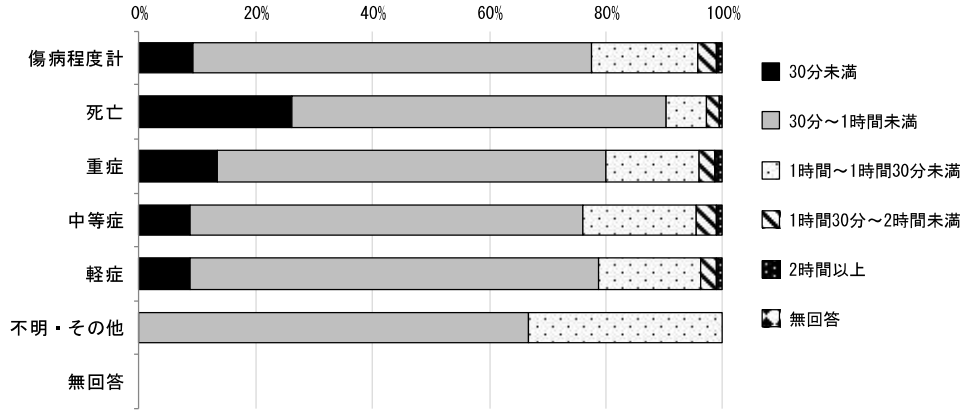
表Ⅰ－７－２傷病程度別・覚知から病院収容までの時間区分別・搬送件数

（件数）　（件数）　（分）　（分）

	総計	30分未満	30分～1時間未満	1時間～1時間30分未満	1時間30分～2時間未満	2時間以上	無回答	平均値：覚知から病院収容までの時間	中央値：覚知から病院収容までの時間
総計	25,627	2,354	17,517	4,684	785	283	4	49.61	45
死亡	209	55	134	14	5	1	0	40.88	37
重症	1,743	234	1,163	275	49	22	0	47.30	43
中等症	12,664	1,115	8,513	2,466	420	149	1	50.32	46
軽症	11,008	950	7,705	1,928	311	111	3	49.34	45
不明・その他	3	0	2	1	0	0	0	51.33	57
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0.00	0

（%）

	総計	30分未満	30分～1時間未満	1時間～1時間30分未満	1時間30分～2時間未満	2時間以上	無回答
総計	100.0	9.2	68.3	18.3	3.1	1.1	0.0
死亡	100.0	26.3	64.1	6.7	2.4	0.5	0.0
重症	100.0	13.4	66.7	15.8	2.8	1.3	0.0
中等症	100.0	8.8	67.2	19.5	3.3	1.2	0.0
軽症	100.0	8.7	70.0	17.5	2.8	1.0	0.0
不明・その他	100.0	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0



消防機関の回答データに基づいた、昼夜間別の割合は、「30 分未満」が「昼間」で 10.2%、「夜間」で 7.3%と「昼間」の方が多い。一方、「1 時間以上」の区分でみると、どの区分も「昼間」より「夜間」の割合が高い。平均時間でみると、「昼間」は 48.56 分、「夜間」は 51.58 分で、「夜間」が 3.02 分長い。

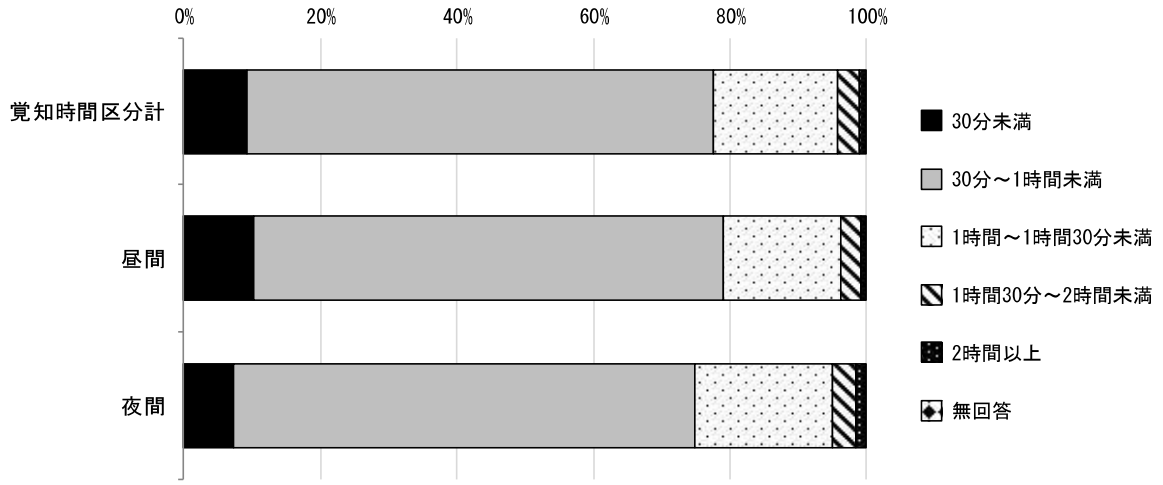
表Ⅰ－７－３覚知の昼夜間別（昼：6 時～18 時、夜：18 時～翌 6 時）・覚知から病院収容までの時間区分別・搬送件数

（件数）　　（件数）　　（分）

	総計	30分未満	30分～1時間未満	1時間～1時間30分未満	1時間30分～2時間未満	2時間以上	無回答	平均値：覚知から病院収容までの時間	中央値：覚知から病院収容までの時間
総計	25,627	2,354	17,517	4,684	785	283	4	49.61	45
昼間	16,697	1,698	11,482	2,903	466	148	0	48.56	45
夜間	8,928	656	6,035	1,781	319	135	2	51.58	47
無回答	2	0	0	0	0	0	2	0.00	0

（%）

	総計	30分未満	30分～1時間未満	1時間～1時間30分未満	1時間30分～2時間未満	2時間以上	無回答
総計	100.0	9.2	68.3	18.3	3.1	1.1	0.0
昼間	100.0	10.2	68.7	17.4	2.8	0.9	0.0
夜間	100.0	7.3	67.6	20.0	3.6	1.5	0.0
無回答	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

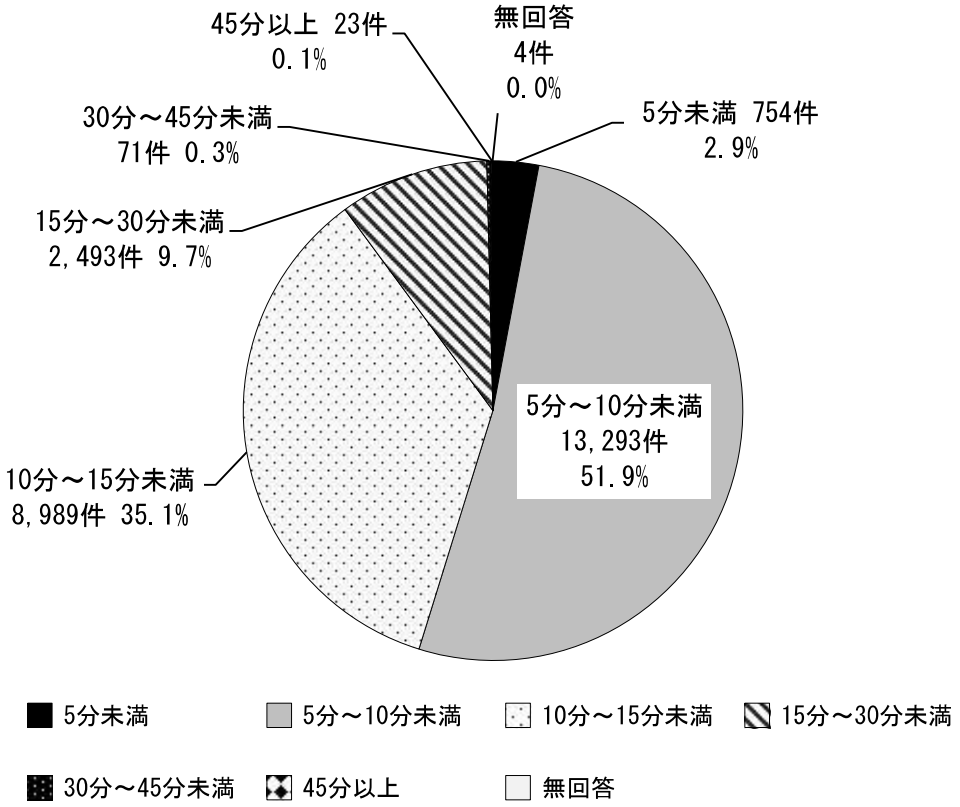


Ⅰ．８　覚知から現場到着までの時間

消防機関の回答データから、覚知から現場到着までの時間をみると、「5 分～10 分未満」の割合が最も多い。以下「10 分～15 分未満」「15 分～30 分未満」と続き、平均時間（表Ⅰ－８－２）は 9.94 分となっている。

表Ⅰ－８－１覚知から現場到着までの時間

	（件数）	割合（%）
総計	25,627	100.0
5分未満	754	2.9
5分～10分未満	13,293	51.9
10分～15分未満	8,989	35.1
15分～30分未満	2,493	9.7
30分～45分未満	71	0.3
45分以上	23	0.1
無回答	4	0.0



傷病程度別にみた覚知から現場到着までの時間は、「死亡」や「軽症」のケースでやや時間を要する傾向がうかがえるものの、その差は僅少であり、傷病程度による差はほとんどみられない。

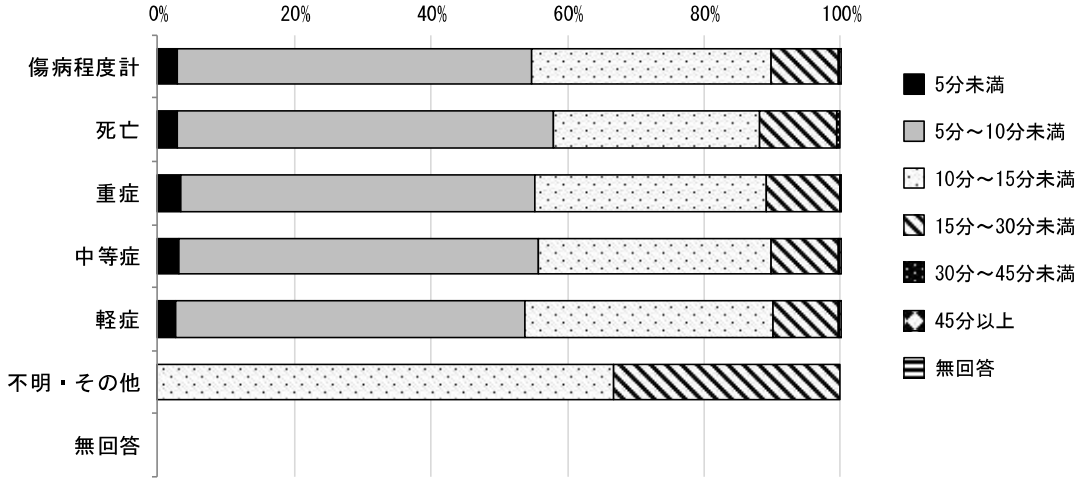
表Ⅰ－８－２傷病程度別・覚知から現場到着までの時間区分別・搬送件数

（件数）　　（件数）　　（分）

	総計	5分未満	5分～10分未満	10分～15分未満	15分～30分未満	30分～45分未満	45分以上	無回答	平均値：覚知から現地到着までの時間	中央値：覚知から現地到着までの時間
総計	25,627	754	13,293	8,989	2,493	71	23	4	9.94	9
死亡	209	6	115	63	24	1	0	0	9.94	9
重症	1,743	58	903	592	186	3	1	0	9.75	9
中等症	12,664	411	6,632	4,336	1,243	34	8	0	9.91	9
軽症	11,008	279	5,643	3,996	1,039	33	14	4	10.01	9
不明・その他	3	0	0	2	1	0	0	0	14.67	11
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00	0

（%）

	総計	5分未満	5分～10分未満	10分～15分未満	15分～30分未満	30分～45分未満	45分以上	無回答
総計	100.0	2.9	51.9	35.1	9.7	0.3	0.1	0.0
死亡	100.0	2.9	55.0	30.1	11.5	0.5	0.0	0.0
重症	100.0	3.3	51.8	34.0	10.7	0.2	0.0	0.0
中等症	100.0	3.2	52.4	34.2	9.8	0.3	0.1	0.0
軽症	100.0	2.5	51.3	36.3	9.5	0.3	0.1	0.0
不明・その他	100.0	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0



昼夜間別の、覚知から現場到着までの時間も、全体と似た傾向であるが、「夜間」のほうが平均をみると、僅かながら時間が多くかかっている。

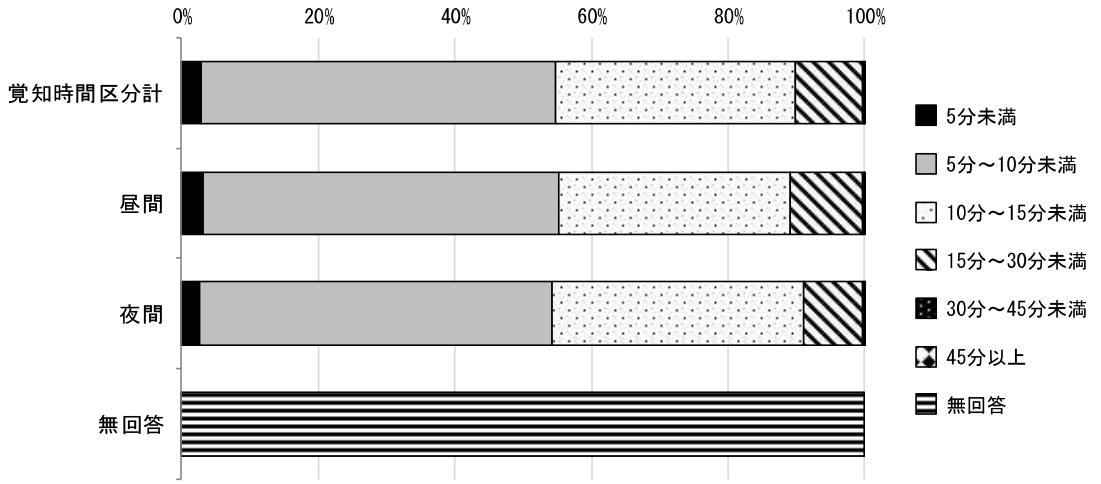
表Ⅰ－８－３覚知時間の昼夜間別（昼：6 時～18 時、夜：18 時～翌 6 時）・覚知から現場到着までの時間区分別・搬送件数

（件数）　　（件数）　　（分）

	総計	5分未満	5分～10分未満	10分～15分未満	15分～30分未満	30分～45分未満	45分以上	無回答	平均値：覚知から現地到着までの時間	中央値：覚知から現地到着までの時間
総計	25,627	754	13,293	8,989	2,493	71	23	4	9.94	9
昼間	16,697	524	8,694	5,686	1,731	48	12	2	9.88	9
夜間	8,928	230	4,599	3,303	762	23	11	0	10.06	9
無回答	2	0	0	0	0	0	0	2	0.00	0

（%）

	総計	5分未満	5分～10分未満	10分～15分未満	15分～30分未満	30分～45分未満	45分以上	無回答
総計	100.0	2.9	51.9	35.1	9.7	0.3	0.1	0.0
昼間	100.0	3.1	52.1	34.0	10.4	0.3	0.1	0.0
夜間	100.0	2.6	51.5	37.0	8.5	0.3	0.1	0.0
無回答	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

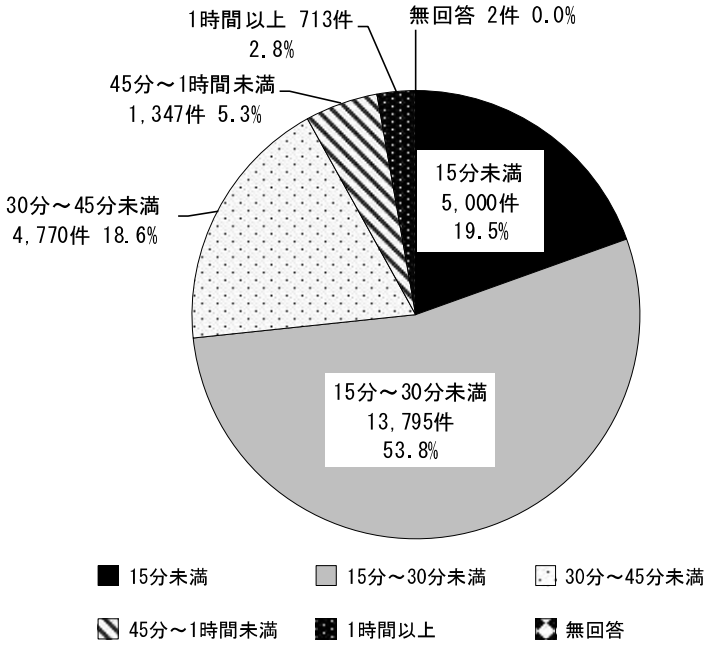


Ⅰ．９　現場到着から現場出発までの時間

消防機関の回答データから、現場滞在時間をみると、「15 分～30 分未満」が最も多く 53.8%におよぶ。以下、「15 分未満」、「30 分～45 分未満」と続き、平均時間（表Ⅰ－９－２）は 25.04 分となっている。

表Ⅰ－９－１現場滞在時間

	（件数）	割合（%）
総計	25,627	100.0
15分未満	5,000	19.5
15分～30分未満	13,795	53.8
30分～45分未満	4,770	18.6
45分～1時間未満	1,347	5.3
1時間以上	713	2.8
無回答	2	0.0



傷病程度別の現場滞在時間をみると、一番多い時間帯は、「死亡」の場合「15 分未満」、「軽症」「中等症」「重症」は「15 分～30 分未満」となっている。

平均滞在時間は、最も長い「軽症」で 25.65 分、最も短い「死亡」で 17.34 分となっている。

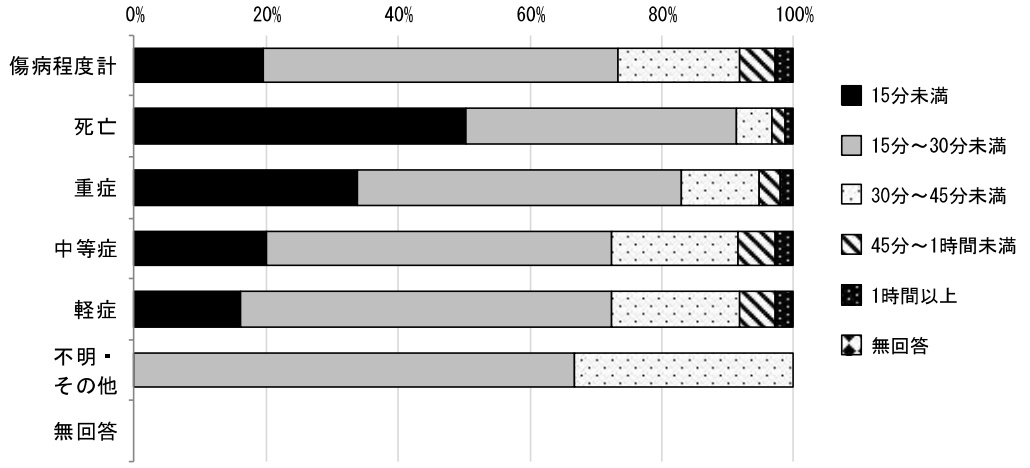
表Ⅰ－９－２傷病程度別・現場滞在時間（現場到着から現場出発までの時間）区分別・搬送件数

（件数）　　（件数）　　（分）

	総計	15分未満	15分～30分未満	30分～45分未満	45分～1時間未満	1時間以上	無回答	平均値：現場滞在時間	中央値：現場滞在時間
総計	25,627	5,000	13,795	4,770	1,347	713	2	25.04	22
死亡	209	105	86	11	4	3	0	17.34	14
重症	1,743	587	858	206	56	36	0	21.15	18
中等症	12,664	2,534	6,639	2,429	693	369	0	25.17	22
軽症	11,008	1,774	6,210	2,123	594	305	2	25.65	22
不明・その他	3	0	2	1	0	0	0	27.00	20
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0.00	0

（%）

	総計	15分未満	15分～30分未満	30分～45分未満	45分～1時間未満	1時間以上	無回答
総計	100.0	19.5	53.8	18.6	5.3	2.8	0.0
死亡	100.0	50.2	41.2	5.3	1.9	1.4	0.0
重症	100.0	33.7	49.2	11.8	3.2	2.1	0.0
中等症	100.0	20.0	52.4	19.2	5.5	2.9	0.0
軽症	100.0	16.1	56.4	19.3	5.4	2.8	0.0
不明・その他	100.0	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0



昼夜間別の現場滞在時間は、「昼間」の方が「15 分未満」と「15 分～30 分未満」の割合が「夜間」に比べ多く、逆に 30 分以上の時間区分ではいずれも「夜間」の方が多い。平均では、2.63 分「夜間」の滞在時間が長くなっている。

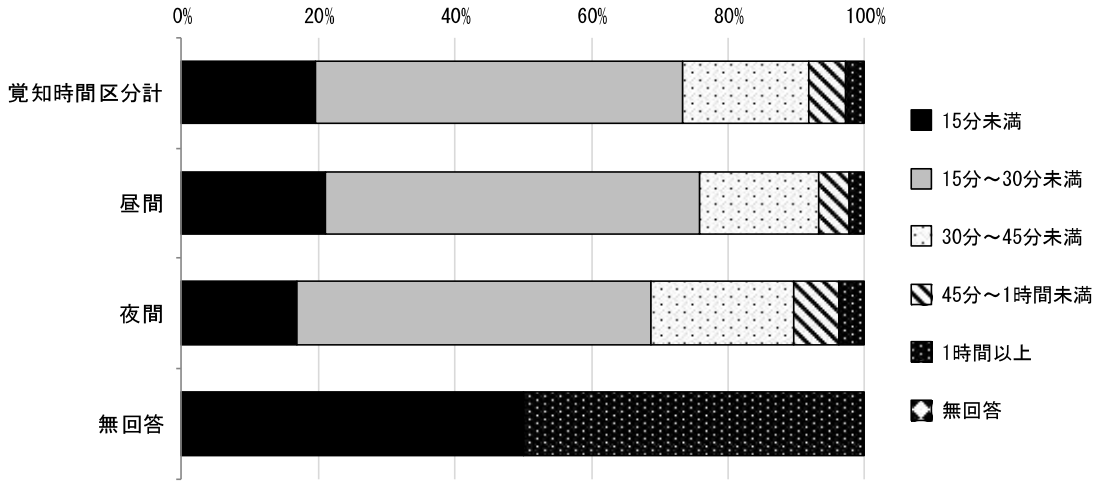
表Ⅰ－９－３現場滞在時間（現場到着から現場出発までの時間）―傷病程度別、昼夜間別

（件数）　（件数）　（分）　（分）

	総計	15分未満	15分～30分未満	30分～45分未満	45分～1時間未満	1時間以上	無回答	平均値：現場滞在時間	中央値：現場滞在時間
総計	25,627	5,000	13,795	4,770	1,347	713	2	25.04	22
昼間	16,697	3,489	9,160	2,906	766	374	2	24.12	21
夜間	8,928	1,510	4,635	1,864	581	338	0	26.75	23
無回答	2	1	0	0	0	1	0	38.50	39

（%）

	総計	15分未満	15分～30分未満	30分～45分未満	45分～1時間未満	1時間以上	無回答
総計	100.0	19.5	53.8	18.6	5.3	2.8	0.0
昼間	100.0	20.9	54.9	17.4	4.6	2.2	0.0
夜間	100.0	16.9	51.9	20.9	6.5	3.8	0.0
無回答	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0

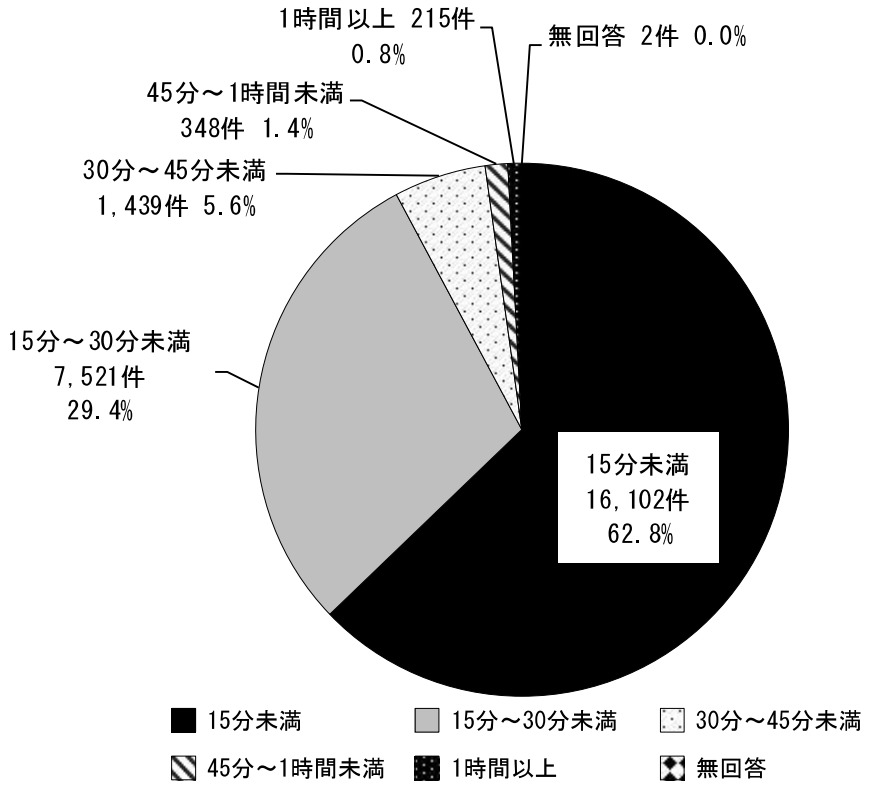


Ⅰ．10　現場出発から病院収容までの時間

消防機関の回答データによる、現場出発から病院収容までの時間をみると、「15 分未満」の割合が 62.8%で最も多く、以下「15 分～30 分未満」（29.4%）、「30 分～45 分未満」（5.6%）と続き、平均時間（表Ⅰ－10－２）は 14.63 分となっている。

表Ⅰ－10－１病院搬送時間

	（件数）	割合（%）
総計	25,627	100.0
15分未満	16,102	62.8
15分～30分未満	7,521	29.4
30分～45分未満	1,439	5.6
45分～1時間未満	348	1.4
1時間以上	215	0.8
無回答	2	0.0



傷病程度別の病院搬送時間は、いずれの傷病も「15 分未満」が最も多い。

平均搬送時間は、「死亡」の 13.60 分を除き、傷病程度が重いほど長くなる傾向にあり、最も長い「重症」で 16.41 分、最も短い「軽症」で 13.68 分となっている。

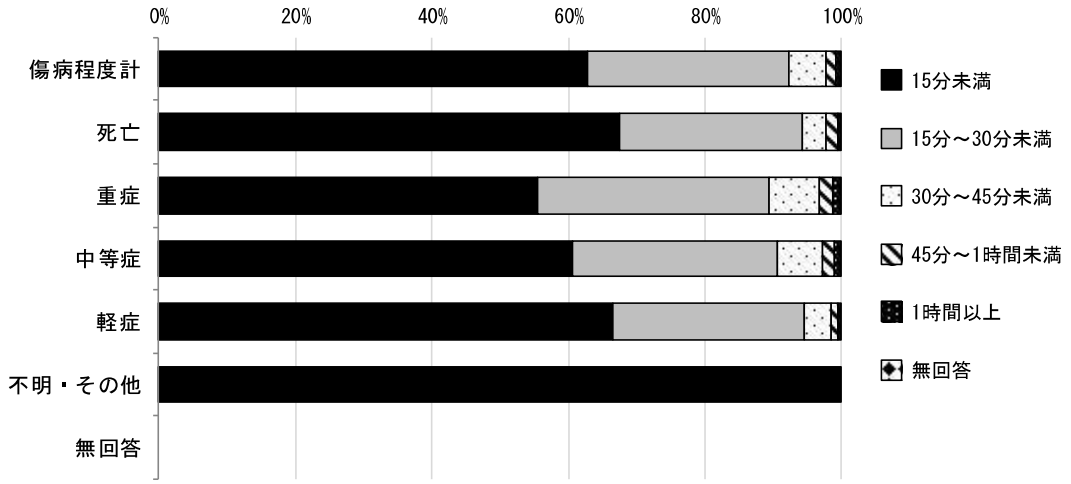
表Ⅰ－10－２傷病程度別・現場出発から病院収容までの時間区分別・搬送件数

（件数）　　（件数）　　（分）

	総計	15分未満	15分～30分未満	30分～45分未満	45分～1時間未満	1時間以上	無回答	平均値：現場出発から病院収容までの時間	中央値：現場出発から病院収容までの時間
総計	25,627	16,102	7,521	1,439	348	215	2	14.63	12
死亡	209	141	56	7	4	1	0	13.60	11
重症	1,743	968	591	128	33	23	0	16.41	13
中等症	12,664	7,674	3,805	848	214	122	1	15.24	12
軽症	11,008	7,316	3,069	456	97	69	1	13.68	11
不明・その他	3	3	0	0	0	0	0	9.67	11
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0.00	0

（%）

	総計	15分未満	15分～30分未満	30分～45分未満	45分～1時間未満	1時間以上	無回答
総計	100.0	62.8	29.4	5.6	1.4	0.8	0.0
死亡	100.0	67.5	26.8	3.3	1.9	0.5	0.0
重症	100.0	55.5	33.9	7.4	1.9	1.3	0.0
中等症	100.0	60.6	30.0	6.7	1.7	1.0	0.0
軽症	100.0	66.5	27.9	4.1	0.9	0.6	0.0
不明・その他	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0



昼夜間別の病院搬送時間は、「15 分～30 分未満」以外の時間区分では「昼間」の方が多く、「15 分～30 分未満」は「夜間」が多いが、平均搬送時間ではほとんど差がみられない。

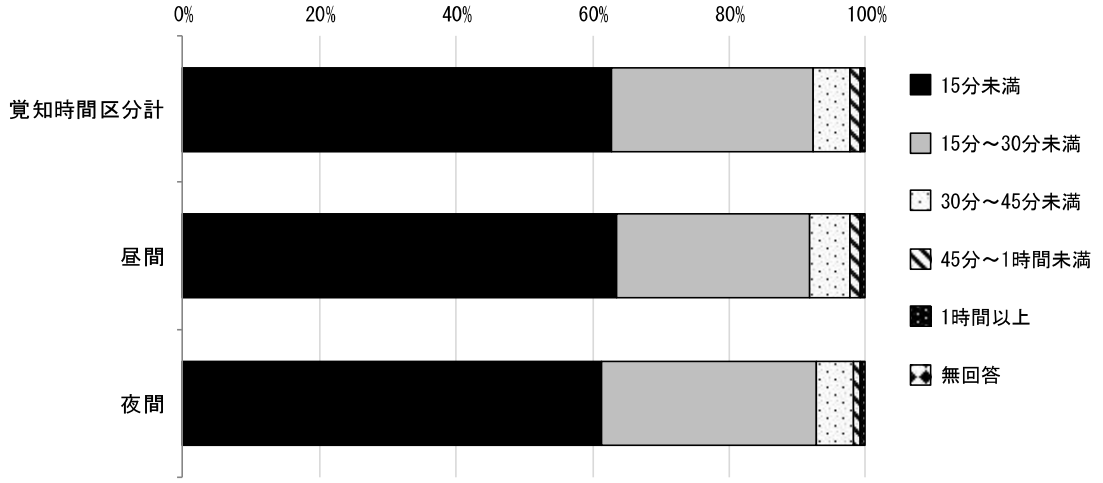
表Ⅰ－10－３覚知の昼夜間別（昼：6 時～18 時、夜：18 時～翌 6 時）・現場出発から病院収容までの時間区分別・搬送件数

（件数）　　（件数）　　（分）

	総計	15分未満	15分～30分未満	30分～45分未満	45分～1時間未満	1時間以上	無回答	平均値：現場出発から病院収容までの時間	中央値：現場出発から病院収容までの時間
総計	25,627	16,102	7,521	1,439	348	215	2	14.63	12
昼間	16,697	10,627	4,717	959	247	147	0	14.56	12
夜間	8,928	5,473	2,804	480	101	68	2	14.78	12
無回答	2	2	0	0	0	0	0	9.50	10

（%）

	総計	15分未満	15分～30分未満	30分～45分未満	45分～1時間未満	1時間以上	無回答
総計	100.0	62.8	29.4	5.6	1.4	0.8	0.0
昼間	100.0	63.6	28.3	5.7	1.5	0.9	0.0
夜間	100.0	61.3	31.4	5.4	1.1	0.8	0.0
無回答	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

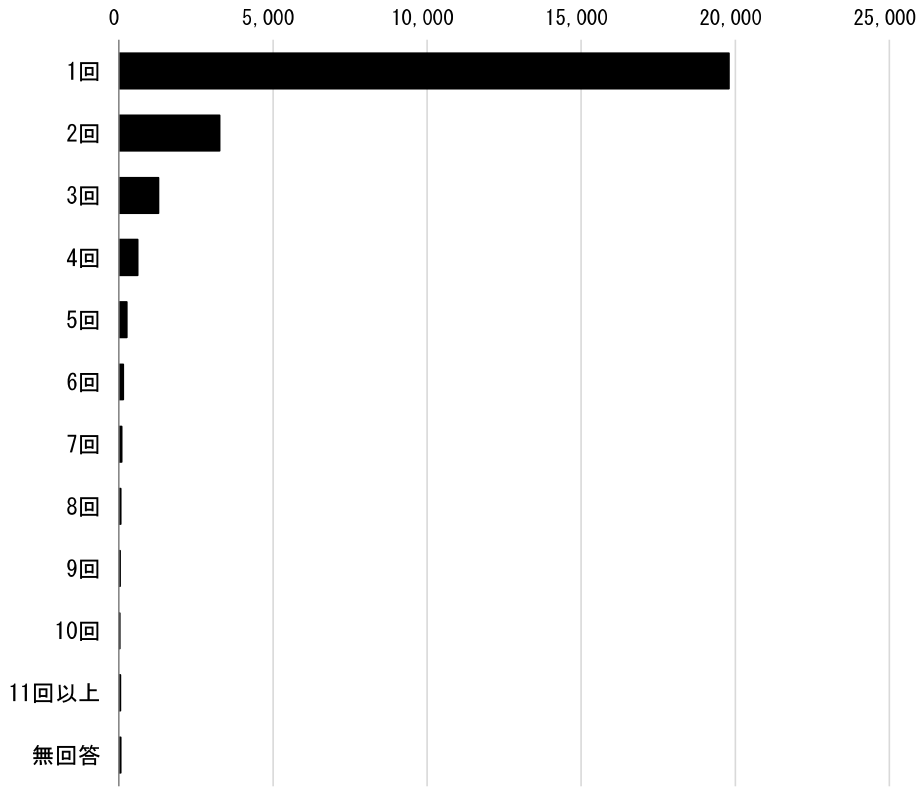


Ⅰ．11　医療機関交渉回数

消防機関の回答データによると、「1回」の割合が全体の77.2%を占め、交渉回数が増えるにつれてその割合は減少しており、平均交渉回数（表Ⅰ－11－２）は1.44回となっている。また、交渉回数が「4回以上」の件数は、合計すると1,231件（4.8%）となっている。

表Ⅰ－11－１医療機関交渉回数

	（件数）	割合（%）
総計	25,627	100.0
1回	19,794	77.2
2回	3,269	12.8
3回	1,284	5.0
4回	600	2.3
5回	255	1.0
6回	140	0.5
7回	93	0.4
8回	49	0.2
9回	31	0.1
10回	21	0.1
11回以上	42	0.2
無回答	49	0.2



消防機関の回答データによると、搬送時間（覚知から病院収容までの時間）別ではどの時間帯も基本的には交渉回数が増えるごとに全体に占める割合が減少する傾向にある。また、平均交渉回数が増加するごとに搬送時間が増加する傾向にあることから、交渉回数が搬送時間に影響していることが分かる。

表Ⅰ－11－２医療機関交渉回数別・覚知から病院収容までの時間区分別・搬送件数

（件数）　　（件数）　（分）　（分）

	総計	30分未満	30分～1時間未満	1時間～1時間30分未満	1時間30分～2時間未満	2時間以上	無回答	平均値：覚知から病院収容までの時間	中央値：覚知から病院収容までの時間
総計	25,627	2,354	17,517	4,684	785	283	4	49.61	45
1回	19,794	2,289	14,705	2,476	261	60	3	44.97	42
2回	3,269	50	2,048	997	134	40	0	57.46	54
3回	1,284	10	500	615	118	40	1	67.65	64
4回	600	0	153	323	95	29	0	75.12	71
5回	255	0	36	129	64	26	0	88.04	80
6回	140	1	18	65	34	22	0	91.94	84
7回	93	0	11	30	31	21	0	97.16	94
8回	49	0	4	16	20	9	0	94.80	97
9回	31	0	0	8	12	11	0	108.94	105
10回	21	0	2	8	5	6	0	103.52	91
11回以上	42	0	3	9	11	19	0	113.95	113
無回答	49	4	37	8	0	0	0	45.10	42
平均値：医療機関交渉回数	1.44	1.03	1.22	1.98	3.13	4.51	1.50		
中央値：医療機関交渉回数	1	1	1	1	2	4	1		

（%）

	総計	30分未満	30分～1時間未満	1時間～1時間30分未満	1時間30分～2時間未満	2時間以上	無回答
総計	100.0	9.2	68.3	18.3	3.1	1.1	0.0
1回	100.0	11.6	74.3	12.5	1.3	0.3	0.0
2回	100.0	1.5	62.7	30.5	4.1	1.2	0.0
3回	100.0	0.8	38.9	47.9	9.2	3.1	0.1
4回	100.0	0.0	25.5	53.8	15.8	4.9	0.0
5回	100.0	0.0	14.1	50.6	25.1	10.2	0.0
6回	100.0	0.7	12.9	46.4	24.3	15.7	0.0
7回	100.0	0.0	11.8	32.3	33.3	22.6	0.0
8回	100.0	0.0	8.2	32.6	40.8	18.4	0.0
9回	100.0	0.0	0.0	25.8	38.7	35.5	0.0
10回	100.0	0.0	9.5	38.1	23.8	28.6	0.0
11回以上	100.0	0.0	7.2	21.4	26.2	45.2	0.0
無回答	100.0	8.2	75.5	16.3	0.0	0.0	0.0

消防機関の回答データから交渉回数と現場滞在時間（現場到着から現場出発までの時間）別割合の関係をみると、どの時間区分も「1回」の件数が最も多く、時間区分別の平均交渉回数を見ると、「30分未満」で1.05回、「30分～1時間未満」で1.19回、「1時間～1時間30分未満」が1.77回と時間区分が大きくなるごとに平均交渉回数も増加していることが分かる。

表Ⅰ－11－３現場滞在時間区分別・医療機関交渉回数別・搬送件数

（件数）　　（件数）　（分）　（分）

	総計	30分未満	30分～1時間未満	1時間～1時間30分未満	1時間30分～2時間未満	2時間以上	無回答	平均値：現場滞在時間区分	中央値：現場滞在時間区分
総計	25,627	5,000	13,795	4,770	1,347	713	2	25.04	22
1回	19,794	4,790	11,789	2,667	407	140	1	21.38	20
2回	3,269	155	1,534	1,186	298	95	1	31.22	29
3回	1,284	23	318	541	283	119	0	39.47	37
4回	600	2	86	230	190	92	0	45.90	43
5回	255	5	25	74	77	74	0	51.06	49
6回	140	1	10	30	40	59	0	59.06	56
7回	93	1	7	17	23	45	0	62.87	57
8回	49	1	3	10	11	24	0	61.67	59
9回	31	0	0	0	7	24	0	74.42	71
10回	21	0	1	4	6	10	0	68.43	55
11回以上	42	1	1	4	5	31	0	81.67	80
無回答	49	21	21	7	0	0	0	17.92	16
平均値：医療機関交渉回数	1.44	1.05	1.19	1.77	2.72	4.23	1.50		
中央値：医療機関交渉回数	1	1	1	1	2	4	2		

（%）

	総計	30分未満	30分～1時間未満	1時間～1時間30分未満	1時間30分～2時間未満	2時間以上	無回答
総計	100.0	19.5	53.8	18.6	5.3	2.8	0.0
1回	100.0	24.2	59.6	13.5	2.0	0.7	0.0
2回	100.0	4.8	46.9	36.3	9.1	2.9	0.0
3回	100.0	1.8	24.8	42.1	22.0	9.3	0.0
4回	100.0	0.4	14.3	38.3	31.7	15.3	0.0
5回	100.0	2.0	9.8	29.0	30.2	29.0	0.0
6回	100.0	0.7	7.2	21.4	28.6	42.1	0.0
7回	100.0	1.1	7.5	18.3	24.7	48.4	0.0
8回	100.0	2.0	6.1	20.4	22.5	49.0	0.0
9回	100.0	0.0	0.0	0.0	22.6	77.4	0.0
10回	100.0	0.0	4.8	19.0	28.6	47.6	0.0
11回以上	100.0	2.4	2.4	9.5	11.9	73.8	0.0
無回答	100.0	42.8	42.9	14.3	0.0	0.0	0.0

交渉回数と傷病程度別の関係性をみると、傷病程度が軽いほど回数が多くなる傾向にあり、最も多い「軽症」で1.48回、最も少ない「死亡」で1.27回となっている。

表Ⅰ－11－４傷病程度別・医療機関交渉回数別・搬送件数

（件数）　　（件数）　（分）　（分）

	総計	死亡	重症	中等症	軽症	不明・その他	無回答	平均値：現場滞在時間区分	中央値：現場滞在時間区分
総計	25,627	209	1,743	12,664	11,008	3	0	25.04	22
1回	19,794	169	1,416	10,033	8,173	3	0	21.38	20
2回	3,269	28	182	1,433	1,626	0	0	31.22	29
3回	1,284	7	78	557	642	0	0	39.47	37
4回	600	2	26	301	271	0	0	45.90	43
5回	255	1	15	130	109	0	0	51.06	49
6回	140	1	8	70	61	0	0	59.06	56
7回	93	0	4	48	41	0	0	62.87	57
8回	49	0	2	23	24	0	0	61.67	59
9回	31	0	4	13	14	0	0	74.42	71
10回	21	0	2	10	9	0	0	68.43	55
11回以上	42	0	1	22	19	0	0	81.67	80
無回答	49	1	5	24	19	0	0	17.92	16
平均値：医療機関交渉回数	1.44	1.27	1.36	1.41	1.48	1.00	0.00		
中央値：医療機関交渉回数	1	1	1	1	1	1	0		

（%）

	総計	死亡	重症	中等症	軽症	不明・その他	無回答
総計	100.0	0.8	6.8	49.4	43.0	0.0	0.0
1回	100.0	0.9	7.1	50.7	41.3	0.0	0.0
2回	100.0	0.9	5.6	43.8	49.7	0.0	0.0
3回	100.0	0.5	6.1	43.4	50.0	0.0	0.0
4回	100.0	0.3	4.3	50.2	45.2	0.0	0.0
5回	100.0	0.4	5.9	51.0	42.7	0.0	0.0
6回	100.0	0.7	5.7	50.0	43.6	0.0	0.0
7回	100.0	0.0	4.3	51.6	44.1	0.0	0.0
8回	100.0	0.0	4.1	46.9	49.0	0.0	0.0
9回	100.0	0.0	12.9	41.9	45.2	0.0	0.0
10回	100.0	0.0	9.5	47.6	42.9	0.0	0.0
11回以上	100.0	0.0	2.4	52.4	45.2	0.0	0.0
無回答	100.0	2.0	10.2	49.0	38.8	0.0	0.0

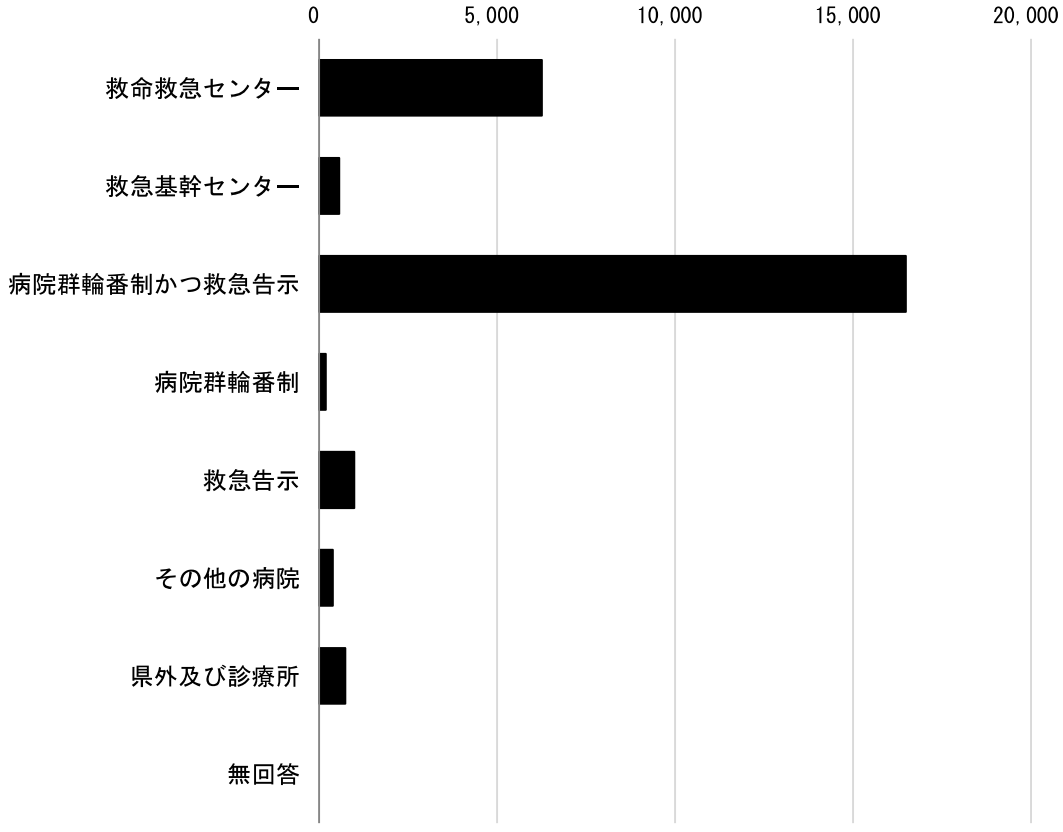
Ⅰ．12　搬送先医療機関種別

消防機関の回答データから医療機関種別の受け入れ件数をみると、「病院群輪番制かつ救急告示」が 16,481 件で全体の 64.3％を占めて多い。

次いで「救命救急センター」が 6,268 件で 24.5％となっている。

表Ⅰ－12－１搬送先医療機関種別

	（件数）	割合（％）
総計	25,627	100.0
救命救急センター	6,268	24.5
救急基幹センター	570	2.2
病院群輪番制かつ救急告示	16,481	64.3
病院群輪番制	191	0.7
救急告示	993	3.9
その他の病院	387	1.5
県外及び診療所	737	2.9
無回答	0	0.0



昼夜間別の受け入れ件数の割合をみると、「救急基幹センター」「救急告示」「その他の病院」「県外及び診療所」は「昼間」の方が、「救命救急センター」「病院群輪番制」は「夜間」の方が、それぞれ多くなっている。

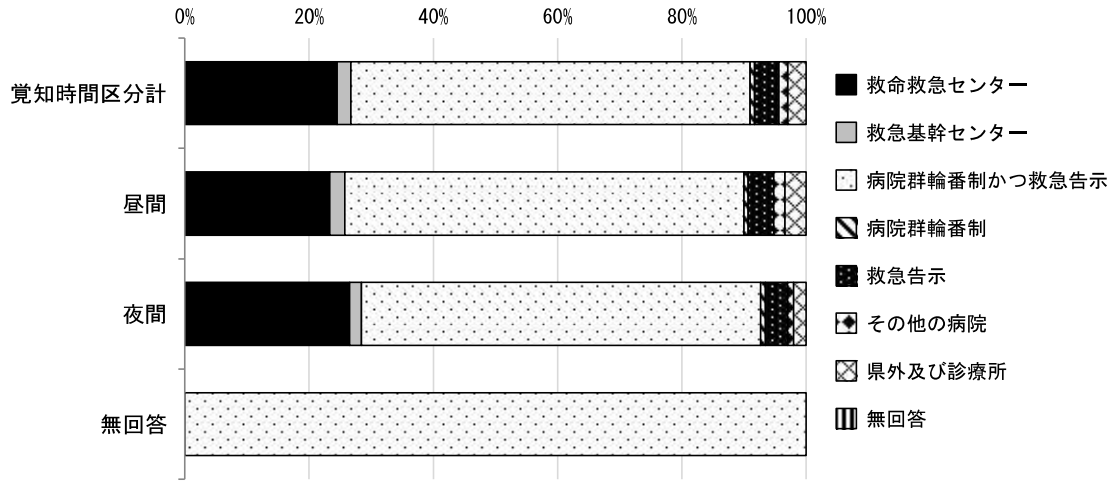
表Ⅰ－12－２覚知の昼夜間別（昼：6 時～18 時、夜：18 時～翌 6 時）・搬送先医療機関分類別・搬送件数

（件数）　　（件数）

	総計	救命救急センター	救急基幹センター	病院群輪番制かつ救急告示	病院群輪番制	救急告示	その他の病院	県外及び診療所	無回答
総計	25,627	6,268	570	16,481	191	993	387	737	0
昼間	16,697	3,899	401	10,737	122	678	296	564	0
夜間	8,928	2,369	169	5,742	69	315	91	173	0
無回答	2	0	0	2	0	0	0	0	0

（%）

	総計	救命救急センター	救急基幹センター	病院群輪番制かつ救急告示	病院群輪番制	救急告示	その他の病院	県外及び診療所	無回答
総計	100.0	24.5	2.2	64.3	0.7	3.9	1.5	2.9	0.0
昼間	100.0	23.3	2.4	64.3	0.7	4.1	1.8	3.4	0.0
夜間	100.0	26.5	1.9	64.3	0.8	3.5	1.0	2.0	0.0
無回答	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0



曜日別にみると、「病院群輪番制かつ救急告示」は「祝日」（65.7%）、「日曜日」（65.1%）の割合が、「土曜日」（64.2%）、「平日」（64.1%）より多く、「救命救急センター」は「平日」（24.5%）、「土曜日」（24.6%）の割合が、「日曜日」（24.4%）、「祝日」（22.6%）より多くなっている。

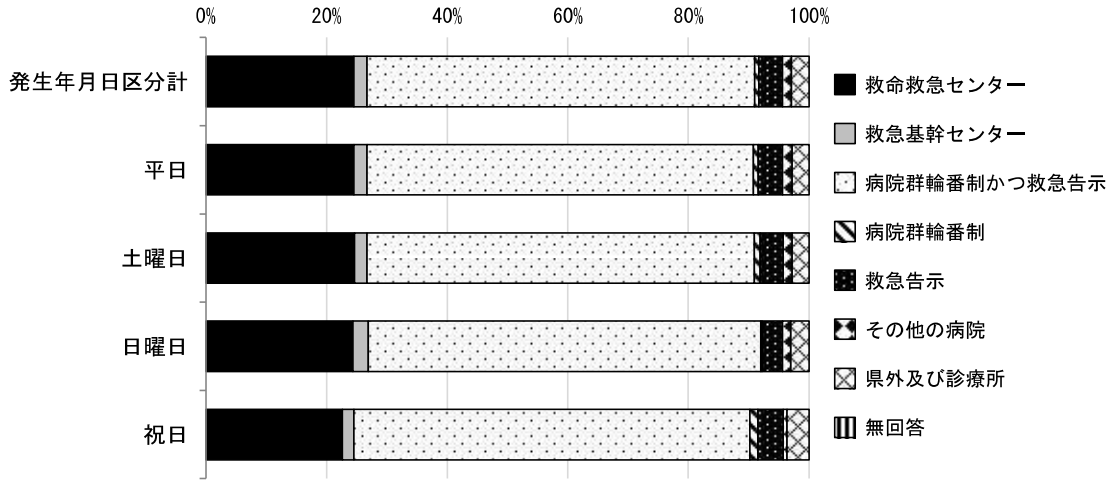
表Ⅰ－12－３発生年月日の曜日別・搬送先医療機関分類別・搬送件数

（件数）　　（件数）

	総計	救命救急センター	救急基幹センター	病院群輪番制かつ救急告示	病院群輪番制	救急告示	その他の病院	県外及び診療所	無回答
総計	25,627	6,268	570	16,481	191	993	387	737	0
平日	18,315	4,492	406	11,743	143	726	287	518	0
土曜日	3,114	767	64	2,000	31	118	48	86	0
日曜日	3,317	810	83	2,159	6	112	47	100	0
祝日	881	199	17	579	11	37	5	33	0

（%）

	総計	救命救急センター	救急基幹センター	病院群輪番制かつ救急告示	病院群輪番制	救急告示	その他の病院	県外及び診療所	無回答
総計	100.0	24.5	2.2	64.3	0.7	3.9	1.5	2.9	0.0
平日	100.0	24.5	2.2	64.1	0.8	4.0	1.6	2.8	0.0
土曜日	100.0	24.6	2.1	64.2	1.0	3.8	1.5	2.8	0.0
日曜日	100.0	24.4	2.5	65.1	0.2	3.4	1.4	3.0	0.0
祝日	100.0	22.6	1.9	65.7	1.3	4.2	0.6	3.7	0.0



傷病程度別の受け入れ件数は、傷病程度が重いほど「救命救急センター」への搬送率が多くなる傾向がみられ、「死亡」は56.0%、「重症」は49.0%におよぶ。一方、「軽症」のケースでは68.9%、「中等症」では63.8%が「病院群輪番制かつ救急告示」に搬送されるという結果になっている。

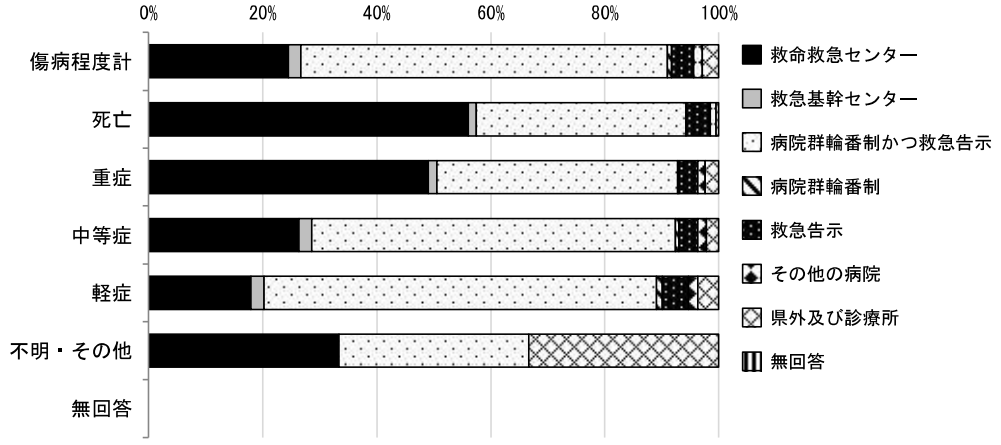
表Ⅰ－12－４傷病程度別・搬送先医療機関分類別・搬送件数

（件数）　　（件数）

	総計	救命救急センター	救急基幹センター	病院群輪番制かつ救急告示	病院群輪番制	救急告示	その他の病院	県外及び診療所	無回答
総計	25,627	6,268	570	16,481	191	993	387	737	0
死亡	209	117	3	77	0	9	2	1	0
重症	1,743	854	26	737	4	58	22	42	0
中等症	12,664	3,325	294	8,083	73	423	184	282	0
軽症	11,008	1,971	247	7,583	114	503	179	411	0
不明・その他	3	1	0	1	0	0	0	1	0
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0

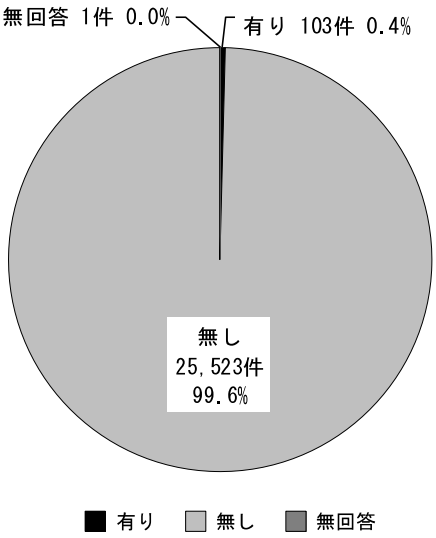
（%）

	総計	救命救急センター	救急基幹センター	病院群輪番制かつ救急告示	病院群輪番制	救急告示	その他の病院	県外及び診療所	無回答
総計	100.0	24.5	2.2	64.3	0.7	3.9	1.5	2.9	0.0
死亡	100.0	56.0	1.4	36.8	0.0	4.3	1.0	0.5	0.0
重症	100.0	49.0	1.5	42.3	0.2	3.3	1.3	2.4	0.0
中等症	100.0	26.3	2.3	63.8	0.6	3.3	1.5	2.2	0.0
軽症	100.0	17.9	2.3	68.9	1.0	4.6	1.6	3.7	0.0
不明・その他	100.0	33.4	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0



Ⅰ．13　ドクターヘリ要請

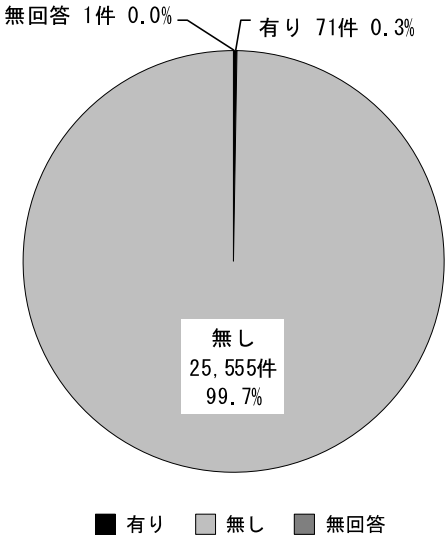
消防機関のドクターヘリの要請は、「有り」の回答が、103 件（0.4%）であった。



図Ⅰ－13 ドクターヘリ要請

Ⅰ．14　近隣市町村への応援

消防機関の近隣市町村への応援は、「有り」が 71 件（0.3%）であった。



図Ⅰ－14 近隣市町村への応援

Ⅱ．前回調査との比較

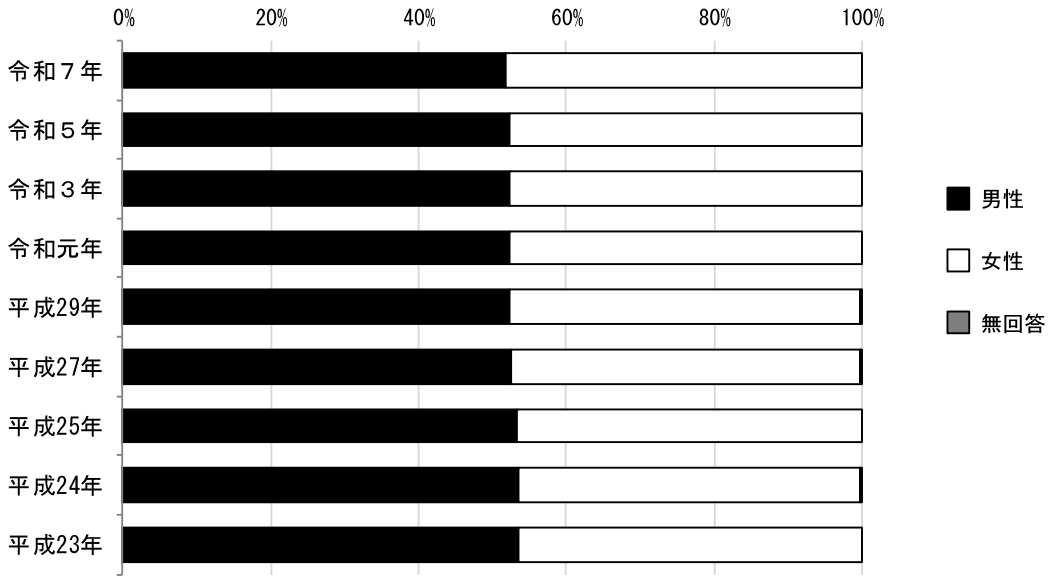
Ⅱ．１　性別・年齢

消防機関の搬送者の男女別割合は、「男性」が「女性」より多い傾向が続いている。

表Ⅱ－１－１調査年次別・性別・搬送件数

（件数）　　（％）

年次	総計	男性	女性	無回答
令和７年	25,627	51.7	48.3	0.0
令和５年	27,194	52.3	47.7	0.0
令和３年	23,602	52.4	47.6	0.0
令和元年	24,647	52.2	47.8	0.0
平成29年	23,389	52.2	47.6	0.2
平成27年	22,242	52.5	47.3	0.2
平成25年	21,135	53.3	46.7	0.0
平成24年	18,403	53.6	46.3	0.1
平成23年	20,889	53.4	46.6	0.0

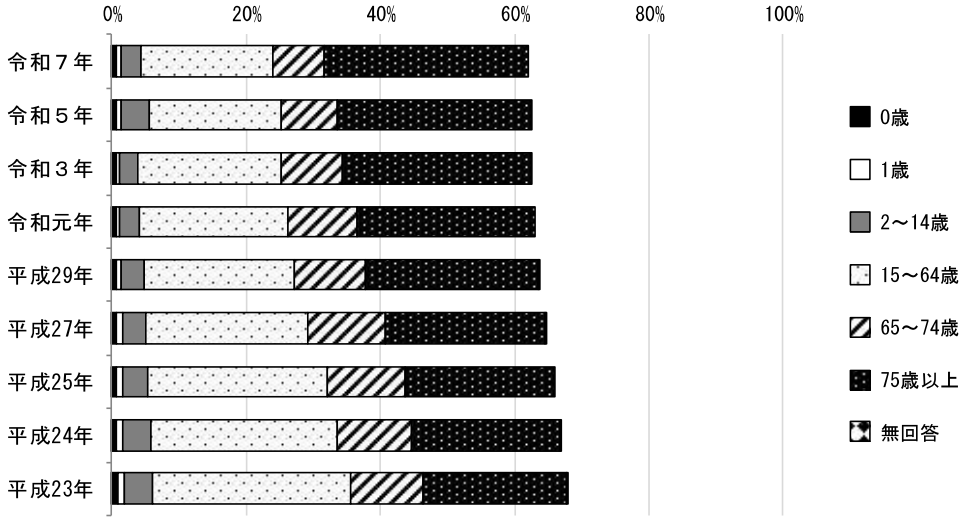


搬送者の年齢別では、調査開始以降高年齢者層の増加傾向が続き、「65 歳以上」の割合をみると平成 23 年から 13.7 ポイント増加している。

表Ⅱ－１－２調査年次別・年齢別・搬送件数

（件数）　　（%）

年次	総計	0歳	1歳	2～14歳	15～64歳	65～74歳	75歳以上	無回答	65歳未満	65歳以上
令和７年	25,627	0.9	1.1	5.0	31.7	12.4	48.9	0.0	38.7	61.3
令和５年	27,194	0.9	1.3	6.5	31.6	13.2	46.5	0.0	40.3	59.7
令和３年	23,602	0.8	1.0	4.4	33.9	14.9	45.0	0.0	40.1	59.9
令和元年	24,647	0.9	1.0	4.7	34.9	16.3	42.2	0.0	41.5	58.5
平成29年	23,389	0.9	1.3	5.2	35.3	16.7	40.4	0.2	42.7	57.3
平成27年	22,242	1.0	1.4	5.3	37.4	17.6	37.0	0.3	45.3	54.7
平成25年	21,135	1.0	1.3	5.7	40.7	17.2	34.1	0.0	48.7	51.3
平成24年	18,403	0.9	1.6	6.0	41.7	16.5	33.1	0.2	50.4	49.6
平成23年	20,889	1.2	1.4	6.3	43.5	16.1	31.4	0.1	52.4	47.6



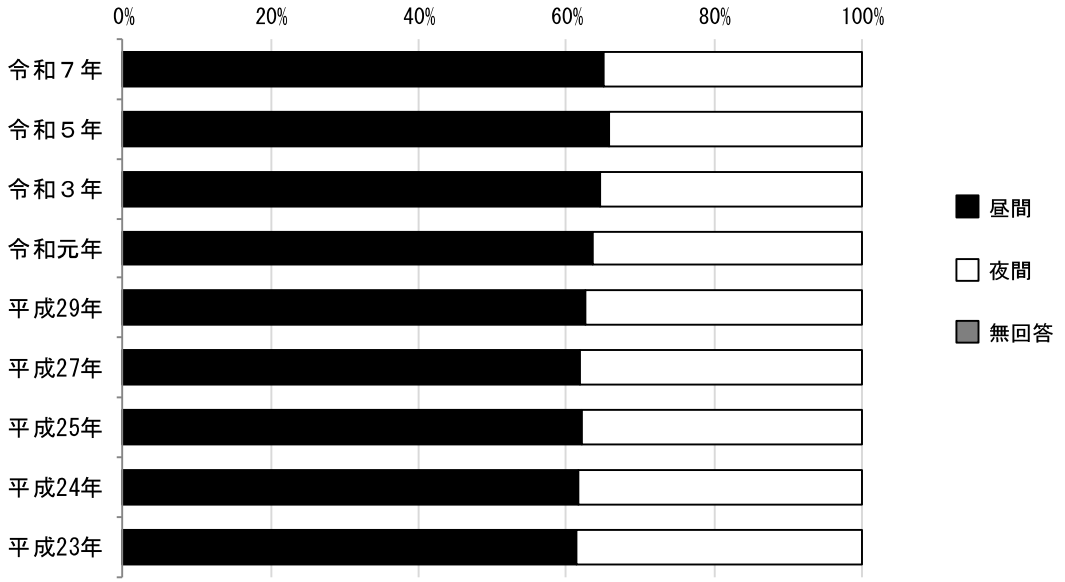
Ⅱ．２　覚知の昼：6 時～18 時、夜：18 時～翌 6 時別

消防機関の覚知の昼夜間別搬送数の割合は、調査開始以来大きな変化はみられないが、平成 29 年から「昼間」の搬送率が微増傾向にあったのが、前回調査から 0.6 ポイントの減少に転じたものの、調査開始年の平成 23 年と比較すると 3.9 ポイント増加している。

表Ⅱ－２調査年次別・覚知の昼夜間（昼：6 時～18 時、夜：18 時～翌 6 時）別・搬送件数

（件数）　　（%）

年次	総計	昼間	夜間	無回答
令和７年	25,627	65.2	34.8	0.0
令和５年	27,194	65.8	34.2	0.0
令和３年	23,602	64.5	35.5	0.0
令和元年	24,647	63.7	36.3	0.0
平成29年	23,389	62.7	37.3	0.0
平成27年	22,242	62.0	38.0	0.0
平成25年	21,135	62.1	37.9	0.0
平成24年	18,403	61.6	38.4	0.0
平成23年	20,889	61.3	38.7	0.0



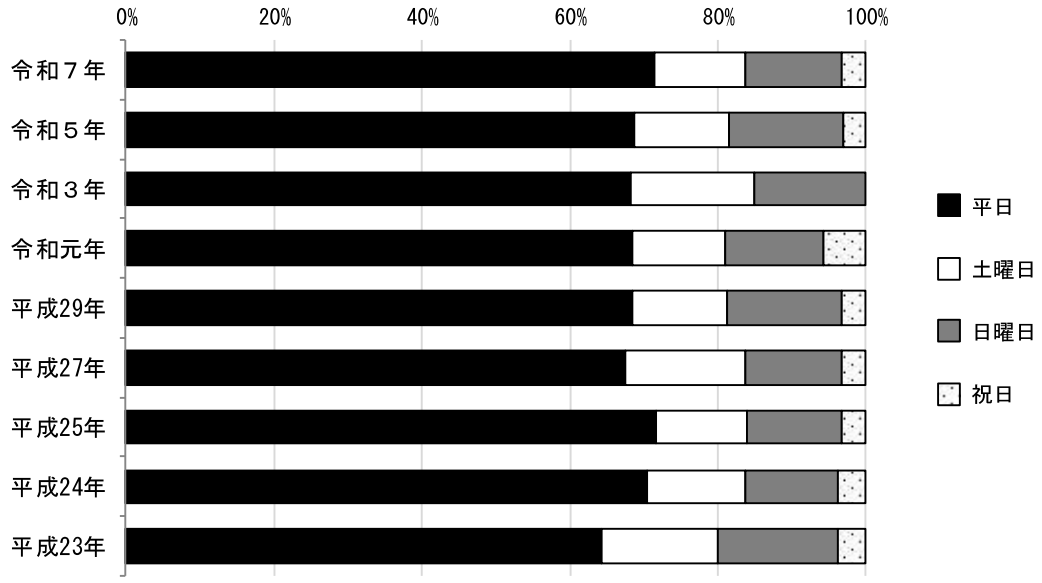
Ⅱ．３　平日、土曜、日曜および祝日別

平日、土曜、日曜及び祝日別の発生割合は、「平日」を５日間として１日当たりの発生率をみると約 14%台となり、「土曜日」「日曜日」とほぼ変わらない。すなわち、曜日による発生割合の差は特にみられない。そして、この傾向は調査開始年からほぼ変わらずに続いている。

表Ⅱ－３調査年次別・発生年月日の平日・土日祝日別・搬送件数

（件数）　　（%）

年次	総計	平日	土曜日	日曜日	祝日
令和７年	25,627	71.5	12.2	12.9	3.4
令和５年	27,194	68.6	12.9	15.5	3.0
令和３年	23,602	68.3	16.5	15.2	0.0
令和元年	24,647	68.5	12.5	13.2	5.8
平成29年	23,389	68.5	12.7	15.6	3.2
平成27年	22,242	67.5	16.2	12.9	3.4
平成25年	21,135	71.6	12.3	12.9	3.2
平成24年	18,403	70.4	13.4	12.5	3.7
平成23年	20,889	64.2	15.9	16.2	3.7



Ⅱ．４　傷病程度

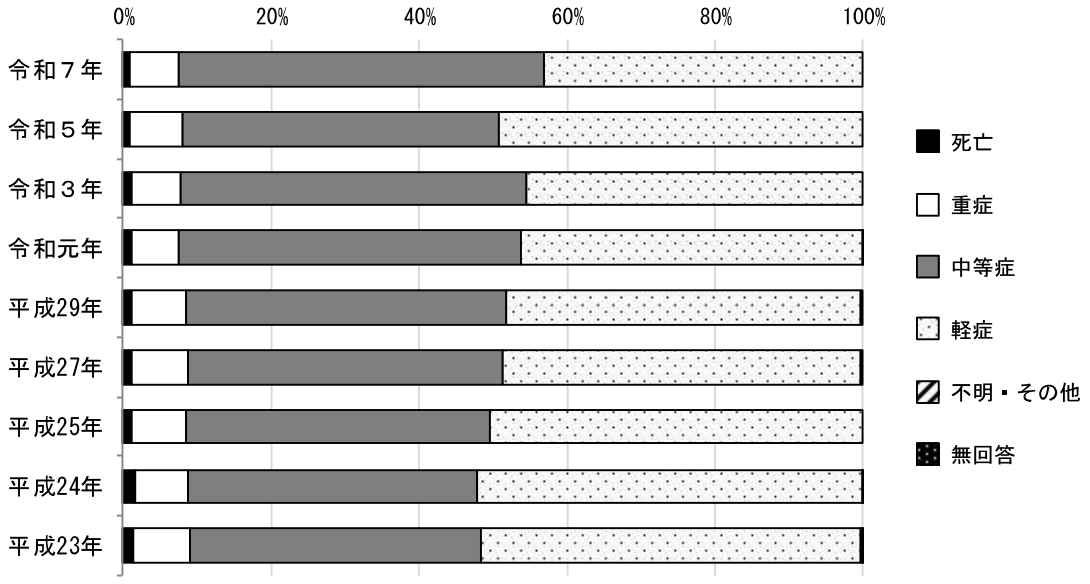
消防機関の搬送者を傷病程度別にみると、「軽症」と「中等症」の両者で90%以上を占めている点は、調査開始当初から変わらない。

平成29年までは「軽症」が最も多かったが、年々減少傾向がみられ、令和元年に「中等症」がわずかの差で逆転して最多となった。令和５年には一度「軽症」が最多に戻ったものの、今回調査では再び「中等症」が最多となっている。

表Ⅱ－４調査年次別・傷病程度別・搬送件数

（件数）　　（%）

年次	総計	死亡	重症	中等症	軽症	不明・その他	無回答
令和７年	25,627	0.8	6.8	49.4	43.0	0.0	0.0
令和５年	27,194	0.9	7.0	42.9	49.2	0.0	0.0
令和３年	23,602	1.1	6.6	46.7	45.6	0.0	0.0
令和元年	24,647	1.0	6.6	46.2	46.1	0.1	0.0
平成29年	23,389	1.1	7.3	43.4	47.9	0.0	0.3
平成27年	22,242	1.2	7.5	42.6	48.4	0.0	0.3
平成25年	21,135	1.2	7.3	41.1	50.4	0.0	0.0
平成24年	18,403	1.5	7.2	39.2	51.9	0.1	0.1
平成23年	20,889	1.4	7.6	39.3	51.4	0.1	0.2



Ⅱ．５　事故種別

消防機関の搬送者を事故種別でみると、調査開始以来「急病」が 60％を超え一番件数が多い状況が続いており、その割合は増加傾向にあったが、今回調査では前回調査から 1.2 ポイント減少している。

以下、第 2 位が「一般負傷」で毎年 15％前後、第 3 位が「転院搬送」で同 8％前後の搬送率でそれぞれ推移している。

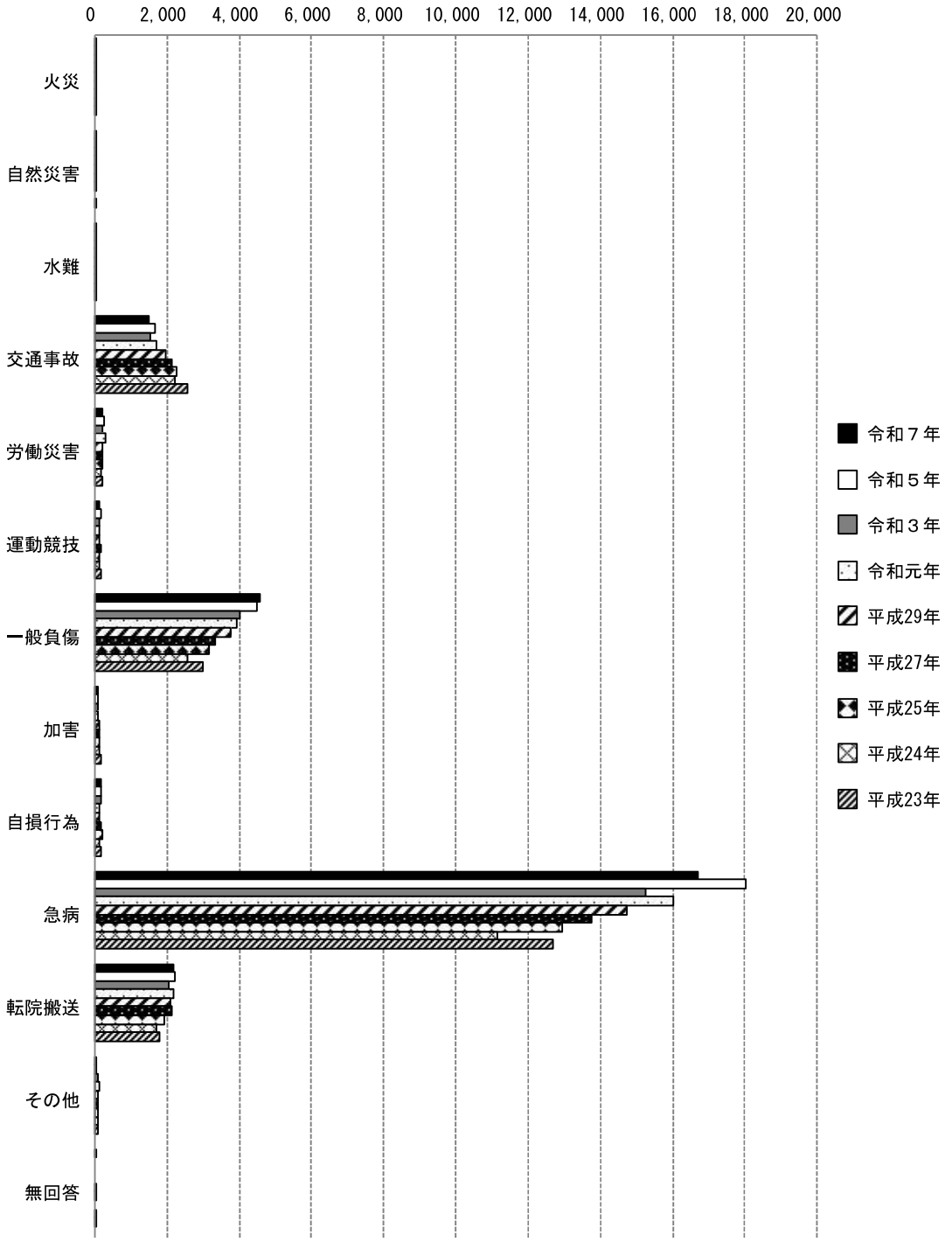
「交通事故」は、年々減少傾向が続き、調査開始年（12.2％）と比較して半数以下まで減少、平成 29 年から第 4 位となっている。

その他の種別は、いずれも 1％に満たないものがほとんどという状況が続いている。

表Ⅱ－５調査年次別・事故種別区分別・搬送件数

（件数）　（％）

	令和７年	令和５年	令和３年	令和元年	平成29年	平成27年	平成25年	平成24年	平成23年	令和７年	令和５年	令和３年	令和元年	平成29年	平成27年	平成25年	平成24年	平成23年
総計	25,627	27,194	23,602	24,647	23,389	22,242	21,135	18,403	20,889	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
火災	21	18	19	11	19	20	26	22	22	0.1	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
自然災害	1	2	10	29	16	2	18	0	2	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0
水難	6	4	9	5	2	11	4	7	13	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
交通事故	1,516	1,667	1,556	1,714	1,969	2,154	2,272	2,242	2,550	5.9	6.1	6.6	6.9	8.4	9.7	10.7	12.2	12.2
労働災害	231	260	222	289	223	215	207	162	216	0.9	0.9	0.9	1.2	1.0	1.0	1.0	0.9	1.0
運動競技	141	165	119	119	144	170	129	154	166	0.5	0.6	0.5	0.5	0.6	0.8	0.6	0.8	0.8
一般負傷	4,576	4,503	4,008	3,935	3,743	3,343	3,163	2,567	2,980	17.9	16.6	17.0	16.0	16.0	15.0	15.0	14.0	14.3
加害	93	97	91	96	134	154	152	139	164	0.4	0.4	0.4	0.4	0.6	0.7	0.7	0.8	0.8
自損行為	179	181	155	139	144	156	199	149	194	0.7	0.7	0.7	0.6	0.6	0.7	0.9	0.8	0.9
急病	16,680	18,037	15,266	15,995	14,746	13,770	12,949	11,156	12,698	65.1	66.3	64.7	64.9	63.0	61.9	61.3	60.6	60.8
転院搬送	2,175	2,231	2,050	2,202	2,117	2,136	1,936	1,703	1,782	8.5	8.2	8.7	8.9	9.0	9.6	9.2	9.3	8.5
その他	5	29	97	113	107	82	80	81	94	0.0	0.1	0.4	0.5	0.5	0.4	0.4	0.4	0.5
無回答	3	0	0	0	25	29	0	21	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0


0
2,000
4,000
6,000
8,000
10,000
12,000
14,000
16,000
18,000
20,000
火災
自然災害
水難
交通事故
労働災害
運動競技
一般負傷
加害
自損行為
急病
転院搬送
その他
無回答
令和７年
令和５年
令和３年
令和元年
平成29年
平成27年
平成25年
平成24年
平成23年

Ⅱ．６　覚知から病院収容までの時間

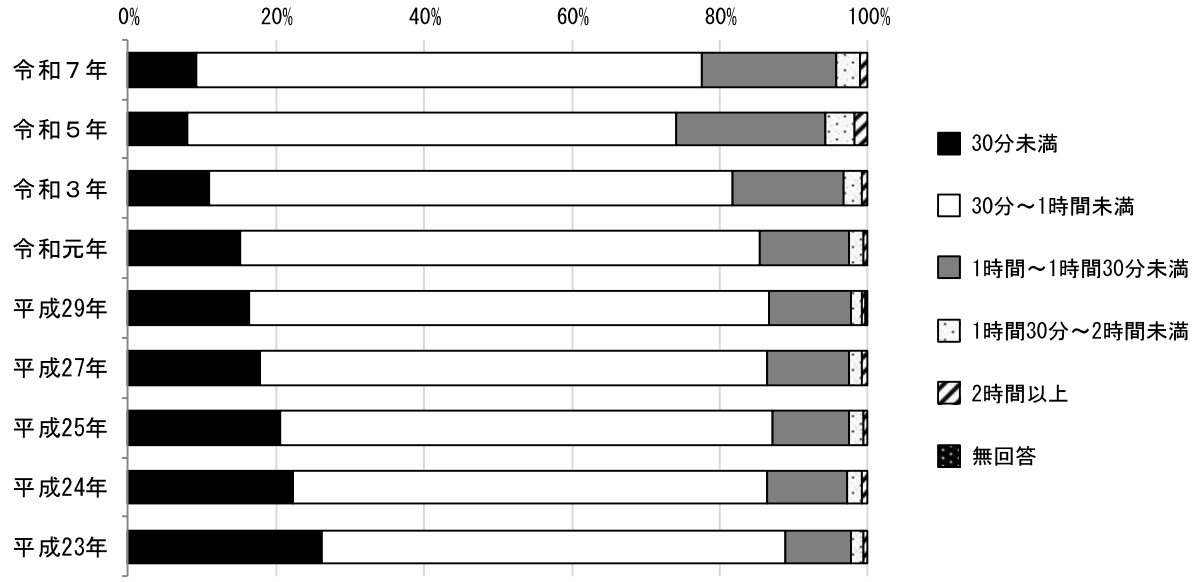
覚知から病院収容までに要した時間は、「30 分未満」「30 分～1 時間未満」の割合が前回調査よりも増加している。

「30 分未満」の割合は、調査開始年と比較して 17.0 ポイント減少。そして平均搬送時間では 7.99 分増加の 49.61 分を要しているという結果となっている。

表Ⅱ－６調査年次別・搬送時間区分別・搬送件数

（件数）　　（%）　（分）

年次	総計	30分未満	30分～1時間未満	1時間～1時間30分未満	1時間30分～2時間未満	2時間以上	無回答	平均搬送時間
令和７年	25,627	9.2	68.3	18.3	3.1	1.1	0.0	49.61
令和５年	27,194	8.1	65.9	20.2	4.1	1.7	0.0	51.80
令和３年	23,602	10.9	70.9	14.8	2.5	0.9	0.0	47.48
令和元年	24,647	15.0	70.3	12.2	1.9	0.6	0.0	44.73
平成29年	23,389	16.3	70.3	11.0	1.5	0.6	0.3	44.54
平成27年	22,242	17.9	68.6	10.9	1.7	0.9	0.0	45.49
平成25年	21,135	20.6	66.6	10.3	1.8	0.7	0.0	43.69
平成24年	18,403	22.2	64.1	10.9	1.9	0.9	0.0	43.99
平成23年	20,889	26.2	62.7	8.9	1.5	0.7	0.0	41.62



Ⅱ．７　現場到着から現場出発までの時間

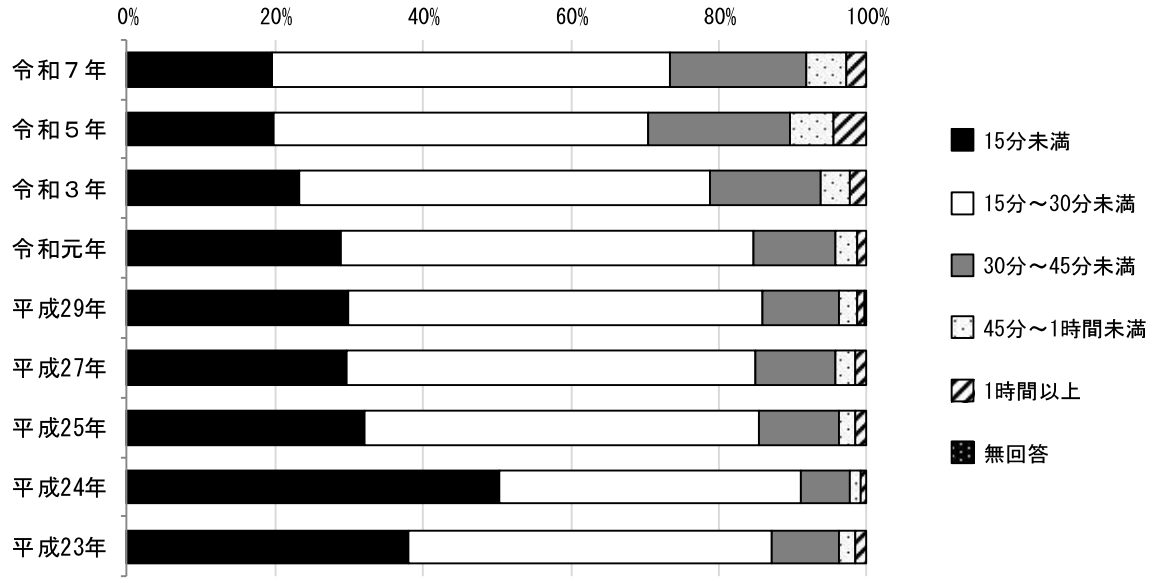
消防機関の現場滞在時間は、平成 25 年以降をみると、「15 分～30 分未満」が約 50%からそれ以上の割合を占めて多く、次いで「15 分未満」と「30 分～45 分未満」の順という傾向が続いている。

前回調査までは年々滞在時間が長くなる傾向があったが、平均滞在時間が前回調査から 1.34 分減少に転じている。しかし「30 分未満」の割合でみると、調査開始年の平成 23 年の 87.1%から 13.8 ポイントの減少となっている。

表Ⅱ－７調査年次別・現場滞在時間区分別・搬送件数

（件数）　　（%）　　（分）

年次	総計	15分未満	15分～30分未満	30分～45分未満	45分～1時間未満	1時間以上	無回答	30分未満	30分以上	平均滞在時間
令和７年	25,627	19.5	53.8	18.6	5.3	2.8	0.0	73.3	26.7	25.04
令和５年	27,194	19.9	50.6	19.0	6.1	4.4	0.0	70.5	29.5	26.38
令和３年	23,602	23.3	55.4	15.1	3.9	2.3	0.0	78.7	21.3	23.33
令和元年	24,647	29.0	55.6	11.1	2.9	1.4	0.0	84.6	15.4	21.10
平成29年	23,389	29.8	56.1	10.4	2.3	1.1	0.3	86.0	14.0	21.52
平成27年	22,242	29.6	55.4	10.8	2.6	1.6	0.0	85.0	15.0	22.63
平成25年	21,135	32.2	53.3	10.7	2.3	1.5	0.0	85.5	14.5	20.94
平成24年	18,403	50.2	40.9	6.7	1.4	0.8	0.0	91.1	8.9	16.28
平成23年	20,889	37.9	49.2	9.2	2.2	1.5	0.0	87.1	12.9	20.69



Ⅱ．８　医療機関交渉回数

消防機関の医療機関との交渉回数は、「4回未満」※というケースが、平成24年を除き、調査開始年から90%以上を占めるという状況が続いており、今回は平成29年から令和5年まで減少を続けていた傾向から増加に転じた。逆に「4回以上」は令和5年と比べ減少に転じた。

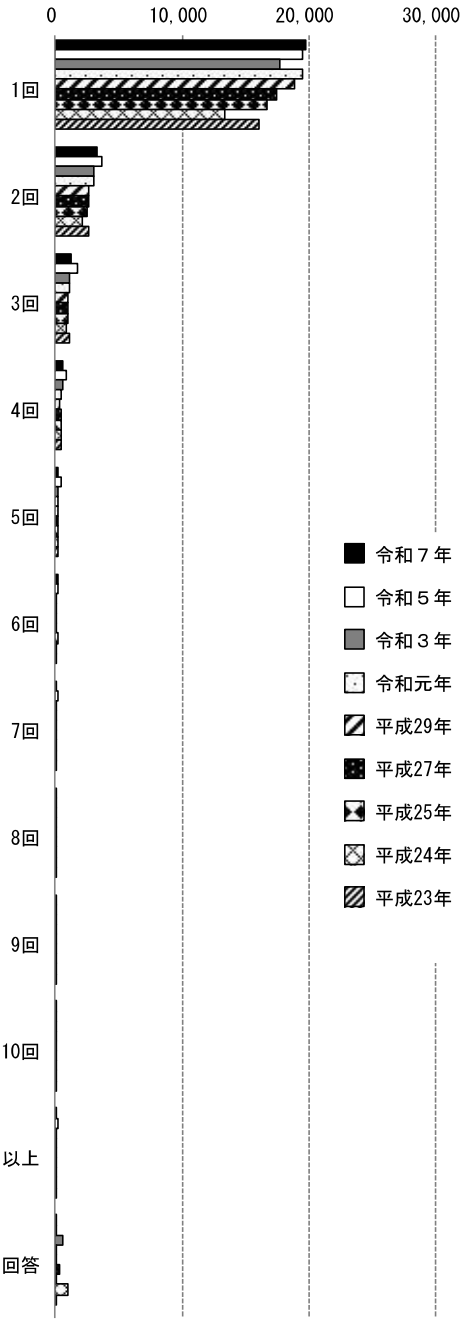
平均交渉回数でみると、今回が1.44回と前回と比べ0.25回減少し、平成29年から増加傾向にあった数値がわずかではあるが、減少方向に転じた。

なお、令和3年の「無回答」の割合が従来に比べて多い点については、令和3年度レポートで触れたように、医療機関との交渉が難航した結果、交渉回数不明となった案件が含まれることが推察される。

表Ⅱ－８－１調査年次別・医療機関交渉回数別・搬送件数

（件数）

	令和７年	令和５年	令和３年	令和元年	平成29年	平成27年	平成25年	平成24年	平成23年
総計	25,627	27,194	23,602	24,647	23,389	22,242	21,135	18,403	20,889
1回	19,794	19,535	17,761	19,461	18,933	17,538	16,666	13,423	16,118
2回	3,269	3,686	2,985	3,014	2,602	2,586	2,501	2,181	2,587
3回	1,284	1,716	1,129	1,085	951	923	966	867	1,099
4回	600	854	525	523	379	444	427	427	465
5回	255	456	222	227	207	189	218	210	228
6回	140	252	133	124	99	109	144	128	138
7回	93	190	73	65	52	68	69	73	95
8回	49	135	57	36	24	40	44	34	49
9回	31	78	31	24	5	25	32	14	23
10回	21	67	26	19	7	9	25	14	18
11回以上	42	195	50	22	12	19	42	29	26
無回答	49	30	610	47	118	292	1	1,003	43



表Ⅱ－８－２調査年次別・医療機関交渉回数の４回未満、４回以上別・搬送件数

（件数）　（件数）　（%）　（回）

	総計	４回未満	４回以上	無回答	４回未満	４回以上	無回答	平均回数
令和７年	25,627	24,347	1,231	49	95.0	4.8	0.2	1.44
令和５年	27,194	24,937	2,227	30	91.7	8.2	0.1	1.69
令和３年	23,602	21,875	1,117	610	92.7	4.7	2.6	1.45
令和元年	24,647	23,560	1,040	47	95.6	4.2	0.2	1.39
平成29年	23,389	22,486	785	118	96.1	3.4	0.5	1.33
平成27年	22,242	21,047	903	292	94.6	4.1	1.3	1.38
平成25年	21,135	20,133	1,001	1	95.3	4.7	0.0	1.43
平成24年	18,403	16,471	929	1,003	89.5	5.0	5.5	1.38
平成23年	20,889	19,804	1,042	43	94.8	5.0	0.2	1.45

（※）搬送困難事案の条件が「現場滞在時間が30分以上または5回以上」から「現場滞在時間が30分以上かつ4回以上」に令和7年度から変更となったため、4回未満・以上の数値を掲載している。

Ⅱ．９　搬送先医療機関種別

消防機関の搬送先医療機関は、平成 25 年以降※、「病院群輪番制かつ救急告示」の割合が年々増加の傾向にあったが、今回調査では 2.2 ポイント減少している。

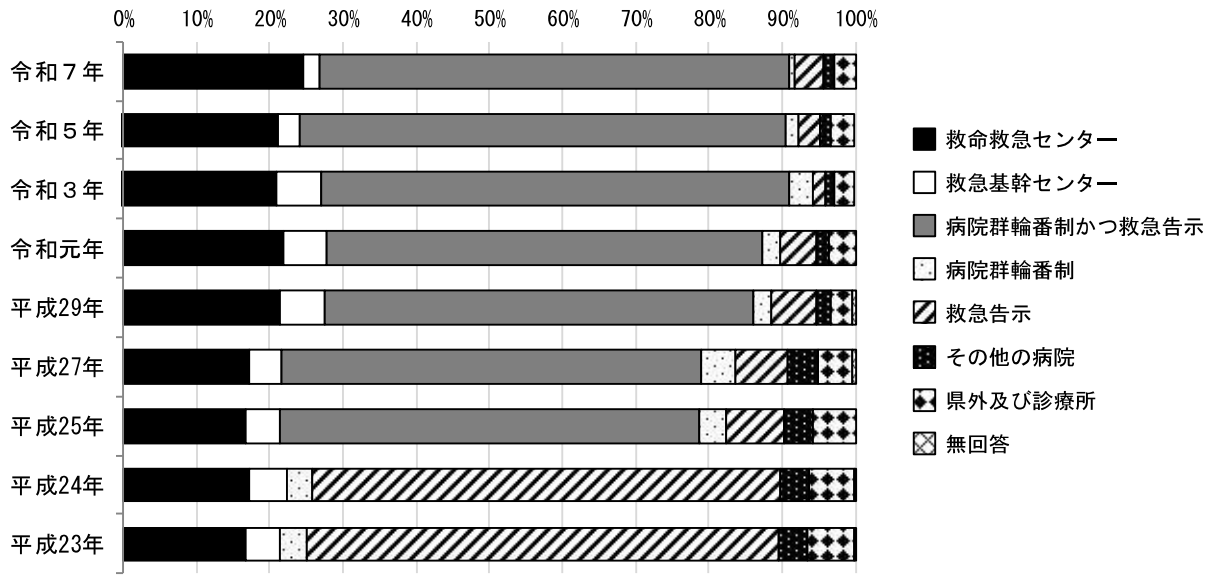
「救命救急センター」は増加傾向がうかがえ、平成 23 年と比較すると 7.8 ポイント増加している。

その他の医療機関については、搬送件数の割合がいずれも数パーセントとなっているが、「救急基幹センター」「救急告示」など年次によりバラつきがみられる。

表Ⅱ－９調査年次別・搬送先医療機関分類別・搬送件数

（件数）　　（%）

年次	総計	救命救急センター	救急基幹センター	病院群輪番制かつ救急告示	病院群輪番制	救急告示	その他の病院	県外及び診療所	無回答
令和７年	25,627	24.5	2.2	64.3	0.7	3.9	1.5	2.9	0.0
令和５年	27,194	21.1	3.0	66.5	1.6	3.0	1.5	3.3	0.0
令和３年	23,602	21.0	6.0	64.1	3.2	1.7	1.3	2.7	0.0
令和元年	24,647	21.8	5.9	59.7	2.4	4.8	1.8	3.6	0.0
平成29年	23,389	21.3	6.2	58.6	2.5	6.1	2.0	3.0	0.3
平成27年	22,242	17.2	4.5	57.2	4.7	7.2	4.1	4.7	0.4
平成25年	21,135	16.6	4.9	57.2	3.8	7.8	3.8	5.9	0.0
平成24年	18,403	17.2	5.2	0.0	3.5	63.9	3.8	6.2	0.2
平成23年	20,889	16.7	4.8	0.0	3.5	64.6	3.9	6.4	0.1



(※) 平成 23 年調査と平成 24 年調査は、「病院群輪番制かつ救急告示」の医療機関を「救急告示」に含めて集計した結果を示す。

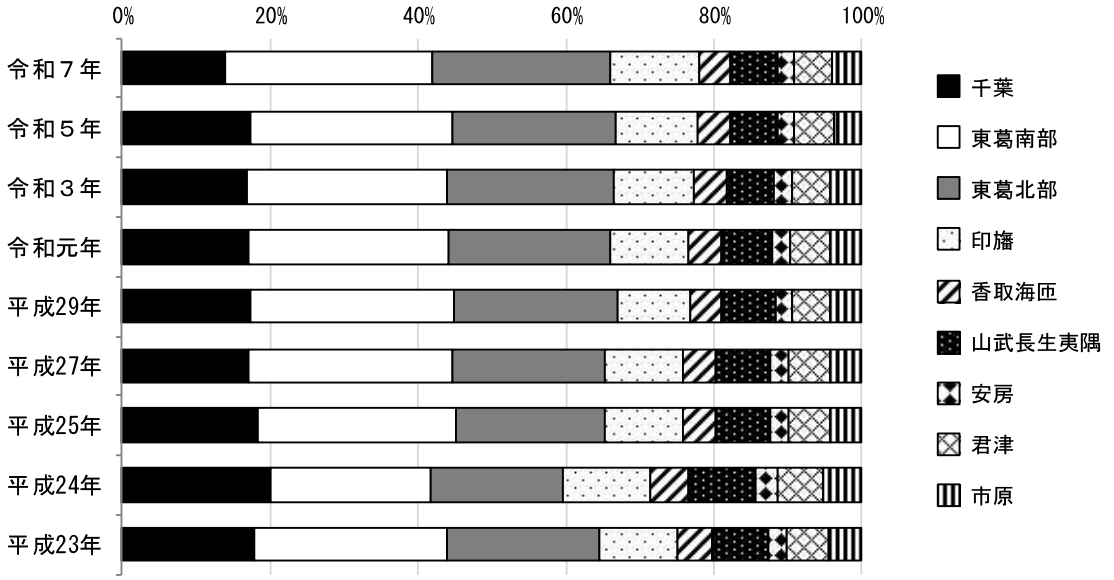
Ⅱ．10　二次保健医療圏区分

二次保健医療圏別・消防機関の搬送数では、サンプル数の最も少なかった平成 24 年を除き、「東葛南部」「東葛北部」「千葉」「印旛」「山武長生夷隅」の順に多くなる状況が続き、各年次 1～3 ポイント程度の差がみられる。

表Ⅱ－10 調査年次別・消防機関の二次保健医療圏別・搬送率

（件数）　　（%）

年次	総計	千葉	東葛南部	東葛北部	印旛	香取海匝	山武長生夷隅	安房	君津	市原
令和７年	25,627	13.8	28.1	24.0	12.1	4.2	6.4	2.3	5.0	4.1
令和５年	27,194	17.4	27.3	22.1	11.1	4.2	6.6	2.2	5.2	3.9
令和３年	23,602	16.9	26.9	22.8	10.6	4.4	6.4	2.5	5.3	4.2
令和元年	24,647	17.1	27.1	21.9	10.5	4.3	7.0	2.3	5.6	4.2
平成29年	23,389	17.4	27.4	22.1	9.8	4.3	7.3	2.3	5.2	4.2
平成27年	22,242	17.2	27.4	20.6	10.7	4.4	7.3	2.5	5.6	4.3
平成25年	21,135	18.3	26.8	20.1	10.6	4.4	7.3	2.6	5.6	4.3
平成24年	18,403	20.0	21.7	18.0	11.8	5.1	9.0	2.9	6.3	5.2
平成23年	20,889	17.9	26.0	20.6	10.6	4.6	7.6	2.6	5.5	4.6



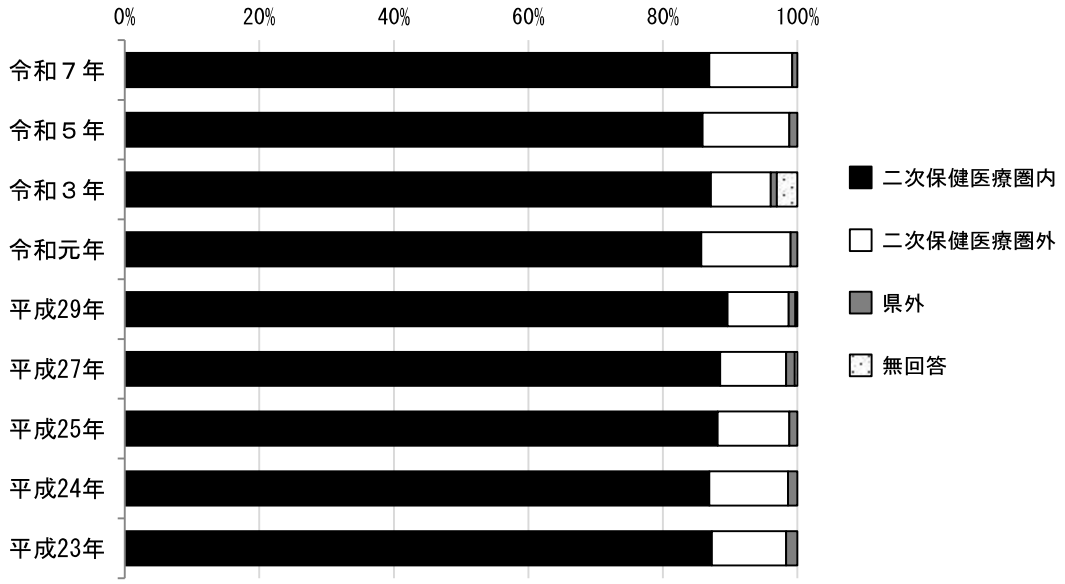
Ⅱ．11　二次保健医療圏内の患者収容状況

消防機関の搬送先は、消防機関の属する「二次保健医療圏内」である割合が 90%近くにおよび、残りの 10%程度は「二次保健医療圏外」に搬送されるという状況が続いている。

表Ⅱ－11 調査年次別・搬送先二次保健医療圏区分別・搬送率

（件数）　　（%）

年次	総計	二次保健医療圏内	二次保健医療圏外	県外	無回答
令和７年	25,627	86.9	12.3	0.8	0.0
令和５年	27,194	85.9	12.9	1.2	0.0
令和３年	23,602	87.1	8.9	0.9	3.1
令和元年	24,647	85.7	13.3	1.0	0.0
平成29年	22,442	89.6	9.1	1.0	0.3
平成27年	20,558	88.5	9.8	1.3	0.4
平成25年	19,654	88.1	10.7	1.2	0.0
平成24年	16,980	86.9	11.7	1.4	0.0
平成23年	19,247	87.3	11.0	1.7	0.0



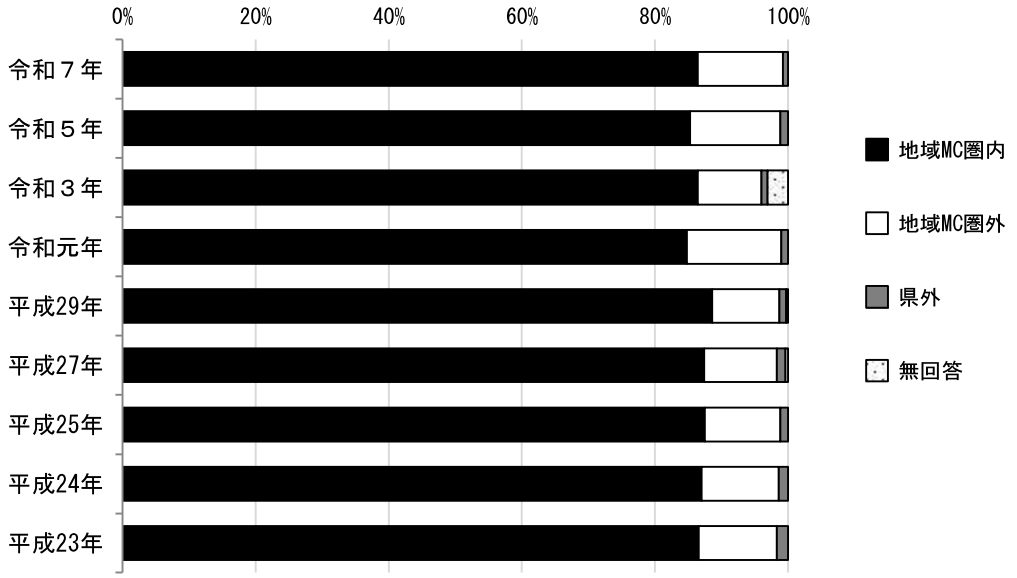
Ⅱ．12　ＭＣ圏区分内の患者収容状況

消防機関搬送先をＭＣ圏区分で分類した場合も、二次保健医療圏と同様の傾向で、「地域ＭＣ圏内」が 80％～90％近くにおよび、「地域ＭＣ圏外」の 10％前後より多いという状況が続いている。

表Ⅱ－12 調査年次別・搬送先ＭＣ圏区分別・搬送率

（件数）　　（％）

年次	総計	地域MC圏内	地域MC圏外	県外	無回答
令和７年	25,627	86.4	12.8	0.8	0.0
令和５年	27,194	85.3	13.5	1.2	0.0
令和３年	23,602	86.4	9.6	0.9	3.1
令和元年	24,647	84.8	14.2	1.0	0.0
平成29年	22,442	88.6	10.1	1.0	0.3
平成27年	20,558	87.4	10.9	1.3	0.4
平成25年	19,654	87.5	11.3	1.2	0.0
平成24年	16,980	87.0	11.6	1.4	0.0
平成23年	19,247	86.6	11.7	1.7	0.0



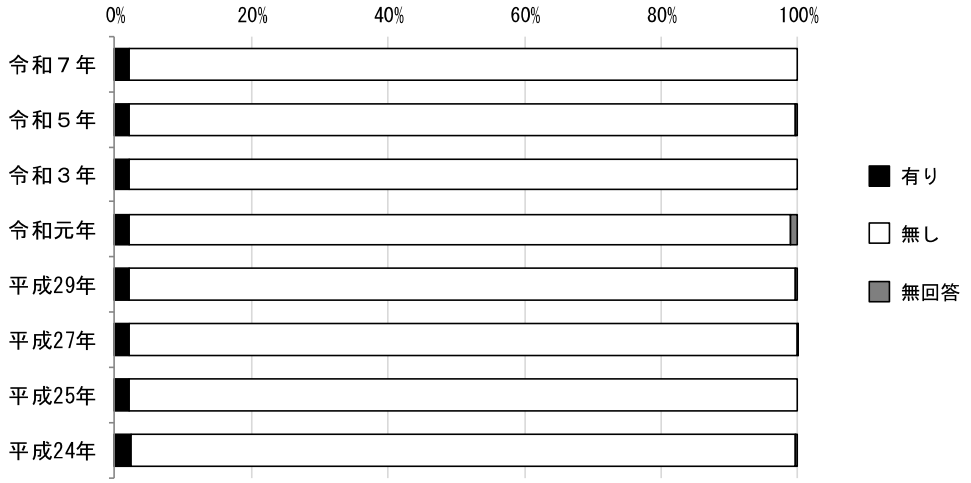
Ⅱ．13　心肺停止

消防機関の搬送者の心肺停止状況でみると、各年次 2%程度が心肺停止という状況が続いている。

表Ⅱ－13 調査年次別・心肺停止の有無別・搬送率

（件数）　　（%）

年次	総計	有り	無し	無回答
令和７年	25,627	2.0	98.0	0.0
令和５年	27,194	2.1	97.6	0.3
令和３年	23,602	2.1	97.9	0.0
令和元年	24,647	2.1	96.9	1.0
平成29年	23,389	2.1	97.6	0.3
平成27年	22,242	2.2	97.6	0.2
平成25年	21,135	2.2	97.8	0.0
平成24年	18,403	2.3	97.4	0.3



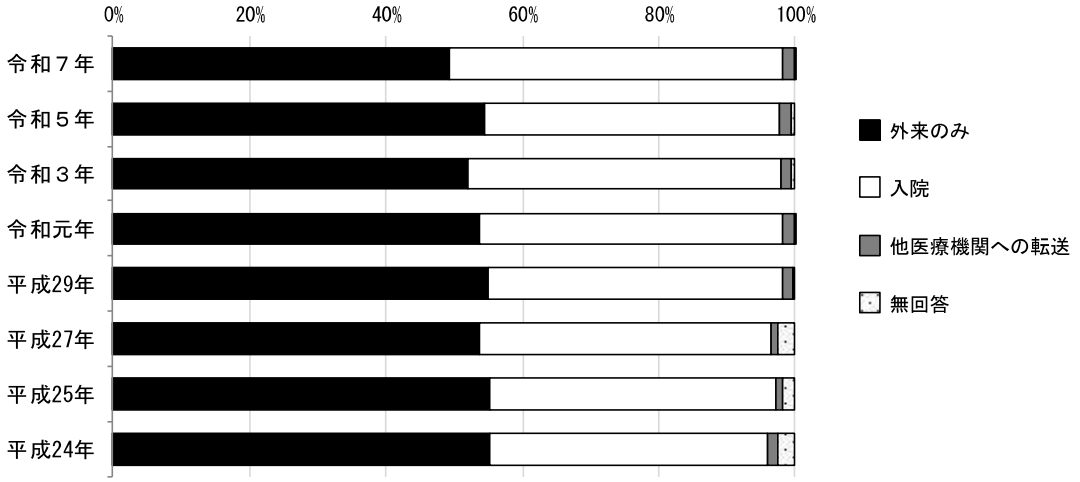
Ⅱ．14　入院の有無

突合データから、消防機関が搬送した医療機関での入院割合をみると、バラつきがみられるが、各年次 40%台で推移している。令和 5 年は 43.3%だったが、令和 7 年は 48.8%と 5.5 ポイント増加している。

表Ⅱ－14 入院の有無

（件数）　　（%）

年次	総計	外来のみ	入院	他医療機関への転送	無回答
令和７年	20,139	49.4	48.8	1.7	0.1
令和５年	21,441	54.4	43.3	1.6	0.7
令和３年	18,217	52.0	46.0	1.3	0.7
令和元年	17,768	53.7	44.6	1.5	0.2
平成29年	16,835	54.9	43.2	1.5	0.4
平成27年	16,209	53.6	42.8	1.1	2.5
平成25年	16,065	55.1	42.0	1.2	1.7
平成24年	12,808	55.1	40.9	1.4	2.6



Ⅱ．15　転帰

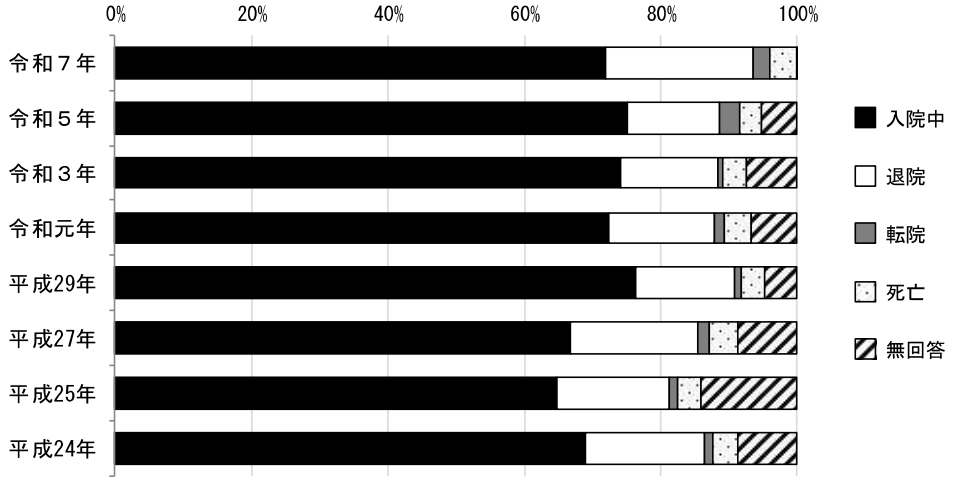
突合データから、入院患者の転帰状態をみると、「入院中」の割合が最も多い状況に変化はないものの、平成 25 年から平成 29 年、令和元年から令和 5 年にかけてみられていた増加傾向が、前回調査から 3.6 ポイント減少している。

それに伴い、「退院」の割合が令和元年以降減少傾向にあったものが前回から 8.3 ポイント増加し、調査開始以来最も多い割合となっている。

表Ⅱ－15 転帰

（件数）　　（%）

年次	総計	入院中	退院	転院	死亡	無回答
令和７年	9,821	71.6	21.8	2.5	3.9	0.2
令和５年	9,275	75.2	13.5	2.8	3.3	5.2
令和３年	8,380	74.1	14.2	0.9	3.3	7.5
令和元年	7,931	72.5	15.4	1.5	3.9	6.7
平成29年	7,267	76.3	14.4	1.1	3.5	4.7
平成27年	6,936	66.7	18.6	1.7	4.3	8.7
平成25年	6,743	64.8	16.5	1.1	3.5	14.1
平成24年	5,236	69.0	17.5	1.0	3.7	8.8



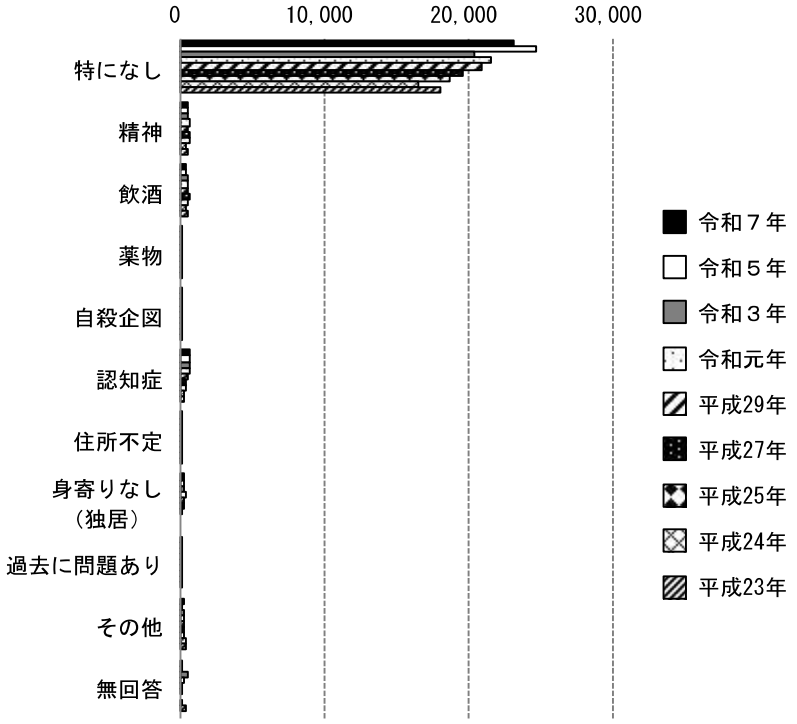
Ⅱ．16　患者背景因子

消防機関の搬送者を患者背景因子別にみると、各年次ともに「認知症」や「飲酒」「精神」などが各 2～3%である。一方、「特になし」というケースが前回調査に続き 90%台となっているものの、前回から 0.6 ポイント、わずかではあるが減少した。

表Ⅱ－16 調査年次別・患者背景因子別・搬送件数

（件数）　（%）

	令和７年	令和５年	令和３年	令和元年	平成29年	平成27年	平成25年	平成24年	平成23年	令和７年	令和５年	令和３年	令和元年	平成29年	平成27年	平成25年	平成24年	平成23年
総計	25,627	27,194	23,602	24,647	23,389	22,242	21,135	18,403	20,889	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
特になし	23,135	24,710	20,405	21,565	20,874	19,697	18,786	16,485	18,118	90.3	90.9	86.5	87.5	89.2	88.5	88.9	89.6	86.7
精神	609	519	594	675	584	643	672	488	621	2.4	1.9	2.5	2.7	2.5	2.9	3.2	2.7	3.0
飲酒	425	417	565	589	599	637	547	424	516	1.7	1.5	2.4	2.4	2.6	2.9	2.6	2.3	2.5
薬物	34	37	34	29	32	25	31	35	61	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.3
自殺企図	76	74	61	62	61	60	84	62	71	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.4	0.3	0.3
認知症	692	682	704	645	559	485	464	319	352	2.7	2.5	3.0	2.6	2.4	2.2	2.2	1.7	1.7
住所不定	16	7	11	9	13	15	23	19	15	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
身寄りなし（独居）	320	330	370	374	259	248	186	0	0	1.2	1.2	1.6	1.5	1.1	1.1	0.9	0.0	0.0
過去に問題あり	30	29	49	45	57	109	82	71	227	0.1	0.1	0.2	0.2	0.2	0.5	0.4	0.4	1.1
その他	288	231	246	321	277	258	260	418	495	1.1	0.9	1.0	1.3	1.2	1.1	1.2	2.3	2.3
無回答	2	158	563	333	74	65	0	82	413	0.0	0.6	2.4	1.4	0.3	0.3	0.0	0.4	2.0



（注）「身寄りなし（独居）」の選択肢は、平成 25 年調査から新たに加えた選択肢である。

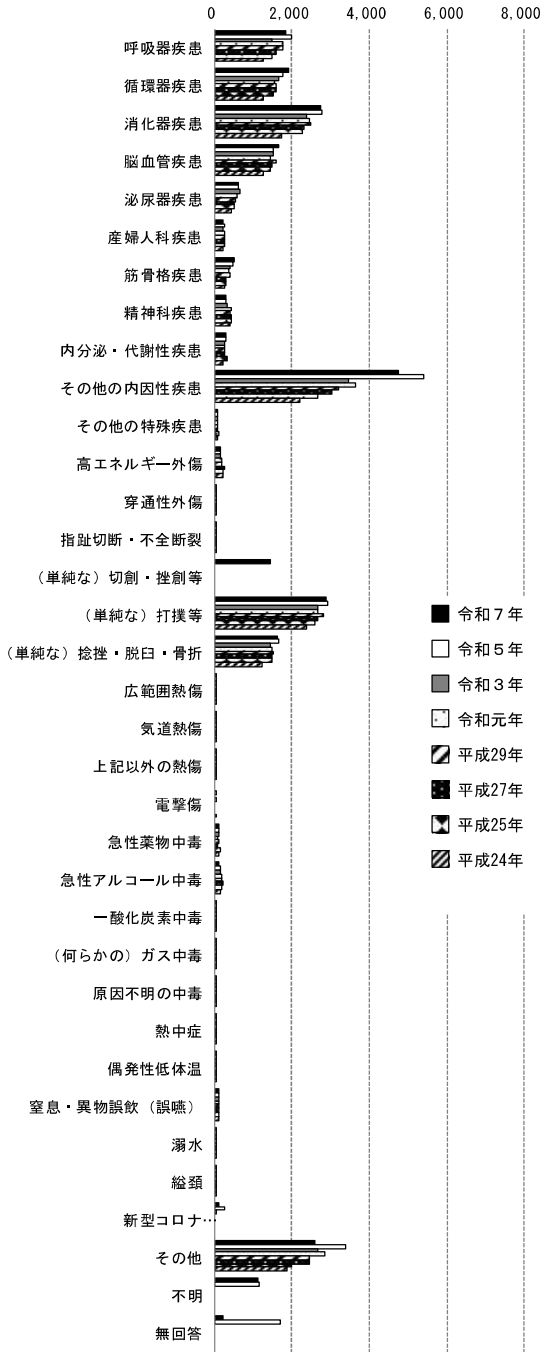
Ⅱ．17　救急隊による判断傷病名Ａ

消防機関の救急隊による判断病症名Ａは、「その他の内因性疾患」と判断されたものを除外すると、「（単純な）打撲等」「消化器疾患」「循環器疾患」「呼吸器疾患」「脳血管疾患」「（単純な）捻挫・脱臼・骨折」が上位にみられる。そして、これら上位の件数は年次を追うごとに増加傾向にあるものがほとんどである。

表Ⅱ－17 調査年次別・救急隊による判断傷病名Ａ別・搬送件数

（件数）

	令和７年	令和５年	令和３年	令和元年	平成29年	平成27年	平成25年	平成24年
総計	25,627	27,194	23,602	24,647	23,389	22,242	21,135	18,403
呼吸器疾患	1,850	1,972	1,471	1,782	1,785	1,571	1,466	1,262
循環器疾患	1,899	1,779	1,644	1,539	1,591	1,577	1,512	1,276
消化器疾患	2,744	2,782	2,395	2,435	2,491	2,298	2,257	1,733
脳血管疾患	1,677	1,523	1,512	1,461	1,599	1,478	1,459	1,259
泌尿器疾患	619	626	647	564	540	502	523	426
産婦人科疾患	220	244	208	263	264	244	269	202
筋骨格疾患	499	460	405	348	388	295	296	244
精神科疾患	298	290	319	419	393	451	438	394
内分泌・代謝性疾患	308	282	253	242	240	248	320	222
その他の内因性疾患	4,742	5,390	3,466	3,624	3,226	3,024	2,656	2,211
その他の特殊疾患	75	86	65	73	78	93	100	87
高エネルギー外傷	148	165	153	200	183	242	213	214
穿通性外傷	8	11	7	10	18	14	9	9
指趾切断・不全断裂	27	35	24	34	25	21	24	26
（単純な）切創・挫創等	1,443	0	0	0	0	0	0	0
（単純な）打撲等	2,893	2,924	2,661	2,673	2,805	2,675	2,581	2,376
（単純な）捻挫・脱臼・骨折	1,635	1,671	1,448	1,471	1,512	1,462	1,483	1,237
広範囲熱傷	2	5	7	7	4	11	4	6
気道熱傷	9	3	4	5	7	3	13	13
上記以外の熱傷	43	38	38	44	51	32	43	34
電撃傷	0	1	0	1	0	0	0	1
急性薬物中毒	119	123	105	85	102	92	146	110
急性アルコール中毒	116	136	141	171	187	203	192	142
一酸化炭素中毒	9	5	4	3	4	7	3	4
（何らかの）ガス中毒	3	4	1	4	1	2	5	4
原因不明の中毒	17	4	8	3	7	10	9	5
熱中症	26	15	29	30	15	17	18	13
偶発性低体温	12	14	15	15	8	3	16	10
窒息・異物誤飲（誤嚥）	113	111	117	107	125	120	94	94
溺水	13	9	14	12	8	15	11	11
縊頸	14	22	19	22	24	27	27	27
新型コロナウイルス	95	245	30	0	0	0	0	0
その他	2,612	3,389	2,676	2,859	2,470	2,452	1,985	1,889
不明	1,127	1,142	1,736	1,800	1,775	1,648	1,610	1,611
無回答	212	1,688	1,980	2,341	1,463	1,405	1,353	1,251



Ⅱ．18　救急隊による判断傷病名Ｂ

消防機関の救急隊による判断病症名Ｂは、「その他」を除くと、頭部、下肢、上肢、顔面などの「軽度な外傷」が多く、発症率が低い「パニック障害」「ヒステリー」「統合失調症」「うつ病」「眼科疾患」などと差がみられる。調査開始以来同様の傾向が続いている。

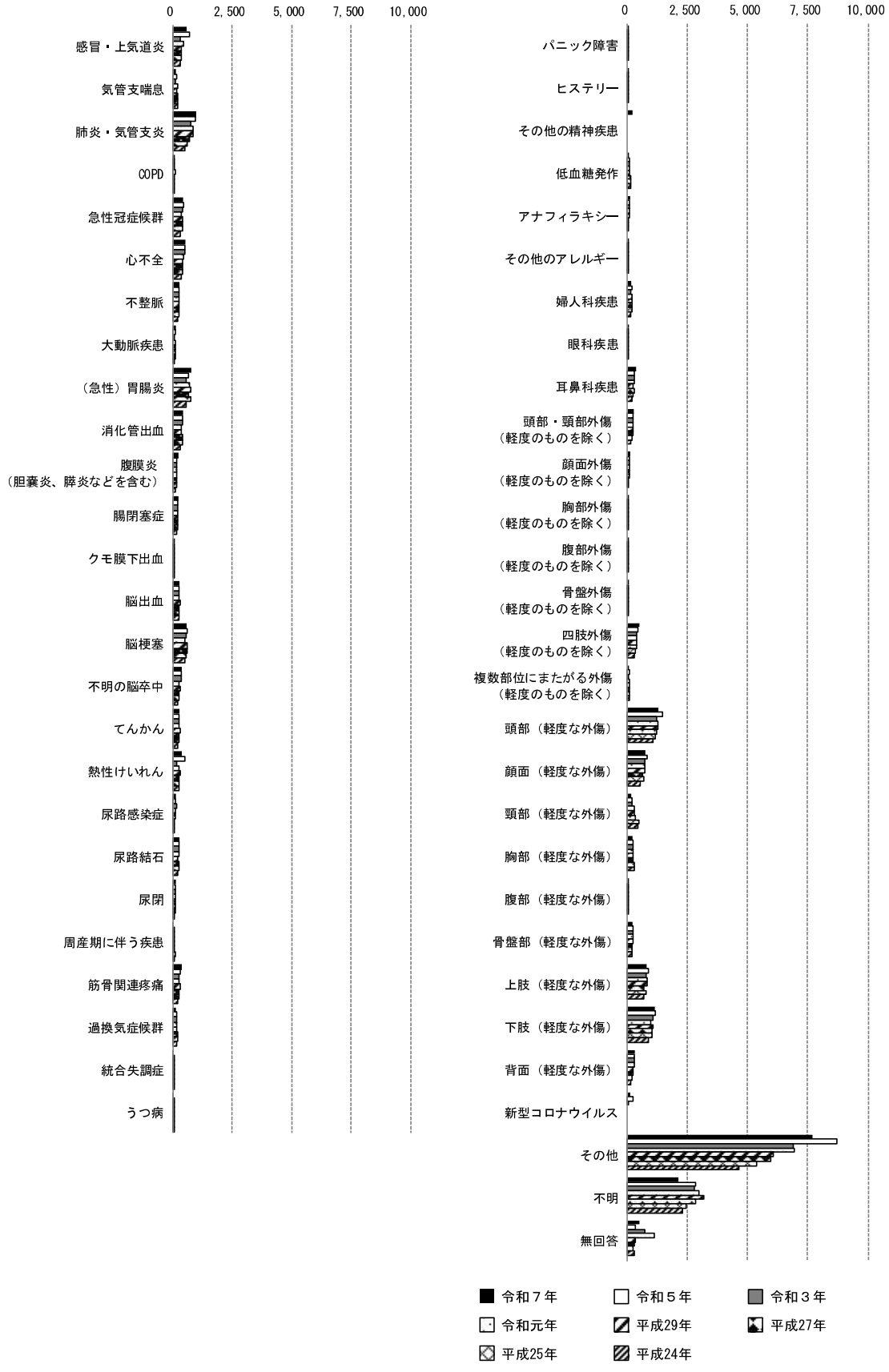
表Ⅱ－18 調査年次別・救急隊による判断傷病名Ｂ別・搬送件数

（件数）

	令和７年	令和５年	令和３年	令和元年	平成29年	平成27年	平成25年	平成24年
総計	25,627	27,194	23,602	24,647	23,389	22,242	21,135	18,403
感冒・上気道炎	579	692	304	444	358	345	359	328
気管支喘息	134	181	116	228	181	221	230	199
肺炎・気管支炎	969	949	734	834	860	719	598	527
COPD	80	69	81	96	84	79	71	71
急性冠症候群	437	461	394	359	395	385	408	323
心不全	534	513	486	435	433	433	395	349
不整脈	302	242	266	246	249	251	284	224
大動脈疾患	126	120	81	97	110	109	89	74
（急性）胃腸炎	768	665	580	727	760	648	731	549
消化管出血	412	412	398	344	361	388	387	299
腹膜炎（胆嚢炎、膵炎などを含む）	222	172	177	139	140	156	139	97
腸閉塞症	220	214	201	198	207	206	190	141
クモ膜下出血	88	81	60	84	83	80	72	65
脳出血	278	263	252	252	286	270	259	247
脳梗塞	602	605	557	522	591	599	575	488
不明の脳卒中	398	357	356	275	321	245	263	188
てんかん	279	251	274	273	305	264	241	222
熱性けいれん	365	502	171	259	326	279	253	269
尿路感染症	120	122	184	95	88	68	67	65
尿路結石	266	270	283	271	230	241	264	202
尿閉	126	134	121	122	115	106	96	79
周産期に伴う疾患	61	63	61	72	86	73	87	57
筋骨関連疼痛	373	308	282	268	289	248	239	202
過換気症候群	113	139	170	166	175	203	202	164
統合失調症	46	37	43	49	61	76	64	63
うつ病	47	42	59	57	63	75	85	76

（件数）

	令和７年	令和５年	令和３年	令和元年	平成29年	平成27年	平成25年	平成24年
総計	25,627	27,194	23,602	24,647	23,389	22,242	21,135	18,403
パニック障害	26	22	32	39	37	40	49	31
ヒステリー	8	9	7	18	13	11	13	19
その他の精神疾患	202	0	0	0	0	0	0	0
低血糖発作	96	99	96	96	119	126	159	130
アナフィラキシー	132	94	76	86	82	70	61	49
その他のアレルギー	71	61	63	62	51	65	55	49
婦人科疾患	158	179	152	192	181	175	184	145
眼科疾患	30	23	17	20	22	23	26	12
耳鼻科疾患	375	315	300	311	263	284	238	198
頭部・頸部外傷（軽度のものを除く）	283	263	229	231	242	227	202	156
顔面外傷（軽度のものを除く）	127	93	113	80	73	78	67	62
胸部外傷（軽度のものを除く）	60	52	65	59	40	56	61	59
腹部外傷（軽度のものを除く）	21	21	13	22	22	25	26	21
骨盤外傷（軽度のものを除く）	67	47	29	47	36	42	34	38
四肢外傷（軽度のものを除く）	513	421	387	401	376	381	339	284
複数部位にまたがる外傷（軽度のものを除く）	74	83	71	93	95	76	84	101
頭部（軽度な外傷）	1,305	1,473	1,231	1,290	1,280	1,235	1,173	1,093
顔面（軽度な外傷）	765	817	716	754	738	658	667	553
頸部（軽度な外傷）	180	214	179	273	302	349	490	424
胸部（軽度な外傷）	221	261	255	264	254	262	275	284
腹部（軽度な外傷）	51	60	55	40	64	66	60	54
骨盤部（軽度な外傷）	221	245	235	256	237	195	205	186
上肢（軽度な外傷）	792	891	761	811	809	690	770	665
下肢（軽度な外傷）	1,149	1,190	1,096	974	1,050	1,031	1,001	860
背面（軽度な外傷）	302	285	282	281	261	236	216	154
新型コロナウイルス	114	260	32	0	0	0	0	0
その他	7,705	8,696	6,908	6,948	6,069	5,945	5,357	4,628
不明	2,139	2,821	2,795	2,963	3,159	2,819	2,455	2,311
無回答	495	335	716	1,124	357	310	220	269


0
2,500
5,000
7,500
10,000
感冒・上気道炎
気管支喘息
肺炎・気管支炎
COPD
急性冠症候群
心不全
不整脈
大動脈疾患
（急性）胃腸炎
消化管出血
腹膜炎
（胆嚢炎、膵炎などを含む）
腸閉塞症
クモ膜下出血
脳出血
脳梗塞
不明の脳卒中
てんかん
熱性けいれん
尿路感染症
尿路結石
尿閉
周産期に伴う疾患
筋骨関連疼痛
過換気症候群
統合失調症
うつ病
パニック障害
ヒステリー
その他の精神疾患
低血糖発作
アナフィラキシー
その他のアレルギー
婦人科疾患
眼科疾患
耳鼻科疾患
頭部・頸部外傷
（軽度のものを除く）
顔面外傷
（軽度のものを除く）
胸部外傷
（軽度のものを除く）
腹部外傷
（軽度のものを除く）
骨盤外傷
（軽度のものを除く）
四肢外傷
（軽度のものを除く）
複数部位にまたがる外傷
（軽度のものを除く）
頭部（軽度な外傷）
顔面（軽度な外傷）
頸部（軽度な外傷）
胸部（軽度な外傷）
腹部（軽度な外傷）
骨盤部（軽度な外傷）
上肢（軽度な外傷）
下肢（軽度な外傷）
背面（軽度な外傷）
新型コロナウイルス
その他
不明
無回答
令和７年
令和５年
令和３年
令和元年
平成29年
平成27年
平成25年
平成24年

Ⅱ．19　搬送困難事案区分

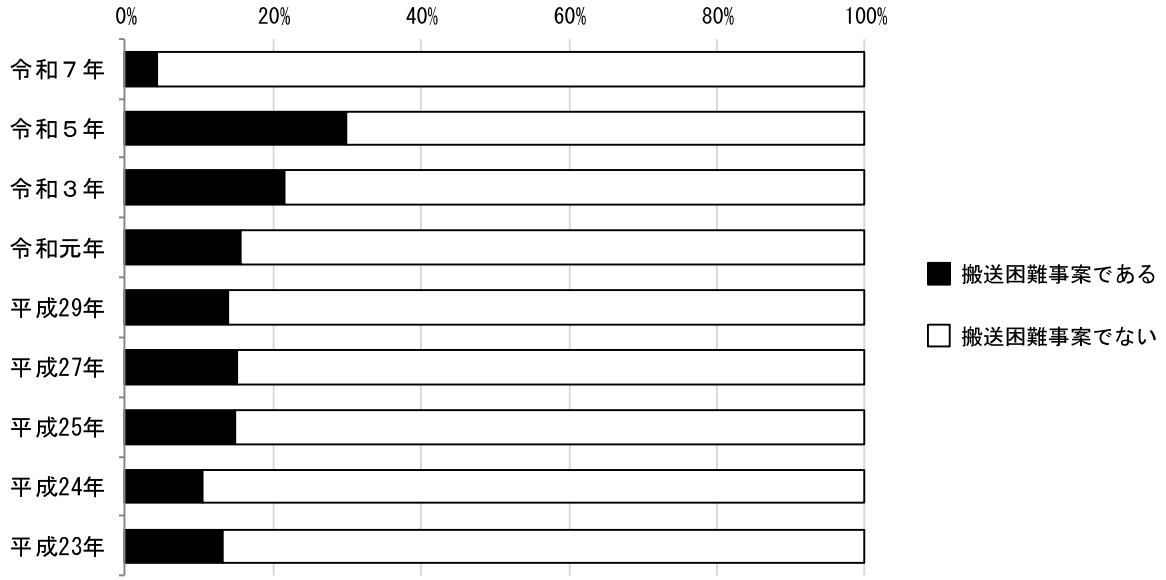
本調査では、消防機関が現場に滞在した時間が 30 分以上かつ医療機関交渉回数 4 回以上である搬送を搬送困難事案と定義する（以降「搬送困難事案」と呼ぶ）※。

「搬送困難事案」の割合は 4.2%となっている。なお、「搬送困難事案」の定義を令和 7 年から変更したことに伴い、前回調査との比較はできない。

表Ⅱ－19 調査年次別・搬送困難事案区分別・搬送率

（件数）　　（%）

年次	総計	搬送困難事案である	搬送困難事案でない
令和７年	25,627	4.2	95.8
令和５年	27,194	29.8	70.2
令和３年	23,602	21.5	78.5
令和元年	24,647	15.6	84.4
平成29年	23,389	14.0	86.0
平成27年	22,242	15.2	84.8
平成25年	21,135	14.8	85.2
平成24年	18,403	10.4	89.6
平成23年	20,889	13.2	86.8



※搬送困難事案の条件が「現場滞在時間が 30 分以上または 5 回以上」から「現場滞在時間が 30 分以上かつ 4 回以上」に令和 7 年度から変更となっている。

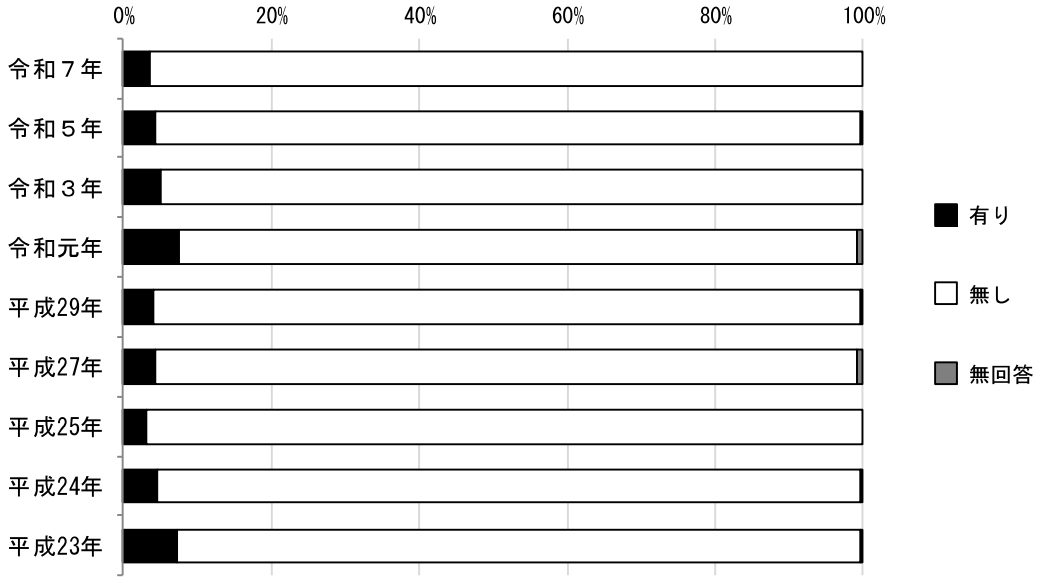
Ⅱ．20　実施基準の活用状況

消防機関の実施基準の「活用が有り」の割合は、3～7%台の間で変動しているが、令和元年から減少傾向が続き、今回は平成 25 年に次ぐ過去 2 番目の低さ（3.5%）となっている。

表Ⅱ－20 調査年次別・実施基準の活用の有無別・搬送率

（件数）　　（%）

年次	総計	有り	無し	無回答
令和７年	25,627	3.5	96.5	0.0
令和５年	27,194	4.4	95.3	0.3
令和３年	23,602	5.1	94.9	0.0
令和元年	24,647	7.5	91.7	0.8
平成29年	23,389	4.1	95.6	0.3
平成27年	22,242	4.2	95.0	0.8
平成25年	21,135	3.0	97.0	0.0
平成24年	18,403	4.6	95.1	0.3
平成23年	20,889	7.3	92.4	0.3



Ⅱ．21　実施基準を活用しなかった理由

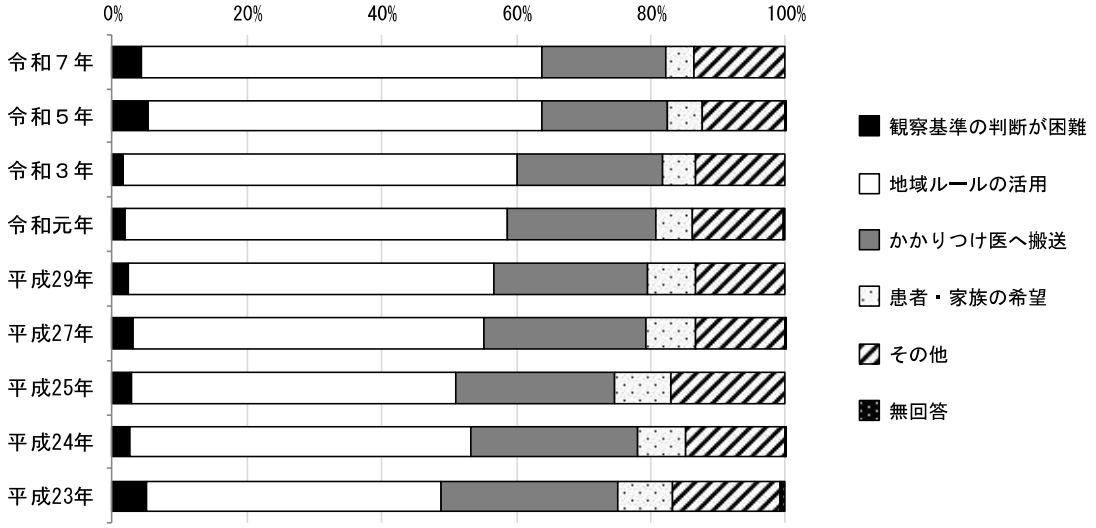
消防機関が実施基準を活用しなかった理由としては、「地域ルールの活用」という回答の割合が 40%～50%台におよぶ状況が続き、平成 23 年と比較すると令和 7 年は 15.7 ポイント増加している。

次いで多い「かかりつけ医へ搬送」は、逆に 8.0 ポイント減少している。

表Ⅱ－21 調査年次別・実施基準を活用しなかった理由別・搬送率

（件数）　　（%）

年次	総計	観察基準の判断が困難	地域ルールの活用	かかりつけ医へ搬送	患者・家族の希望	その他	無回答
令和７年	24,719	4.4	59.5	18.3	4.2	13.6	0.0
令和５年	25,919	5.4	58.3	18.7	5.1	12.4	0.1
令和３年	22,406	1.7	58.5	21.4	5.0	13.4	0.0
令和元年	22,600	1.9	56.7	22.1	5.5	13.5	0.3
平成29年	22,365	2.3	54.3	23.0	7.1	13.3	0.0
平成27年	21,125	3.2	52.0	24.1	7.4	13.2	0.1
平成25年	20,499	2.8	48.3	23.6	8.3	17.0	0.0
平成24年	17,511	2.5	50.8	24.8	7.1	14.7	0.1
平成23年	19,295	5.0	43.8	26.3	8.2	15.9	0.8



Ⅱ．22　分類基準

消防機関が実施基準を適用した搬送データにおける分類基準は、「入院が必要な症状」が最も多く30%台前半～40%台後半で推移するという状況が続いている。そして「入院が必要な症状」の割合は、令和元年をピークに減少傾向がうかがえる。

その他では、「脳血管疾患」「循環器疾患」「外傷」「重篤」などが各年次上位にみられ、「脳血管疾患」「重篤」は令和元年以降増加傾向にあり、前回減少傾向にあった「循環器疾患」は増加に転じた。

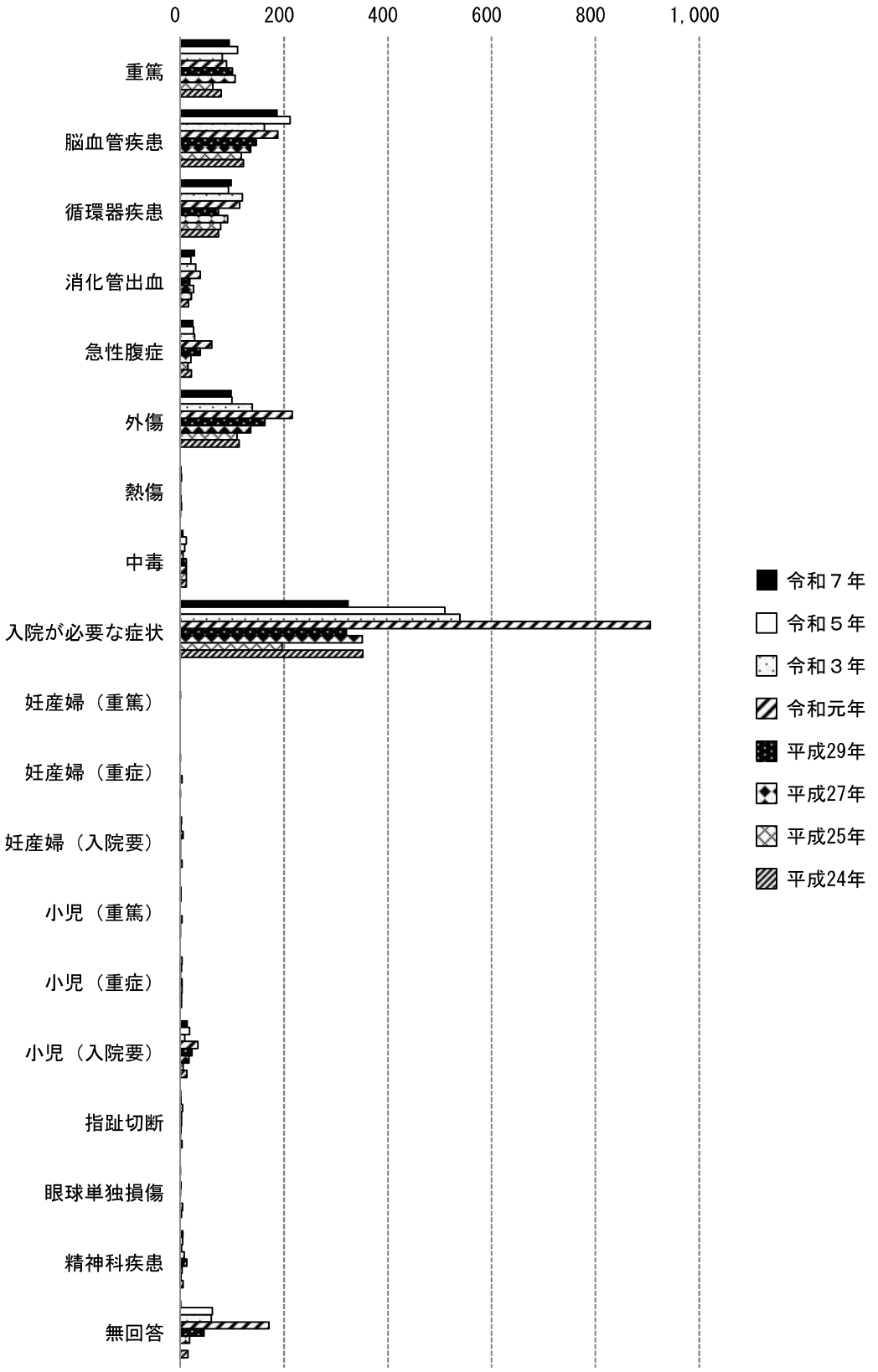
表Ⅱ－22 実施基準を活用した事例における、調査年次別・分類基準別・搬送件数

（件数）

	令和７年	令和５年	令和３年	令和元年	平成29年	平成27年	平成25年	平成24年
総計	908	1,184	1,196	1,847	967	935	636	842
重篤	96	111	81	89	101	106	63	79
脳血管疾患	188	212	162	188	147	136	118	122
循環器疾患	100	93	120	115	74	91	78	74
消化管出血	29	21	30	39	19	26	22	16
急性腹症	26	26	28	61	39	21	15	22
外傷	100	100	139	216	163	136	110	114
熱傷	1	2	3	1	1	2	3	1
中毒	7	12	9	6	12	12	12	12
入院が必要な症状	325	510	539	906	320	351	196	352
妊産婦（重篤）	2	0	0	1	0	0	0	0
妊産婦（重症）	0	0	1	0	0	4	0	1
妊産婦（入院要）	2	3	2	6	1	1	1	4
小児（重篤）	0	2	2	0	0	4	1	1
小児（重症）	2	4	3	1	4	4	3	3
小児（入院要）	15	18	9	34	23	17	6	13
指趾切断	3	2	5	3	3	2	1	4
眼球単独損傷	2	1	0	2	1	0	5	3
精神科疾患	7	5	3	8	13	4	2	6
無回答	3	62	60	171	46	18	0	15

（%）

	令和７年	令和５年	令和３年	令和元年	平成29年	平成27年	平成25年	平成24年
総計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
重篤	10.6	9.4	6.8	4.8	10.4	11.3	9.9	9.4
脳血管疾患	20.7	17.9	13.5	10.2	15.2	14.6	18.5	14.5
循環器疾患	11.0	7.9	10.0	6.2	7.7	9.7	12.3	8.8
消化管出血	3.2	1.8	2.5	2.1	2.0	2.8	3.5	1.9
急性腹症	2.9	2.2	2.3	3.3	4.0	2.3	2.4	2.6
外傷	11.0	8.4	11.6	11.7	16.9	14.6	17.3	13.5
熱傷	0.1	0.2	0.2	0.1	0.1	0.2	0.5	0.1
中毒	0.8	1.0	0.8	0.3	1.2	1.3	1.9	1.4
入院が必要な症状	35.8	43.1	45.1	49.0	33.1	37.6	30.8	41.8
妊産婦（重篤）	0.2	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
妊産婦（重症）	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.4	0.0	0.1
妊産婦（入院要）	0.2	0.2	0.2	0.3	0.1	0.1	0.1	0.5
小児（重篤）	0.0	0.2	0.2	0.0	0.0	0.4	0.1	0.1
小児（重症）	0.2	0.3	0.2	0.1	0.4	0.4	0.5	0.4
小児（入院要）	1.7	1.5	0.8	1.8	2.4	1.8	0.9	1.5
指趾切断	0.3	0.2	0.4	0.2	0.3	0.2	0.2	0.5
眼球単独損傷	0.2	0.1	0.0	0.1	0.1	0.0	0.8	0.4
精神科疾患	0.8	0.4	0.3	0.4	1.3	0.4	0.3	0.7
無回答	0.3	5.2	5.0	9.3	4.8	1.9	0.0	1.8


0
200
400
600
800
1,000
重篤
脳血管疾患
循環器疾患
消化管出血
急性腹症
外傷
熱傷
中毒
入院が必要な症状
妊産婦（重篤）
妊産婦（重症）
妊産婦（入院要）
小児（重篤）
小児（重症）
小児（入院要）
指趾切断
眼球単独損傷
精神科疾患
無回答
令和７年
令和５年
令和３年
令和元年
平成29年
平成27年
平成25年
平成24年